
ドラえもん のび太と決闘者《デュエリスト》達

剣竜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん のび太と決闘者達^{デュエリスト}

【Nコード】

N0918E

【作者名】

剣竜

【あらすじ】

決闘者の王国への招待状がスネオに届いた！決闘者の王国で起こるさまざまなデュエル！果たしてスネオはどうなるのか。（ちゃんと遊戯王のキャラも出ます。）
<http://ncode.syosetu.com/n3055g/> ドラえもんのび太とデュエル
モンスターズもよろしく！

TURN - 1 戦慄のメテオ・ドラゴン（前書き）

遊戯王デュエルモンスターズとドラえもんのコラボ作品です。キャラクターのイメージはあまり崩さないようにしています。オリキヤラやオリジナルカード（オリカ）も結構登場します。

TURN・1 戦慄のメテオ・ドラゴン

第一話 戦慄のメテオ・ドラゴン

ここは東京都練馬区のとある小学校。物語はここから始まる。

のびた「よし。僕はこのカードで攻撃」

スネオ「へへっ。僕のカードは守備力1500だから攻撃は通らないよ！」

どうやら二人はカードゲームをやっているらしい。

安雄「何やってるんだ二人とも？」

スネオ「知らないのか？デュエルモンスターズだよ。」

安雄「デュエルモンスターズ？知らないよ。」

スネオ「デュエルモンスターズっていうのは今一番流行っているゲームなのに、遅れてるな」

安雄「（チツ）で、デュエルモンスターズってどういうゲームなの？」

スネオ「説明するのも面倒くさいしこの本を読んでみるよ」

スネオがわたしたの本はどうやらデュエルモンスターズのルールが書いてある本らしい。

安雄「えっと、どれどれ…デュエルモンスターのルールは…

必要なもの デッキ 四十枚以上

サイコロ、コインなど。

ターンの流れ（このゲームでは以下のように行なう。）

ドローフェイズ メインフェイズ1 バトルフェイズ メインフェイズ2 ターン終了

ライフは2000であり、ゼロになると負け。またモンスターを召喚できなくなると負け。

カードの説明は以下のとおりになる。

モンスター このゲームの中心になるカード

例 プチリュウ（カードの名前） ノーマル（レア度）風（属性）ドラゴン（種族）

レベル2 攻撃力600 守備力700

魔法カード モンスターを補助するカード。そのほかにも妨害系などがある。

例 伝説の剣（カードの名前） レア（レア度） 装備（分類）

戦士の能力を300アップ！（効果）

スネオ「わかったか？」

安雄「うん。いまいちよくわからないなあ」

のびた「それなら僕とスネオのデュエルを見ていってよ。ルール少しはわかるんじゃない？」

安雄「そっちのほうが分かりやすくいいや」

のびた「じゃあデュエルを再開しよう。えっと僕が攻撃したからターン終了」

のびたのライフ 800 場のカード

隻眼のホワイトタイガー ノーマル 風 獣

レベル3 攻撃力1300 守備力600

スネオ「じゃあ僕のターン」

スネオのライフ 2000 場のカード

タートルタイガー ウルトラシークレット 水 獣

レベル4 攻撃力1000 守備力1500

スネオ「「メテオ・ドラゴン」を召喚！」

メテオ・ドラゴン ウルトラレア 地 ドラゴン
レベル6 攻撃力1800 守備力2000

スネオ「そしてメテオ・ドラゴンに「ドラゴンの秘宝」を装備だ！」

ドラゴンの秘宝 レア 装備

ドラゴンの能力を300アップ！

メテオ・ドラゴン 攻撃力1800 守備力2000 攻撃力
2100 守備力2300

スネオ「のびたの雑魚モンスターに攻撃！」

のびたのライフ 0

のびた「あゝまた負けた。スネオのデッキすごいレアカードばかり入っているもんなあゝ」

スネオ「うるさいつ。それよりこんな感じだけどう？分かった？」

安雄「うん。まあ大体分かったよ」

スネオ「そうだ！今日みんなで僕んち集まるからこいよ。カードあげるからさ（ノーマルだけど）」

安雄「ああ。わかった」

~~~~~

放課後：

場所は変わってスネオ邸。

スネオやのびた、先ほどよばれた安雄やジャイアンやドラえもんが  
集まっていた。

スネオ邸でこれから何が起こるのか？

今日の最強カードは「メテオ・ドラゴン」

メテオ・ドラゴン ウルトレア 地 ドラゴン  
レベル6 攻撃力1800 守備力2000

様々な可能性を秘めている竜だ。

そのままでも能力は高いがあるカードによってその能力を100%  
開花させるぞ！

## TURN・1 戦慄のメテオ・ドラゴン(後書き)

この小説で決闘があったときは絶対に「今日の最強カード」があります。(元ネタは遊戯王GX)  
他のカードのほつが強いとかは言わないでください。

TURN・2 インセクター 羽蛾VSダイナソー 竜崎 日本一は誰だ!!

スネオ「実はみんなに集まってもらったのはコレと一緒に見たかったからなんだ」

ピッ

スネオがリモコンでテレビをつける。

ジャイアン「あつ。そうか!きょうは…」

のびた「なんだっけ?」

ドラえもん「デュエルモンスターの日本大会でしょ」

のびた「あー!そうだったあー!」

安雄「へえーそんなのあるんだ」

ドラえもん「あつ。始まるみたいだよ」

一同がテレビに注目する。

~~~~~

司会「東日本代表!インセクター 羽蛾選手!14歳」

「西日本代表！ダイナソー竜崎選手！15歳」

司会「それでは優勝者決定戦を始めます！」

~~~~~

のびた「ジャイアンちよつとどいてよ〜」

ジャイアン「うるせえ。俺だっけ見たいんだ！」

ボカツ！！

ジャイアン「いっつつつ」

スネオ「うるさいな。テレビが聞こえないでしょ」

ジャイアン「そうだぞ、のびた」

のびた（自分もだろ…）

ドラえもん「あっ、途中を見逃しちゃったじゃないか」

のびた、ジャイアン、スネオ、安雄「えっもう始まつてるの？」

ドラえもん「うん。見て！」

~~~~~

司会「ダイナソー竜崎選手、恐竜族最高のレアカード『二頭を持つキングレックス』を出した！」

二頭を持つキングレックス ウルトラレア 地 恐竜
レベル4 攻撃力1600 守備力1200

羽蛾「僕のカードはこれだ！」

司会「かたや、インセクター羽蛾選手の対抗するカードは『ベーシックインセクター昆虫人間
間』（攻500）」

ベーシックインセクター
昆虫人間 ノーマル 地 昆虫
レベル2 攻撃力500 守備力300

竜崎「『キングレックス』攻撃や！死ね！」

羽蛾「ハハハハ、君は今攻撃といったね。攻撃の言葉がスイッチとなり畏カード『蟻地獄の叫び』が発動する」

竜崎「なんやと畏カードか！」

羽蛾「『キングレックス』は時空の渦に巻き込まれて動きが止まる」

蟻地獄の叫び オリジナルカード 通常罠

攻撃宣言をした相手のモンスターの攻撃力を次の自分のターン終了時まで半分にする。

竜崎「ああ、『キングレックス』！」

羽蛾「そして僕のターン。ヘーシックインセクト『昆虫人間』に装備魔法『火器付機甲鎧』を装着。」

火器付機甲鎧 ウルトラレア 装備

昆虫モンスターの攻撃力を700アップ！

羽蛾「『キングレックス』に攻撃！」

ヘーシックインセクト
昆虫人間

攻撃力500 1200

羽蛾「『キングレックス』粉碎！」

ダイナソー竜崎 ライフ3000

インセクター羽蛾 ライフ500

竜崎「ワ、ワイの負けや」

司会「この瞬間優勝者はインセクター羽蛾選手に決定しましたー！」

~~~~~

ジャイアン「すっげえ」

のびた「興奮したねー」

スネママ「スネちゃまー。宅配便で荷物がとどいてますよー」

スネオ「ん、なんだろ」

荷物を取りに部屋を出て行くスネオ。

のびた「ハァー。僕も今の人たちみたいに強くなりたいなあ」

安雄「僕もなれるかな？」

ドラえもん「がんばれば、ね……」

ガタツ！スネオが戻ってきた

スネオ「荷物の差出人がえつとI2《インダストリアル・イリュージョン》社になってる」

ジャイアン「I2《インダストリアル・イリユージョン》社ついでばデュエルモンスターズを作っている会社じゃないか！」

安雄「そんなすごいところから一体何が…」

ドラえもん「あけてみれば分かるんじゃない？」

スネオ「それもそうだ」

びりびりっ

荷物の包装紙を破り箱を開ける。そしてその中に入っていたものは…

ドラえもん「これは…変なグローブに…星型のアクセサリーとカー

ド…と手紙？」

骨川スネオ殿

あなたはデュエルモンスターズの大会で高い成績を残したため、我が社の主催する「決闘者の王国」に参加することを認められました。

「決闘者の王国」に参加する場合は、

月×日のPM9:30に童実野町の童実野埠頭に集まってください

い。  
優勝者には莫大な賞金と決闘王デュエルキングの称号が与えられます。

のびた「そういえばスネオ、東京大会で準優勝だったんだね」

スネオ「あそこでインセクター羽蛾に負けていなければなあ。」

そう。スネオは以前東京大会優勝の座をインセクター羽蛾と争ったことがあるのだ。

のびた「あれは結構いいところまで言っていたのにな」

……ざわ……ざわ……

のびた「（あれ？触れちゃいけないことだったかな）じ、じゃあそろそろ帰るね。」

ジャイアン「俺も！」

安雄「僕も！」

ドラえもん「じゃあね」

## 帰り道

のびた「げっ！もうこんなに暗くなってー！」

ドラえもん「早く帰ろうよ」

のびた「そうだね。それにしてもさっきのすごかったねー」

ドラえもん「そうだね。」

のびた「どうしたらあんなに強くなれるのかな？」

ドラえもん「まずカードを集めてたくさん決闘することだよ。のびた君のデッキの切り札ってなんだっけ？」

のびた「うん。『巨大な怪鳥』だよ」

巨大な怪鳥 ノーマル 風 鳥獣

レベル6 攻撃力2000 守備力1700

ドラえもん「それがだめだよ。もっと攻撃力の高いやつじゃないと。相手に攻撃力2000以上を出されたらどうするの？」

のびた「僕の持っている唯一のレアカードの『一角獣のホーン』を  
そうびする」

一角獣のホーン 装備 スーパーレア

装備モンスターの攻撃力を700アップさせ、電撃攻撃を可能にする！

ドラえもん「ふ、ふーん（装備カードはバランスが悪いのに…）」

のびた「まあ、それより早く帰ろう」

????「さて！」

のびた、ドラえもん「えっ」

????「決闘だ！」

????の正体とは一体誰なのか？  
それは次の話で。

今日の最強カードは「蟻地獄の叫び」

蟻地獄の叫び オリジナルカード 通常罠

攻撃宣言をした相手のモンスターの攻撃力を次の自分のターン終了時まで半分にする。

インセクター羽蛾が「二頭を持つキングレックス」に使用した、

相手モンスターの攻撃力を下げる効果を持つカードだ。

ただし実際に存在するカードではなくこの小説オリジナルのカードなので注意しよう

### TURN - 3 奪われしデッキ

突如、謎の男がのびた達に話しかけてきた。

??? 「決闘だ」

のびた 「えっ！いきなりなんだよ！」

ドラえもん 「そうだ！これから家に帰るんだから決闘なんてできないよ」

??? 「それは決闘を放棄するということか？」

のびた 「当たり前だ！あたりだつて暗くなっているし。」

そう。すでに太陽は沈み、辺りは暗くなり始めている。デュエルスペースのある主なカードショップもすでに閉店している。とても決闘なんてできる場所も無い。

??? 「それなら仕方が無い……」

いきなり男が近づき…

のびた 「うわっ！やめてっ！」

ボゴッ！

バギツ！

ドガツ！

謎の男はのびた達をボコボコにし、のびたの大切なデッキを奪っていった。

???「このカードは頂いていく。返してほしかったら俺との決闘で勝つんだな！そーしたら返してやるよ！フハハハハハ！」

のびた「う、うう…」

翌日、学校にて、

のびたが昨日の事についてみんなに話しているらしい。

ジャイアン「なに、のびたのカードが盗られた！」

のびた「うん。返してほしかったらデュエルで勝て、って言ったんだ」

スネオ「のびたが勝てるのか？」

のびた「うん…」

安雄「第一、そいつが居る場所もわからないし」

のびた「うん…」

と、そこに…

静香「あら、どうしたの？みんなで話して」

のびた「実はね…」

のびたはこれまでのいきさつを話した。

最近、「デュエルモンスターズ」が流行っている事

スネオが「決闘者の王国」という大会に招待されたこと

のびたのカードが盗まれたこと

静香「ふーん通りで最近みんな何かやっていたわけね。でもそんな大会に招待されるなんてスネオさんすごいじゃない！」

スネオ「へへ、まあ当然だね」

のびた「ゴホ、ゴホ」

安雄「今そんなことはなしてるときじゃ…」

スネオ「う、うん」

ジャイアン「でも場所が分からないんじゃない、決闘しようにもできないぜ。そいつの顔、見たのか？」

のびた「ううん」

安雄「それにその約束が本当かどうか分からないし」

のびた「うっ、たっ確かに…」

スネオ「結局できないんだよ。もう一回集めなおしたら？」

のびた「無理だよ。あのカードだってずっとおこずかいをためて買ったんだから」

静香「それなら、ドラちゃんの道具を使えばいいんじゃない？ たずねびとステッキとかタイムテレビとか…」

のびた「なるほど！いい考えだよそれ！」

ジャイアン「ドラえもんのことすっかり忘れてたぜ」

安雄「じゃあ放課後のびたの家に集まるっよ」

静香「ねえ、私も行っていい？」

スネオ「まあ、ドラえもんも付いてくるんなら安全なんじゃない？」

ジャイアン「じゃあ、放課後のびたん家で……」

放課後のびたの家。まだ誰も来ていないらしく部屋にはのびたとドラえもんの二人だけだ。

ドラえもん「えっ！タイムテレビを貸してほしいって？どうするんだよそんなの？」

のびた「僕のデッキを奪っていった奴を探すんだ」

ドラえもん「のびた君には無理だよ！危険すぎるよ」

のびた「あれは僕のデッキだよ。それを奪っていくなんて僕は絶対許せないんだ。あいつの挑戦に乗ってやるよ！」

ドラえもん「でも、その約束を本当に守るのかな？絶対守らないと思っよ」

のびた「そこはドラえもんの道具で何とかしてよ。確かそういっ道

具もあつたし」

ドラえもん「うん。でも一人じゃ…」

のびた「大丈夫。みんな一緒に来てくれるって！。あとドラえもんも一緒に来てくれない？」

ドラえもん「うん。わかったよ」

と、その時、

スネオ「おーい」

ジャイアン「のびたー」

安雄「遅れてごめーん」

静香「のびたさーん」

どうやらみんなが来たらしい。

のびた「みんなー。待ってたよー。とりあえずあがってー」

のびたの部屋にて…

スネオ「ドラえもんが一緒に来てくれるなら安心だよ」

ジャイアン「じゃあ、早速タイムテレビでそいつをみよっぜ」

ドラえもん「わかった」

ビィ〜〜ガ〜〜

タイムテレビの電源をいれる。

???? 「決闘だ」

のびた「えっ！いきなりなんだよ！」

ドラえもん「そうだ！これから家に帰るんだから決闘なんてできないよ」

???? 「それは決闘を放棄するということか？」

???? 「それなら……」

ドラえもん「ここでストップ！」

スネオ「どうしたんだドラえもん？」

ドラえもん「ここの光量を変化させて…角度も少し変えれば…。ほ

ら、顔がはつきり見えた。」

のびたのデツキを奪った男は、眼つきが悪く黄色いバンダナを頭に巻いた少年だった。

安雄「眼つき悪いな、こいつ」

のびた「いかにも不良って感じだね」

スネオ「ジャイアンとどっちが怖いかな…」

ジャイアン「なんか言ったかな、スネオ君？」

スネオ「い、いえ別に…」

ドラえもん「じ、じゃあ早速探しに行こうよ」

ジャイアン「そうだったな。じゃあみんな外へ出よう」

スネオ（助かった…）

みんなが外に出る。

ドラえもん「じゃあ倒すよ」

ポトツ！

ステツキは北北西にたおれた。

ドラえもん「向こうのほうだー！」

のびた「じゃあ、この方向を中心に探そう。」

スネオ「うん」

ジャイアン「よし。まかせろ」

安雄「わかった」

静香「ええ」

ドラえもん「じゃあ、タケコプターを渡すから。見つけたら知らせてくれ。」

ドラえもんたちはのびたのカードを奪った男を探しにいった…。

TURN - 4 カードを取り戻せ！デュエルスタンバイ！（前書き）

この話にも決闘がありません。せっかく遊戯王ドラえもんの小説なのに…

TURN - 4 カードを取り戻せ！デュエルスタンバイ！

そしてちょうどその頃…

「クソツ！なんだこれ！クズカードばかりじゃねえか！」

眼つきの悪く黄色いバンダナを巻いた少年が広い倉庫のようなところで叫んでいる。

「もう一人の方」「どういうことだ。お前は確かにヤツのデッキを奪ってきたのか？」

そこに、ドラム缶の上から、別の眼つきの悪い少年が話しかける。しかしこちらの少年は黒色のツンツンヘアをしている。

「はい、シユウさん。だってヤツが家から出たところを襲ったんですよ。『骨川スネオ』を」

「シユウという名前らしい。しかし今言ったことはいったい。昨日襲われたのはのびだった。」

シュウ「ヤツのデッキは超レアカードが大量に投入されていると聞いたが…」

????「でも確かにヤツの家の前で…」

シュウ「そいつの顔は見たのか？神崎？」

神崎「え、ええ」

あの時、周りに明かりは無く顔など見ることが出来無かった。このとき神崎は、人違いかもしれないと思った。

シュウ「大体なぜ奪ったときに確認しなかったんだ」

怒った口調で言うシュウ。当然といえば当然だろう。

神崎「そ、それは…」

シュウ「もういい。お前は顔を見られているんだろ。俺が行ってく  
る」

シュウが今までいたドラム缶の上から降りようとするとしたその時、

「その必要は無い!!!」

いきなり倉庫の扉が開いた。外の光が薄暗い倉庫に入ってくる。

神崎「!」

シュウ「何だ!」

突然のことで驚く神崎とシュウ。

ジャイアン「のびたのカードを返せ!」

シュウ「何のことだ?」

のびた「昨日そのバンダナした奴にデッキを取られたんだ!」

神崎「えっ！」

シュウ「昨日…。お前のデッキとはもしかしてこれのことか？」

シュウがのびたのデッキからカードを引き、カードの名前を挙げていく。

シュウ「マンイーター、巨大な怪鳥、バーグラー、猛獣の歯、ウィルミー…」

のびた「それだ！僕のデッキだよ！」

シュウ「神崎！お前！昨日は『骨川スネオ』のデッキを奪いに行くといっていたはずだ！どういうことだ！」

神崎「えっと…それは…」

スネオ「本当なら僕が狙われていたのか…」

痛いところを突かれてしまい言葉に詰まる神崎。無理も無い。今適当に考えたいいわけである。欺き通せる訳が無い。

のびた「そんなことより、昨日の約束、守ってもらおうよ」

神崎「約束だと！何のことだ」

のびた「昨日、決闘で勝てば返してくれるって言ったじゃないか！」

神崎「知らん！そんなこと！」

どこまでもシラをきる神崎。と、そこに、

シュウ「神崎。デッキは返してやれ」

突如、神崎に向かって叫ぶシュウ。

神崎「えっ！シ、シュウさん」

シュウ「もともと人違いだったんだ。それにこんなカード欲しくも無い」



突然の宣言に驚くドラえもん達。

のびた「そんな馬鹿な！」

ドラえもん「も、もし、断ったら？」

シュウ「力づくで奪うまでだ」

安雄「そんな！」

静香「ひどすぎるわ！」

神崎「流石シュウさん。その手があったか！」

スネオ「大体こっちが勝つたらどうする気だよ！」

尤もな意見だ。確かにこのままでは一方的過ぎる。

シュウ「それもそうだ。ならばもしお前らが勝つたら、俺の持つレアカード、『ファイヤー・ウイング・ペガサス』のカードをやるう」

ファイヤー・ウイング・ペガサス ウルトラレア

炎属性 獣族 レベル6

攻撃力2250 守備力1800

神崎「し、シュウさんいくらなんでもそのカードは…あんたの持つ一番のレアカードじゃあ…」

シュウ「どうした？神崎。負けなければいいだけの話だ。それとも自信が無いのか？」

神崎「…分かりましたよ」

重いプレッシャーが神崎にのしかかる。

一方ドラえもん達のほうでは、小声で誰が闘つかを決めようとしていた。

ジャイアン「おい、誰が闘う?」

スネオ「あ、あいにく今日はデッキを家に忘れて…(僕のレアカードデッキが奪われたら大変だよ。持ってない振りしよう)」

スネオは闘わない気らしい。

ジャイアン「じゃあ、安雄、お前やるか?」

安雄「負けたらカード取られちゃうんでしょ。僕プレッシャーに弱いんだ。ごめん」

安雄も無理のようだ。

ジャイアン「そういわれると自信なくなってきたなあ」

静香「みんながんばってよ！」

ドラえもん「そうだよ」

ジャイアン「そんなこと言われてもしようがないじゃんか」

戦う前から戦意を失いかけているジャイアン達。

しかし、そこに、

のびた「僕が闘うよ！」

のびたがいかにも自信ありげに言う。その顔はいつもよりもたくましく見える。

スネオ「僕らの中でも一番弱いお前が勝てるわけ無いじゃないか」

ジャイアン「そうだ。無茶だぞ」

のびたを止めようとするスネオとジャイアン。無理も無い。負ければカードを全て奪われてしまうのだ。

のびた「あれは僕のデッキなんだ。それを自分で取り返さなかったらカードが可哀想だよ！」

神崎「どうやらやる気になったようだな。あっちにデュエルテーブルがあるからそこで決闘だ」

先ほどの態度とは打って変わって自信に満ちている神崎。

神崎「(闘うのはあののびたってヤツか。それなら楽勝だ)」

ジャイアン「無茶だ！俺とかわれ！」

シュウ「駄目だ。もう決まったことだ」

倉庫の隅の方の小型のテーブルを指差す神崎。ぱっと見ただけのボロテーブルにしか見えないが、よく見るとデュエルフィールドを模し

た紙がおかれている。

神崎（ククク…お前のデッキがゼロカードを寄せ集めて作ったデッキだということはさっき見て知っている。どうせカード同士のシナジーも皆無だろう。だが俺のデッキは違っぜ）

デュエルテーブルに備え付けられた椅子に座り、デッキをスタンバイさせる神崎とのびた。それに伴いドラえもん達もデュエルテーブルの周りに集まる。シュウはそのままドラム缶の上に居る。

神崎「さあ、始めるぜ」

のびた「うん…」

辺りを沈黙が包み込む。声を立てるものは誰も居ない。

神崎&のびた「決闘!!!」

のびた「いくぞお!!!」

神崎「来い！俺のデッキに勝てるかな？」

今日の最強カードはファイヤー・ウイング・ペガサス。

ファイヤー・ウイング・ペガサス ウルトラレア

炎属性 獣族 レベル6

攻撃力2250 守備力1800

炎の属性を持つ強力な獣族だ。また、飛行能力も備えている万能モンスターだぞ。

TURN - 4 カードを取り戻せ！デュエルスタンバイ！（後書き）

次の話ではいよいよ（やっと）決闘のシーンがあります。

TURN - 5 魔鏡降臨！ デビルズ・ミラー

神崎&のびた「決闘！！」

のびた「先行は僕だ！ドロー！『バーグラール』を守備表示」

バーグラール ノーマル  
地属性 獣族 レベル3  
攻撃力850 守備力800

テーブルの上にカードがおかれる。守備表示なので横向きだ。

のびた「ターン終了」

そして神崎のターンに入る。

神崎「俺のターン。ドロ。『デッドシャーク』を攻撃表示！『バ  
ーグラ』に攻撃！」

デッドシャーク ノーマル  
闇属性 アンデッド族 3レベル  
攻撃力1100 守備力700

神崎「俺のカードのほうが能力が高い。よって『バーグラ』は消  
滅するぜ」

のびた「僕のカードが…。でも守備表示だったからダメージは無し  
だよ」

カードが守備表示の場合、攻撃された側がダメージを受けることは  
無い。先行は守備表示で様子を伺うのが決闘の常識である」

神崎「チッ。まあいい。ターン終了」

のびた「僕のターン。ドロ」

ドローカード

魔菌

魔菌 ノーマル

装備魔法 植物族を成長させ、攻撃力を300ポイントアップさせる。

のびたの手札

電気トカゲ ノーマル

地属性 雷族 3レベル

攻撃力850 守備力800

このモンスターを攻撃したアンデッド族以外のモンスターは次のターン攻撃できない。

オオカミ ノーマル  
地属性 獣族 3レベル  
攻撃力1200 守備力800

空の昆虫兵 ノーマル  
風属性 昆虫族 3レベル  
攻撃力1000 守備800  
風属性モンスターと戦闘したとき攻撃力が1000ポイントアップする。

ウィルミー ノーマル  
地属性 獣族 4レベル  
攻撃力1000 守備力1200

のびた「『ウィルミー』を召喚。守備表示にしてターン終了」

ウィルミーの守備は1200。一方、神崎のデッドシャークは攻撃力1100。攻撃力で勝てなくてもウィルミーは守備は高い。しかし、

神崎「俺のターン。ドロー！『ゼミアの神』召喚だ！『ウィルミー』を攻撃。破壊！」

ゼミアの神 ノーマル

闇属性 悪魔族 4レベル

攻撃力1300 守備力1000

次のターンでウィルミーは破壊されてしまった。しかし、このルールではプレイヤーへの直接攻撃は許されていない。のびたはそこに救われた。

神崎「ターン終了だ」

のびた「ドロー」

ドローカード

魔性の月

魔性の月 ノーマル

装備魔法 獣戦士族モンスターを凶暴化させ、攻撃力を300ポイントアップさせる。

のびた「『電気トカゲ』守備表示。ターン終了」

電気トカゲはアンデット族モンスター以外からの攻撃を受けたときそのモンスターの動きを1ターン封じる能力をモンスターである。

しかし神崎のフィールドにはアンデットモンスターのデッドシャークが存在する。この時はただの壁モンスターとして出されたようだ。

神崎「ドロー。『転職の魔境』召喚。守備。『デッドシャーク』で『電気トカゲ』を攻撃。ターン終了」

転職の魔境 ノーマル  
闇属性 悪魔族 3レベル  
攻撃力600 守備力1300

のびた「(段々相手のフィールドにモンスターが増えていく…何か良いカードを引かないと…)ドロー」

ドローカード

眠れるシシ

のびた「やった!『眠れるシシ』守備表示」

眠れるシシ ノーマル  
地属性 獣族 4レベル  
攻撃力700 守備力1700

神崎「ちつ、また壁モンスターか。厄介だな。『モリンフェン』召喚。ターン終了」

モリンフェン ノーマル  
闇属性 悪魔族 5レベル  
攻撃力1550 守備力1300

のびた「ドロー。カードをふせる」

ドローカード

プリブエントラット

のびたは先ほど引いた魔菌のカードを伏せた。この状況では使えないのでブラフのためだろう。

プリブエントラット  
地属性 獣族 4レベル  
攻撃力500 守備力2000

のびた「『プリブエントラット』召喚。ターン終了」

神崎「守備力2000の壁モンスターか…」

ジャイアン「よしっ！いいモンスターを召喚したぞ！」

スネオ「でも壁モンスターなんか出しても時間稼ぎにしかないよ。このままでは負けるよ」

ジャイアン「確かにそうだけど…。でも、のびたは絶対勝つ！」

神崎「（このままターンを流し、切り札が手札に来るのを待つ気か。）  
（ドロー…）」

ドローカード

アン・ガード・マジック

神崎「フフフフ・・・ワハハハ！このカードを使えばその壁モンス  
ターを倒すことが出来るぜ」

神崎「俺はカードを一枚ふせてターン終了」

のびた「（何だろう。あのカードは）（ドロー。ターン終了）」

ドローカード

マンイーター

マンイーター ノーマル  
地属性 植物族 2レベル  
攻撃力800 守備力600

神崎「ドロー！」

ドローカード

悪魔鏡の儀式

神崎「ククク…」

のびた「？」

神崎「罨カード発動！『アン・ガード・マジック』！」

のびた「『アン・ガード・マジック』？何それ？」

神崎「効果はフィールドを見れば分かるぜ」

のびた「！！『プリブエントラット』が攻撃表示に！」

神崎「『アン・ガード・マジック』は相手の守備を永続的に封じるカードだ。これでお前は守備を取れなくなった」

アン・ガード・マジック     アニメオリジナルカード  
永続罫

効果 このカードがフィールド上に存在する限り、相手プレイヤーはモンスターを守備表示に出来ない。（すでに守備表示のモンスターは攻撃表示になる）

このカードを発動したターンは攻撃できない

神崎「さらに儀式魔法『悪魔鏡の儀式』発動」

悪魔鏡の儀式     スーパーレア

儀式魔法

効果 フィールドか、手札からレベルが6以上になるようにモンスターを生贄にささげ、『デビルズ・ミラー』を降臨させる。

神崎「俺はフィールドの『転職の魔境』と手札のモンスターを生贄にし、『デビルズ・ミラー』を降臨させるぜ！」

デビルズ・ミラー スーパーレア  
闇属性 悪魔族 6レベル  
攻撃力2100 守備力1800

神崎「これが俺の切り札、『デビルズ・ミラー』だ！」

のびた「『プリブエントラット』の攻撃力は500…、デビルズミラーは2100…。大ダメージをくらっちゃおうよ！」

神崎「そうさ、しかし『アン・ガード・マジック』の効果で次のターンまで攻撃が出来ない。しかし、決着は次のターンで付くぜ」

少々安心するのびた。しかしこのドローで逆転のカードを引かないと負けてしまう。全てはこのドローにかかっている。

神崎「ターン終了だ」

のびた「（このドローで何かいいカードを引かないと負けちゃう…）。

デッキも全部取られたら。ジャイアン達、怒るだろうな……頼むよ……来て……」

ドローカード

右手に盾を左手に剣を

のびた「（や、やったあー引いた……）僕はこのカードを発動！『右手に盾を左手に剣を』！」

神崎「『右手に盾を左手に剣を』だと！そのカードは……」

のびた「このカードはフィールド上のモンスター全ての攻撃力と守備力を入れ替えるカードなんだ！」

神崎「（そっいえば奴のデッキにはあのカードが入っていた……。っ！しまった！）」

右手に盾を左手に剣を ノーマル

通常魔法

効果エンドフェイズ終了時まで、このカードの発動時に存在していたフィールド上の全ての表側表示モンスターの元々の攻撃力と元々の守備力を入れ替える。

デッドシャーク

攻撃力1100 攻撃力700

ゼミアの神

攻撃力1300 攻撃力1000

モリンフェン

攻撃力1550 攻撃力1300

デビルズミラー

攻撃力2100 攻撃力1800

神崎「俺のモンスターの攻撃力と守備力が入れ替わった、だとお！」

のびた「それだけじゃないよ……」

プリブエントラット

攻撃力500 攻撃力2000

眠れるシシ

攻撃力700 攻撃力1700

のびた「僕のフィールド上の『プリブエントラット』と『眠れるシシ』も攻撃力と守備力が入れ替わる！」

神崎「くそっ！ただの壁モンスターが高攻撃力を持つモンスターになった！と、いうことは……まさか！」

のびた「『プリブエントラット』と『眠れるシシ』で『デッドシャーク』と『ゼミアの神』に攻撃！」

プリブエントラットがデッドシャークを、眠れるシシがゼミアの神

に攻撃する。

神崎ライフ2000 7000

神崎「くそっ！俺がこんなヤツに負けただど！」

のびた「やった！やったよ！みんな！」

スネオ「すごいよ、のびた！」

ジャイアン「俺達の中でも一番弱いお前があいつを倒すなんて！」

安雄「これでカードを取られなくてすむね」

のびた「やった！勝ったんだ！僕が！あいつに！勝ったんだあ！」

今日の最強カードは

『悪魔鏡の儀式』

悪魔鏡の儀式 スーパーレア  
儀式魔法

効果 フィールドか、手札からレベルが6以上になるようにモンスターを生贄にささげ、『デビルズ・ミラー』を降臨させる。

生贄をささげることで『デビルズ・ミラー』を儀式召喚できる儀式魔法だ。

儀式召喚は特殊召喚扱いなので『デビルズ・ミラー』を出してももう一体モンスターを出せるぞ。

TURN・5 魔鏡降臨！ デビルズ・ミラー（後書き）

『アン・ガード・マジック』は昔の遊戯王の映画に出てきたカードです。『守備封じ』と似ていますね。（次から決闘者の王国編が始まります）

神崎たちとの戦いから数日後、今日は『決闘者の王国』が行われる月×日になった。

のびた達は招待されているスネオの家に集まっていた。

安雄「いよいよ今日だね『決闘者の王国』」

のびた「たしか夜の9：30からだっただよね？」

ジャイアン「みんなでついていって応援しようぜ」

のびた「うんー」

安雄「当然だよ」

スネオ「ありがとう。みんな!」

安雄「でもなんでカードの大会なのに埠頭なんか集まるんだろう。まさか埠頭で大会をやるわけないし……」

スネオ「王国への船出っていうカードがあるんだから、船でどこかに行くんじゃないか?」

スネオは以前、王国への招待状とともに入っていた五枚のカードの内の一枚を持って言った。

王国への船出 ノーマル

月×日 PM 9 : 3 0

童実野埠頭

のびた「まさかあ。カードの大会なのにどこに行くのさ？」

安雄「まあ、確かにそうだけど…」

ジャイアン「実際に埠頭に行ってみれば分かるだろ」

のびた「そういえば、どうやって埠頭に行くの？」

スネオ「へへ。そりゃ、ドラえもんに頼むに決まってるだろ」

のびた「やっぱりね…」

スネオ「で、のびた、ドラえもんに頼んでおいてくれよ」

のびた「うん。いいよ」

スネオ「よかったあ。それに、この日のためにデッキをずいぶん強化したんだ。いけなかったら大変だしね」

ジャイアン「どれどれ、ちょっと見せてみな」

スネオ「だめだめ。大会が始まるまで秘密だよ。でも一枚だけ……」

スネオはデッキから一枚のカードを取り出す。

スネオ「これはものすごく貴重なレアカードなんだ」

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

レベル7 光属性 ドラゴン族

攻撃力2500 守備力2300

ジャイアン「ホーリー・ナイト・ドラゴン？すっげえなあ」

スネオ「だろ？すごい高かったんだよ。聖竜系モンスターではかなり高い能力を持っているんだ」

安雄「攻撃力2500？すごい！どれくらいしたの？」

スネオ「まあ詳しくはあんまり言いたくないけど数十万はしたんだよ」

のびた「すごいよ！これさえあれば『決闘者の王国』なんて楽勝じゃない？」

スネオ「まあね。でも本当は聖竜系モンスター最強の『青眼の白龍』ってカードがほしかったんだ。でもどこにも売ってなくて…。さすが世界に4枚しかないカードだね」

安雄「『青眼の白龍』？それなら確か…、誰だったかな？どこかの会社の社長が3枚所持しているって聞いたことがあるよ」

スネオ「それじゃあ手に入らないわけだよ。ずるいなあ」

ジャイアン「でもこのホーリー・ナイト・ドラゴンもすごいぜ」

スネオ「まあ他のカードもいいカードばかりだし、これで『決闘者の王国』も大丈夫だよ」

のびた「でも『決闘者の王国』には他にどんな人が来るんだろ？やっぱ強い人ばかりじゃないかなあ」

安雄「まあ、心配してもきりがないよ。それにスネオ君なら大丈夫だよ」

ジヤイアン「そうだな。安雄の言うとおりだぜ。おっともつこんな時間だ。そろそろ俺は帰るぜ」

のびた「じゃあぼくも帰るよ」

安雄「あ、僕も」

スネオ「じゃあ、バイバイ。」

PM9時

スネオ宅…

スネオは最後のデスク調整をしていた。

スネオ「おそいなあ、のびた。忘れてるんじゃないか？電話掛けにいこうつと」

スネオが自分の部屋から出て、一階に電話をかけにいき、電話を掛けようとした時、

ジリリリリン…

電話が鳴った。それをとるスネオ。

スネオ「もしもし。骨川です」

のびた「あー。スネオ。ごめんごめん。忘れてたよ。空き地で待ってるよ。じゃあね」

スネオ「おい、のびたっ！のびたっ！…切れた…」

スネオ「まあ、時間もないし早速行ってみよう」

スネオはカードと以前送られてきた小包の中に入っていたカードやグローブ、スターチップをもって空き地へ向かった。

集合場所である空き地。もうすでにみんな集まっていた。何気に静

香もいた。おそらくのびたが誘ったのだろう。

スネオ「なんだよ、みんなもう集まっているじゃないか」

のびた「ごめんごめん。電話するの忘れていてさ。まあ間に合ったし、いいじゃない」

スネオ「あのなあ……」

ドラえもん「まあまあ。早く行かないと間に合わないよ」

ジャイアン「そうだ。早く行こうぜ」

ドラえもん「じゃあ、早速どこでもドアで行こう」

ドラえもんが出したどこでもドアでのびたたちは童実野埠頭へ行った。

童実野埠頭……。集合場所となっているが、そこはあまりにも静かだった。

のびた「ずいぶんと静かだね」

ジャイアン「本当にここが集合場所なのか？」

スネオ「間違いないよ。カードと手紙にもそう書いてあるし」

などと話しながら。少し歩いていた。そして、

安雄「あつ、あれは！！」

ジャイアン「すげえ」

そこにあつたのは客船だった。

ドラえもん「おおきな船だね」

スネオ「あまりいい船じゃなさそうだけどね」

静香「見て！あの人ばかり」

船にはたくさんの人が集まっていた。おそらくスネオと同じく招待された者だろう。

ドラえもん「たぶん、スネオくんと同じく招待された人達じゃない？」

ジャイアン「じゃあここにいる奴はみんな決闘者ってことか」

と、突然船の甲板がスポットライトで照らされた。

そこには黒服の男が数人立っていた。

黒服の男「ここに集まった全ての決闘者の諸君！E2（インダストリアル・イリュージョン社）が開催するイベントによろこそ！」

あまりにも突然のことなので、周囲はざわついていた。

しかし、そんなことにはかまわず黒服の男は話を続ける。

黒服の男「君達はデュエルモンスターズにおいて我々が過去の戦績などを特別に調査し、選び抜いた精鋭たちだ！！」

スネオ「聞いたかよのびた。精鋭だったさ」

のびた「でも、ここにいる人はみんなそうだよね」

黒服の男「今、君達の頭上の上には誰もが平等に手に届く状態で光という星が光り輝いている!!」

黒服の男「さあ、決闘者達よ!海を渡ろう!!その光を求め!!いざ!!王国に行かん!!」

決闘者達「うおー！……！」

「やってやるぜえ！」

「栄光……デュエルキングの称号……」

「賞金はいただくぜ……！」

「負けるわけにはいかないな…」

スネオ「絶対に優勝するぞ!!」

ジャイアン「他の奴らも結構強そうだぜ」

確かに、ここに集まっている決闘者はすべてどこかの大会で成績のよかった者達である。いくら東京大会でよい成績を残していても勝ち残れるかどうか…

スネオ「大丈夫だよ。そんなの」

ジャイアン「それより早く船に入ろうぜ」

ドラえもん「そうだね」

静香「船なんて素敵だわ」

そしてドラえもん達は船に乗り込もうとしたが…

ジャイアン「おい、やばいぜ、入り口で何かやってるぜ」

入り口では先ほどの黒服の男がスターチップを所持しているかを確認していた。

スネオはもちろんスターチップを持っているが、のびた達はは持っていない。このままでは船に入ることが出来なくなってしまう。

安雄「どうしよう！僕達スターチップ持ってないよ！」

のびた「じゃあ僕達船に乗れないの？」

ドラえもん「スネオ君は乗れるけど…。僕達は無理だよ…」

ジャイアン「でも、このまま帰るってのもいやだぜ」

スネオ「何とかならないかなあ」

静香「それならドラちゃんの道具で何とかすればいいじゃない？」

のびた「そうだよ。そうすればよかったんだ！ドラえもん！」

ドラえもん「分かった。じゃあ…この石ころ帽子をスネオ君以外のみんなかぶって」

ドラえもん達が石ころ帽子をつけると先ほどまで見えていた姿が消えてしまった。

スネオ「で、どうするの？」

ドラえもん「僕達は後からついていくから、とりあえず船に入っ

スネオ「わかった」

そして、スネオは船の入り口の黒服の男にスターチップを見せた。

スネオ「はい。スターチップ」

黒服の男「よし。入船を許可する。奥の部屋に行け」

スネオ「はい」

スネオ（ドラえもん達ちゃんと乗れたかな？）

そうしてスネオは船に乗った。

果たして船の中でみんなを待っているものとは？

今日の最強カードは『ホーリー・ナイト・ドラゴン』

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

レベル7 光属性 ドラゴン族

攻撃力2500 守備力2300

攻撃力、守備力ともに最強クラスを誇る聖竜系のモンスターだ。

その口から吐かれる聖なる炎はあらゆる邪悪をなぎ払うぞ!!



## TURN・7 対決！ドラゴンデッキ

奥の部屋には沢山の決闘者がいた。しかし、その部屋がそれほど広くないようだ。

先ほどからこの部屋について文句を言う決闘者が後を立たない。

スネオ「ドラえもん達どこにいるんだろう?」

ドラえもん達は石ころ帽子をかぶって船に入っただので姿が見えない。どこにいるのかわからないのだ。

ドラえもん「おーい。ここだよー」

ドラえもんが部屋の外から呼んでいた。

スネオ「どこにいたんだよ、みんな」

のびた「ごめんごめん。出るタイミングが分からなくて」

安雄「結構人がいるから怪しまれないように倉庫に言って石ころ帽

子を取ったんだ」

ジャイアン「それにしても招待しておいてこんな部屋かよ。個室とかないのか？」

スネオ「さっきもその事でもめていた人がいたけど、ないみたいだったよ」

スネオの話によると、個室はどうやら以前の大会でよい成績を残した者にのみ許されるらしい。スネオは東京大会で準優勝だったが、その程度では駄目らしい。

静香「じゃあ、お風呂とかもないのかしら？はいりたかったのに…」

ジャイアン「そんなことよりメシとかはどうするんだ？さっきから腹が減って…」

スネオ「それならあっちの方に食堂があるみたいだよ」

ジャイアン「本当か！行ってみようぜ」

ドラえもん「もう。しょうがないなあ」

のびた「まあたしかに少しお腹空いたし行ってみようよ」

安雄「そうだね」

一同は食堂へと向かった。

「オラア！！出てけよタコ！！！」

「ヒッ！！！」

途中個室から追い出されている奴がいたが見ないふりをした。

食堂にはあまり人がいなかった。他の決闘者は先ほどの部屋でカードのトレーディングなどをしているらしい。

「ジャイアン」へえ。結構つまそうだけ。どれにしようかな？」

のびた「それにしてもあんまり人がいないね」

スネオ「みんなさっきの部屋でデッキを調整しているんじゃないかな？」

ジャイアン「おい。みんなも決めろよ」

ドラえもん「じゃあドラ焼き！」

ジャイアン「ねえよ」

ドラえもん「じゃあいいよ…」

のびた「僕はお子様ランチ！」

スネオ「じゃあステーキ。レアで」

ジャイアン「安雄と静香ちゃんは？」

静香「私はいいわ。太るし…」

安雄「僕もいいよ。今あんまり食べたくないから」

ジャイアン「ふうん。じゃあ注文してくるぜみんな先に席に座って  
いてくれ」

ジャイアンが注文をしにいった。

ドラえもん「ドラ焼きたべたかったなあ」

スネオ「いいじゃん。ドラ焼きくらい」

ドラえもん「なんだと！くらいとはなんだくらいとは！」

スネオ「ごめんごめん。そんなに怒るなよ」

ドラえもん「フン！」

と、その時、一人の少年が話しかけてきた。

「???」あの、この席いいですか?」

安雄「ああ、いいよ」

「???」どうも

座ってきた少年はどつやら決闘者らしい。腕にデュエルグローブをはめている。しかし選ばれた強豪決闘者にしては優しい目をしている。性格もよさそうだ。

「???」あの、そっちの青いのは?ペットですか?」

少年がケンカしているドラえもんについて聞く。

ドラえもん「ペットじゃない!猫型ロボットだ!」

ケンカしていたためか気が立っているようだ。

のびた「ドラえもんっていうんだ」

西原「へえ。僕の名前は西原。西原雄一っていいます。以前の大会で結構いいとこまで残ったんですけど知りませんか？」

のびた「いやぁ知らないなあ。スネオ知ってる？」

スネオ「知るか！」

スネオも気が立っているようだ。

西原「ところで皆さん決闘者なんですか？そうは見えないんですが……」

静香「私達は違うわよ。スネオさんだけよ」

西原「そうですか。ねえ、決闘してみませんかスネオさん」

スネオ「え、決闘？別にいいけど……」

西原「じゃあ、決まりですね。」

ドラえもん「決闘かぁ」

のびた（いよいよスネオのデッキが見れるぞ）

スネオと西原が決闘を使用としたその時、

ジャイアン「おーい、注文した料理持って来たぜー」

今まで席を立っていたジャイアンが戻ってきた。注文した後も向こうで料理が出来るのを待っていたらしい。

ジャイアン「ん、誰だそいつ？」

安雄「雄一君っていうんだ」

西原「どうも」

ジャイアン「ふうん。お、スネオ、決闘するのか？」

スネオ「うん。まあね」

ジャイアン「俺と代われよ」

スネオ「ええ！なんでさ！」

ジャイアン「いいだろ別に」

スネオ「ま、まあいいけどさ」

ジャイアン「よし、決まりだな」

結局、ジャイアンはスネオと席を代わり、自分のデッキを用意した。

ジャイアン「じゃあ決闘しようぜ！雄一！」

西原「ええ」

西原&ジャイアン「決闘！！」



ナイトメア・スコピオン ノーマル  
レベル3 地属性 昆虫族  
攻撃力900 守備力800

怒りの海王 ノーマル  
レベル3 水属性 水族  
攻撃力800 守備力700

デス・ストーカー ノーマル  
レベル3 闇属性 戦士族  
攻撃力900 守備力800

シャベル・クラツシャー ノーマル  
レベル3 地属性 機械族  
攻撃力900 守備力1200

ダークキラー ノーマル  
レベル2 地属性 昆虫族  
攻撃力700 守備力 700

ドロークカード

ベビィティールックス

ジャイアン「ベビィティールックスを場に出してターン終了」

後攻にしてはそこそこのモンスターだ。

ベビィティールックス ノーマル  
レベル3 地属性 恐竜族  
攻撃力1100 守備力700

西原「僕のターン。魔頭を持つ邪竜を守備表示で出し、カードを伏せターン終了」

魔頭を持つ邪竜 ノーマル

レベル3 風属性 ドラゴン族

攻撃力 900 守備力 900

ジャイアン「よし、魔頭を持つ邪竜の守備力は900。俺のモンスターで倒せるぜ！ベビィティレックスで攻撃！」

スネオ「あっ！伏せカードを忘れてるよ！」

ジャイアン「えっ！伏せカード？」

西原「トラップ発動！城壁！」

城壁 ノーマル

畏カード

自分のモンスターの守備力をターン終了時まで500アップさせる。

西原「畏カード『城壁』の効果により『魔頭を持つ邪竜』の守備力が500アップ!!」

魔頭を持つ邪竜

守備力900 守備力1400

ジャイアン「ベビータイヤレックスの攻撃力は1100だから……」

のびた「300ポイントの反射ダメージだよ!!」

ジャイアン

ライフ2000 1700

魔頭を持つ邪竜

守備力1400

守備力900

『城壁』の効果が切れて守備力が元に戻る。

ジャイアン「くっそ……。ターン終了だ」

西原「僕のターン。ドロー。デビルドラゴンを召喚！ベビーティールックスに攻撃！」

デビルドラゴン ノーマル

レベル4 闇属性 ドラゴン族  
攻撃力 1500 守備力 1200

ジャイアン            ライフ1700    1300

ジャイアン「クソくさつきから減らされっぱなしだ」

西原「僕のターンは終わって君のターンだよ」

ジャイアン「カードをドロ。シャベル・クラッシュャーを守備表示でターン終了」

西原「ドロ。デビルドラゴンで攻撃！ターンエンド」

ジャイアン「ドロ。モンスターを守備表示！終了だ」

西原「ドロ。攻撃！ターンエンド」

ジャイアン「モンスターを守備表示！」

西原「攻撃！」

安雄「いくらなんでも一方的過ぎるね」

スネオ「この船に乗っているのはみんな強豪ぞろいだからね。仕方ないよ」

のびた「確かに…」

その後、数ターンの間にフィールドは完全に制圧されてしまった。

西原のフィールド ライフ2000

伏せカード1枚

モンスター

一眼の盾竜 守備表示

魔頭を持つ邪竜 守備表示

デビルドラゴン 攻撃表示

フェアリードラゴン 攻撃表示

岩を守る翼竜 攻撃表示

フェアリードラゴン ノーマル

レベル4 光属性 ドラゴン族

攻撃力 1100 守備力 1200

岩を守る翼竜 ノーマル

レベル4 風属性 ドラゴン族

攻撃力 1400 守備力 1200

ジャイアンのフィールド ライフ1300

伏せカード なし

モンスター

なし

ジャイアン「や、やばいぜ…」

西原「カードを伏せてターン終了」

ジャイアン「このままだと確実に負けるな…」ドロー！

ドローカード

強欲な壺

ジャイアン「やった！強欲な壺を発動！」

西原（強欲な壺…あのカードは2枚のカードをデッキから引くことができる手札増強のカード…）

強欲な壺 ノーマル

魔法

デッキから2枚のカードをドローする

強欲な壺によるドローカード

猛進する剣角獣

体温の上昇

ジャイアン「猛進する剣角獣に体温の上昇を装備し一眼の盾竜に攻撃！」

猛進する剣角獣

攻撃力1400 1700

西原ライフ2000 1600

西原「何でライフが…そうか確かそのモンスターは！」

ジャイアン「こいつは貫通能力っていう便利な効果を持った強力モンスターだぜ！」

猛進する剣角獣

レベル4 地属性 恐竜族

攻撃力1400 守備力1200

守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を越えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「ジャイアン、ターン終了だぜ」

ジャイアンのフィールドには攻撃力1700の貫通能力を持つ猛進する剣角獣がいる。

西原にとってはピンチのはずだが妙に冷静だ。

西原「僕のターン。手札より魔法除去発動。体温の上昇を破壊します」

魔法除去 ノーマル

通常魔法

フィールド上にある魔法カード1枚を破壊する。

選択したカードがセットされている場合、そのカードをめくって確認し、

魔法カードなら破壊する。罾カードの場合元に戻す。

猛進する剣角獣  
攻撃力1400 1700

西原「そして手札より融合を発動」

融合 スーパーレア  
通常魔法

決められたモンスター2体以上を融合させる。

西原「フェアリードラゴンと皆を守る翼竜を融合！カイザードラゴンを召喚！」

カイザードラゴン ノーマル  
レベル7 光属性 ドラゴン族  
融合モンスター  
攻撃力2300 守備力2000  
フェアリードラゴン+砦を守る翼竜

西原「そして伏せカードの援軍を発動！攻撃力が500アップし2800になる！！」

援軍 ノーマル  
罾カード

自分のモンスターの攻撃力をターン終了時まで500アップさせる。

攻撃力2300 2800

西原「剣角獣に攻撃！」

2800 - 1400 = 1400のダメージがジャイアンのライフに直撃する。

ジャイアンライフ 13000

西原「僕の勝ちです！」

勝負は西原が制した。

ジャイアン「以外に強いなお前」

のびた「雄一くんは前の大会で結構いいところまで行ったらしいよ  
！」

ジャイアン「えっ！そうなのか！どつりで強いはずだよ」

スネオ「この船に乗っているのはみんなそれくらいの力は持っているよ」

西原「でも僕より強い人もこの船にはいますよ」

ジャイアン「それでもお前はすごいぜ！俺を倒したんだからな」

と、その時、時計が11時の時刻を知らせる鐘を鳴らした。

西原「あっ！もうこんな時間か、じゃあ僕はこれで！」

のびた「えっ、まだいいじゃない」

西原「明日は早く起きてデッキ調整をするから、今日は早く寝たい

んだ」

のびた「それなら仕方ないね。じゃ」

西原「うん、おやすみ」

そういつて西原は去っていった。

ジャイアン「結構いい奴だよな」

安雄「うん。感じもいいし」

ドラえもん「うん。…あつ！みんな料理忘れてるよ！もう冷めてるよ！」

のびた「えっ、あ！本当だ！」

スネオ「せっかくのステーキが…」

安雄「注文しなくてよかった」

今日の最強カードは『カイザードラゴン』。

カイザードラゴン ノーマル

レベル7 光属性 ドラゴン族

融合モンスター

攻撃力2300 守備力2000

フェアリードラゴン+砦を守る翼竜

低級ドラゴン2体からなる融合モンスターだ。攻撃力2300とか  
なり強力な攻撃力を持っているぞ。

TURN・7 対決！ドラゴンデッキ（後書き）

いよいよ王国編です。今までよりも決闘も決闘者も増えます。ご期待ください。

**T U R N - 8 決闘者の王国（前書き）**

やっと王国編が本格的に始まります。結構長かったなあ。

TURN - 8 決闘者の王国

結局、奥のタコ部屋で寝たドラえもん達。

船が着いたというのにのびただけ起きないらしい。

他の決闘者の姿はもうない。

ドラえもん「おい、起きろ、のびた!」

のびた「ZZZ...」

ドラえもん「起きろ!」

のびた「ふあゝ、まだ眠いのに...」

ドラえもん「もうみんな行っちゃったぞ!」

のびた「みんな起きるの早いなあ」

ドラえもん「それより早く行くことよ」

のびた「うん。そうだね」

のびたとドラえもんは船の外へ出た。

船の外にもなぜか決闘者たちの姿はなかった。いたのは黒服の男達が少しだけだった。

のびた「あれ、おかしいな？誰もいないよ？」

ドラえもん「みんなもう上の城に行っちゃったんだよ。城の前が集合場所なんだ」

のびた「城ってあの山の上のやつ？」

のびたが山の上の城を指さす。その城へは長い階段が続いていた。

ドラえもん「うん」

のびた「え、あそこまで登るの？ 疲れるよ。タケコプター出してよ」

ドラえもん「仕方ないなあ……はい、タケコプター」

のびた「ありがとう、ドラえもん」

のびたとドラえもんはタケコプターを付けて城を目指した。

その頃城の前では先に来た決闘者達が城の前の城門に集まっていた。もちろんスネオたちもいる。

スネオ「のびた達遅いなあ」

安雄「何しているんだろう？」

ジャイアン「どうせまだ寝ているんだろ」

静香「何かあったのかしら？」

スネオ「まさかあ。そんなことないよ」

のびたはそれほど心配されていなかった。

まあ、のびたは参加者ではないので別に遅れてもかまわないのだが。

一方のびた達は…

のびた「ヘックション!!」

ドラえもん「どうしたの？風邪？」

のびた「ううん。なんでもないよ」

ドラえもん「そう。よかった」

のびた「それにしてもこの島ってひろいなあ」

ドラえもん「うん。(やっぱり気になるなあ。あの城で大会を行なうのかなあ)」

確かになぜこのようなどころで行なうのかが以前から気になっていて、改めて考えると不自然だ。わざわざ孤島の城でやらなくともどこか別の決闘スペースを使えばいいのだから。

それともまた別のところで行なうのだろうか？

どうなのかは分からないがやはり疑問が残る。

のびた「どうしたの？ドラえもん？」

ドラえもん「え、ああ、別になんでもないよ。あつ！あそこじゃないかな？いっぱい人がいるよ」

ドラえもんは城門の前を指差した。

のびた「じゃあそろそろ降りようよ。そこにみんないるんだろ？」

ドラえもん「うん。たぶんね」

カラカラカラ…

タケコプターのスイッチを切って城門前に降りるのびたとドラえもん。

スネオ「あっ、のびた！ やっと来たのか！」

ジャイアン「今まで何してたあ！」

のびた「え、ちょっと寝過ぎして…」

ジャイアン「寝過ぎした、だとお！」

のびた「ひ、ひい〜」

ジャイアンののびたに襲い掛かるうとしたとき…

西原「あつ、やっぱり君達だったんだ。今の声で分かったよ」

静香「あなたは船で一緒だった雄一さん！」

彼はこの王国への船で一緒だったドラゴンデッキを使う決闘者・西原雄一だ。

西原「いやあ。一人じゃ心細いから誰かと一緒に行こうとしたら今の聞こえてさ」

のびた「（ちようどよかった！）じ、じゃあ一緒にいこうよ。僕達友達でしょ。ね、みんな」

安雄「当然だよ」

静香「ええ」

ジャイアン「お、おう（ちっ。殴り損ねたぜ…）」

上手いかわし方だな、とジャイアンは思った。

のびた「そういえば一緒に行くってどこに？城の中？」

静香「あっ！そうだのびたさんさっきの説明聞いてなかったのね！」

のびた「説明？どんなの？」

スネオ「この島全体で決闘をするってさっきの説明では言っていたけれど…どういう意味なのか分からないんだ」

ドラえもん「島全体？なにそれ？」

西原「島のあちこちに決闘スペースがあるってことだと思っけど…」

ジャイアン「まあ、気にしてても始まらねえ。決闘で勝てばいいんだ」

スネオ「まあ、たしかにそうだね」

ドラえもん「とりあえず島を歩いていれば何か分かるんじゃないかな？」

のびた「この階段を下りるのかあ。疲れるなあ」

ドラえもん「そう言わずに、おりるよ。みんな」

ドラえもん達は階段を下りた。登りよりは楽だったが、それでもかなりきつかった。

のびた「はあ、はあ……。疲れたあ」

スネオ「決闘する前から疲れたよ……」

「ジャイアン」だらしねえなあ

と、その時、

「バン！！」

「バン！！」

「バン！！」

突然、遠くのほうから打ち上げ花火のような音がした。

「のびた、うわ！」

安雄「あっ！花火が上がった！」

ジャイアン「じゃあ、いよいよ…」

スネオ「『決闘者の王国』 スタートだ!!」

のびた「どういうこと?」

静香「花火が大会スタートの合図なのよ」

ドラえもん「ふうん」

西原「じゃあ、とりあえず誰か決闘者を探そうよ。あっちの方とか  
な」

ドラえもん達は西原が指さした草原の方へ行ってみることにした。

草原のほうに行く途中、スネオが西原に言った。

スネオ「僕とは戦うなよ」

スネオが一応念を押す。仲間だが、万が一決闘することになったら

もしかしたら勝てないかもしれない。

昨日の決闘で西原はかなりの実力を持っていると分かったからだ。

西原「もちろんだよ」

西原もそれに応じる。西原もスネオのことをそう思っているのだから？

安雄「それにしても決闘者はこっちのほうにはいないね」

ドラえもん「あっちの方に行ったほうがよかつたんじゃないかな」

ドラえもんが森の方を見る。森のほうは何やら騒がしかった。決闘者が大勢いるのだろうか。

それから30分位しても誰も見つからなかった。

ジャイアン「誰もいねえな」

スネオ「はあ。誰でもいいから戦いたいよ」

???「それなら俺が戦ってやるよ!」

ジャイアン「誰だ!どこにいる!」

???「ここだ!」

突如、木の上から人が降りてきた。

髪がボサボサで（恐らく木の上にいたため。木の枝や木の葉が髪に引っかかっている）顔がよく見えないがすつきりとした顔立ちの青年だということが分かる。

よく見ると決闘グローブを付けている。

風雅「俺は風雅<sup>ふうが</sup>隼人<sup>はやと</sup>。風を操る決闘者だ!」

西原「風雅……」

風雅「で、戦いたいって言っていた奴は誰だ？」

スネオ「僕だ！」

風雅「そうか……（まだガキじゃねえか。やっぱり木の上で待っててよかったぜ）」

風雅は弱そうな決闘者を先に倒し、スターチップを稼ぐつもりらしい。

スネオ「で、どこで決闘するんだ？」

風雅にたずねるスネオ。確かにさっきからずっと気になっていたことだ。

風雅「へへ……そうあわてるな。まあ着いて来い」

風雅がドラえもん達を決闘スペースがあると思われる場所に案内する。

風雅「着いたぜ。ここだ」

着いたのは山のふもとの湖だった。

しかしそこには決闘スペースなど何もなかった。

スネオ「なんだよ。何もないじゃないか」

風雅「へへ。そうあわてるな決闘の準備をしな！」

スネオはデッキを取り出した。

風雅「準備は整ったな？」

スネオ「うん」

風雅「さあ。デュエル・スタンバイだ!!」

風雅が叫んだとたん。地面が揺れだした。

のびた「うわ!地震だ!!」

風雅「地震なんかじゃないぜ。そら!地面を見てみる!!」

ドラえもんたちが地面を見る。

なんと地面の一部が割れ、四角い大きな穴が開いていた。しかも、それだけではない。下から何かがせりあがってきた。

地下から出てきたのは巨大な決闘場だ。

風雅「これがこの王国での決闘に使用するフィールド。デュエル・リングだ!!!」

スネオ「デュエル・リング…」

TURN - 8 決闘者の王国（後書き）

できれば感想をもっと残してくれればいいです。それだけが  
ばれます。

## TURN - 9 VS 鳥使いの決闘者

風雅「これがこの王国での決闘に使用するフィールド。デュエルリングだ!!!」

地下から出現したのは巨大なデュエルリングだった。

スネオ「これは以前テレビで見た全日本大会決勝戦で使用されていたものと同じだ！」

スネオは以前テレビで全日本大会決勝戦を見ていた。そのときのデュエルで使用されていたものがこのリングと同じものだった。

風雅「そう。それがこの島あちこちに仕掛けられているってわけさ」

ドラえもん「なるほど。さっき雄一君の言ったとおりだ」

西原「うん。でもこれだったなんて」

デュエルリングはモンスターをソリッドビジョンで巨大に立体化させる機械だ。

左右にプレイヤー（決闘者）の乗るところ（プレイヤーゾーン）があり、そこにあるデッキゾーンにデッキをセットする。

そしてリングの中央にモンスターの立体化し、モンスターが戦闘するフィールドがある。

くわしくは各自で調べてほしい。

風雅「さあ、デュエルリングにデッキをセットしろ。俺はもうセットしてあるぜ」

ジャイアン「がんばれよ！！スネオ！！」

スネオ「わかった。がんばるよ」

スネオがリングのプレイヤーゾーンに乗る。

風雅「デッキをセットしたな。スターチップは何個賭ける？俺は一個だ」

スネオ「じゃあ僕も一個だ」

スターチップはお互いに一個ずつ賭けることになった。初戦なので二個は賭けたくない。

風雅「じゃあ決闘を始めるぜ。フィールドは俺が山80パーセント、草原が20パーセントだ。お前が草原40パーセント、湖40パーセント、山20パーセントだ」

風雅の声と同時にリングに自然が再現される。風雅の場には山と湖、スネオには草原、湖だ。

風雅「さあ、準備は全て整ったぜ」

風雅&スネオ「決闘！！」

風雅「先攻は俺だ！ドロ、ワイバーンを攻撃表示で召喚。ターン終了」

ワイバーン ノーマル

風属性 鳥獣族 4レベル

攻撃力1200 守備力1000

ワイバーン「キシヤアアア!!」

静香「きゃあ!!」

安雄「モンスターが…」

のびた「実体化した!！」

風雅「そう!これがソリッドビジョンシステムさ!！」

いくらソリッドビジョンといえど、リングに巨大なモンスターが現れるのは少々驚く。

スネオ「僕のターン。ドロー」

スネオの手札

女剣士カナン ウルトラレア

地属性 戦士族 4レベル

攻撃力1400 守備力1400

タートルタイガー ウルトラシークレット

水属性 獣族 レベル4

攻撃力1000 守備力1500

メガソニック・アイ ウルトラレア

闇属性 機械族 レベル5

攻撃力1500 守備力1800

永遠の湯水 レア

魔法カード

場の魚族モンスターは永遠に続く渇水により全滅。

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

ドローカード

万能地雷グレイモヤ

スネオ「よし、僕は地獄の裁判を攻撃表示で召喚！ワイバーンに攻撃！」

リングに浮かぶ剣が現れる。あれが地獄の裁判の本体なのだろう。

スネオ「攻撃力なら地獄の裁判が上だ！」

地獄の裁判がワイバーンに向かって飛んでいく。

風雅「（ふふ！）ワイバーン！カウンターだ！」

ワイバーン「キシヤアアア！！」

ワイバーンの翼から風が放出され、地獄の裁判が地面にたたきつけられる。

勢いよくたたきつけられ地獄の裁判の本体である剣は折れてしまった。

バアアアアン！！

地獄の裁判は破壊されてしまった。

そしてスネオのライフが減った。

スネオ 2000      1760

スネオ「なんでだよ?! 攻撃力は僕のカードのほうが上なのに!!」

スネオの地獄の裁判は攻撃力1300。風雅のワイバーンは1200のはず。戦えば地獄の裁判の勝ちのはずだが…

風雅「教えてやるよ。俺のモンスターは環境適応能力フィールドパワーソースを得ているのさ!!」

スネオ「フィールドパワーソース環境適応能力?」

風雅「このデュエルリングには周囲の自然が再現されている。その自然がモンスターに力を与えるのさ」

スネオ「周囲の自然……。じゃあお前がこのリングに誘い込んだ理由  
つてもしかして！」

風雅「そう。自分に有利なフィールドに誘い込み仕留めるってわけ  
さ。山は俺のテリトリーだからな」

ジャイアン「きたねえぞ！」

風雅「イカサマってわけじゃねえぜ。自分の有利な土俵に持ち込ん  
ただけさ」

確かにイカサマではない。

ジャイアン「くっ。きつと勝てよスネオ！」

スネオ「うん。わかったよ。じゃあカードを伏せてターン終了（こ  
のカードは相手の攻撃に対して発動する罠、万能地雷グレイモヤの  
カードさ。）」

万能地雷グレイモヤ ウルトラレア

罨カード

相手モンスターが攻撃してきたときに発動！相手の場の攻撃力が一番高いモンスターは地雷により木端微塵に吹き飛び、破壊される！

風雅「俺のターン。タクヒを召喚。ターン終了」

タクヒ ノーマル

風属性 鳥獣族 4レベル

攻撃力1450 守備力1000

攻撃力1450 1855

守備力1000 1300

スネオ「そっちがそう来るなら僕は、湖フィールドにタートルタイ

ガー召喚だ。フィールドパワーソース環境適応能力で守備力1950の壁モンスターになる  
！！」

タートルタイガー ウルトラシークレット

水属性 獣族 レベル4

攻撃力1000 守備力1500

攻撃力1000 1300

守備力1500 1950

風雅「守備力1950だと。結構厄介だな。とりあえずこのままにしておくぜ」

スネオ「僕のターン。ドロ」

ドローカード

タクリミノス ウルトラシークレット

水属性 海竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力1200

スネオ「フィールドパワーソース環境適応能力で攻撃力アップ！」

攻撃力1500 1950

スネオ「ワイバーンに攻撃！」

風雅2000 1610

風雅「くそっ！！（こいつ、フィールドパフォーマンス環境適応能力を完全に自分のものにして  
いるのか…）」

ジャイアン「よし。そのまま押しきれ！！」

静香「がんばって」

スネオ「ターン終了だけ。もしかしたら余裕かもな。アハハハハ」

完全に調子にのっているスネオ。

風雅「ふざけるな！…くそっ。こんなカードじゃ役に立たねえ。タ  
クヒを守備にしてターン終了！」

スネオ「タクヒに攻撃！！」

風雅「ぐあー！」

ライフこそ減っていないが確実にスネオが場を制圧している。

風雅「くそ！（あのカードがくれば…）ドロー！」

ドローカード

追い風

風雅「俺は魔法カード追い風を発動。そしてドレイクを召喚」

ドレイク ノーマル

風属性 鳥獣族 レベル3

攻撃力800 守備力800

攻撃力 800 1040

守備力 800 1040

スネオ「追い風…いまさらそんなカード関係ないよ！攻撃！」

風雅「コケを守備表示！」

コケ ノーマル

地属性 鳥獣族 レベル3

攻撃力 900 守備力 800

スネオ「攻撃！」

防戦一方の風雅。だが、何か不自然だ。

ジャイアン「よし！いいぞスネオ！！」

のびた「勝てるよ！」

確かに今はスネオのほうが優勢だ。しかし…

風雅「俺は手札より二枚目のタクヒを出し、タクリミノスに攻撃！  
！」

スネオ「なんだって！タクヒの攻撃力じゃタクリミノスには勝てないぞ！」

風雅「そうかな？フィールドを見る！」

タクリミノス「ギャアアア…！」

バアアアアーン！！

スネオ1760 1045

スネオ「ああ！僕のタクリミノスが！どうして？」

風雅「俺の発動したカード、追い風の効果さ。追い風は相手のモンスター<sup>の</sup>戦闘時、そのモンスターの攻撃力を200ポイントずつ下げていく」

スネオ「そうか！タクリミノスは追い風の効力で攻撃力が400ポイント下がっていたのか！」

風雅「その通り。そのため環境適応能力<sup>フィールドパフォーマンス</sup>を得ても攻撃力が1430にしかならず、タクヒに倒されたってわけだ」

西原「…！ちょっと待った！減ったライフとモンスターの攻撃力の差が違うぞ！タクヒが与えたダメージは455のはずだ！」

スネオのライフは1760から一気に1045まで減っていた。本来ならスネオのライフは1355のはずだ。

風雅「確かにそうだ。一瞬で判断できるなんて結構賢いじゃないか」

西原「…」

風雅「追い風のカードにはもうひとつ効果がある。それは自分のモンスターが攻撃に参加するたびに攻撃力が200ずつ上がる効果さ  
！」

追い風 オリジナルカード

永続魔法カード

自分の場のモンスター攻撃力は200アップ！相手モンスターは戦闘を行なうたびに攻撃力が200ダウン！

風雅「これが追い風の効果さ！この効果によりタクヒの攻撃力は2  
145になったのさ」

スネオ「（追い風のカードはやっかいだなあ）タ、ターン終了か？」

風雅「ああ。ターン終了だ」

スネオ「（とりあえず、追い風を破壊できるカードが来るまで、守  
備で持ちこたえよう）ドロ！。メガソニック・アイ召喚。ターン終  
了」

メガソニック・アイ ウルトラレア

闇属性 機械族 レベル5

攻撃力1500 守備力1800

メガソニック・アイは機械族のため環境適応能力を得られない。フィールドパワースも

し得られたならタクヒの攻撃を防ぎきることができたのだが…。

風雅「タクヒでメガソニック・アイを攻撃」

スネオ「くそっ！ドロー！」

ドローカード

天使の施し

スネオ「手札より天使の施し発動！」

天使の施し ノーマル

通常魔法

デッキよりカードを三枚引き、二枚を捨てる。

スネオ「デッキよりカードを三枚引く！」

天使の施しによるドローカード

フォースフィールド

魔法除去

メテオドラゴン

スネオ「僕は手札より、カエルスライムと永遠の湯水を捨てる！」

スネオが選んだカードの永遠の湯水は初期手札の、カエルスライムは先ほどタクリミノスで攻撃をしていたターンに引いたカードだ。

スネオ「そして、メテオドラゴンを山フィールドに召喚！」

メテオドラゴン ウルトラレア

地属性 ドラゴン族 レベル6

攻撃力1800 守備力2000

攻撃力1800 2340

守備力2000 2600

風雅「無駄だ！そのモンスターで攻撃しても追い風の効果で攻撃力はタクヒを下回る！」

スネオ「まだまだ！魔法除去発動！追い風を破壊する」

魔法除去 ノーマル

通常魔法

魔法カードを1枚破壊する。裏側の場合は表側にして、破壊する。  
罨カードの場合は元に戻す。

スネオ「これで安心して攻撃できる！メテオドラゴンで攻撃！メテオフレイム！」

タクヒ「グギ……」

バアアアアーン！！

風雅 1610 1490

スネオ「タクヒ撃破！」

のびた「やった！」

安雄「相手の主力カードを二枚破壊した！」

ジャイアン「よし！いつけえ！」

風雅「（まあいい。あのカードさえ引き当てれば……）」

今日の最強カードは『追い風』

追い風 オリジナルカード

永続魔法カード

自分の場のモンスター攻撃力は2000アップ！相手モンスターは戦闘を行なうたびに攻撃力が2000ダウン！

相手の攻撃力を下げ続ける厄介なカードだ。自分のモンスターの攻撃力も上がるから、奇襲にも使えるぞ。

**TURN - 10 倒せ！紅葉鳥（前書き）**

VS風雅戦の後半です。時間がかかってすみません。

TURN - 10 倒せ！紅葉鳥

天使の施しによるドローにより、形勢逆転したスネオ。

スネオ「タクヒを撃破！」

ジャイアン「よし！いつけえ！」

風雅「（まあいい。あのカードさえ引き当てれば……）」

スネオ「ターン終了だ！」

風雅「調子にのるなよ……！ドロー！」

ドローカード

クイーンバード

風雅「（このカードじゃない。まあ、壁にはなるか）クイーンバードを守備表示で召喚だ！ターン終了！」

クイーンバード ノーマル

風属性 鳥獣族 レベル5

攻撃力1200 守備力2000

攻撃力1200 1560

守備力2000 2600

のびた「守備力2600！」

安雄「メテオドラゴンじゃ倒せないよ！」

西原「クインバードを倒すには攻撃力2000を越えるフィールドに対応したモンスターじゃないと駄目だ！環境適応能力さえ得る事ができれば倒せる！」

スネオ「確かにデッキに入ってはいるけど手札には無いよ！とりあえずカードを伏せて終了だ！」

スネオは先ほど天使の施しでドローしたカード、フォースフィールドを伏せた。

フォースフィールド スーパーレア

カウンター罠

場のモンスター一体を対象にした魔法カードの発動を無効にする。

使い道はあまり無いが、万が一のために伏せた。しかし、風雅相手

では発動する機会はないだろう。

風雅「ドロー！（違う、このカードじゃない！）ターン終了だ」

スネオ「ドロー」

ドローカード

聖なる魔術師

スネオ「このカードを裏守備表示だ」

聖なる魔術師<sup>セイントマジシャン</sup> スーパーレア

光属性 魔法使い族 レベル2

効果・このカードの表示が表になったとき、自分の墓地から魔法力  
ードを1枚手札に加えることができる。

攻撃力300 守備力400

ちなみに表になったときは、相手モンスターから攻撃を受けたときや、表示形式を裏守備表示から表側攻撃表示に変更したときのことだ。（裏守備表示から表側守備表示には表示形式を変更できない）

風雅「ドロー！（来た！このカードだ！）俺は手札より魔法カード融合を発動！」

スネオ「融合だと！」

ドラえもん「船でのデュエルで雄一君が使っていたのと同じカードだー！」

ドラえもんの言うとおり、融合のカードは西原がカイザードラゴンを召喚するのに使用していた。風雅はどのようなモンスターを召喚するのだろうか？

風雅「俺は手札より二体の鳥獣を融合させ、紅葉鳥を召喚ー！」

風雅の声と同時にフィールド上に二体の鳥獣が現れ、融合していく。  
現れたモンスターはまさに、紅葉のごとく紅き鳥だった。

紅葉鳥 ノーマル

炎族性 鳥獣族 レベル6

攻撃力2300 守備力1800

融合 セイント・バード+スカイ・ハンター

風雅「これが俺のデッキ最強の鳥獣、紅葉鳥だ！当然環境適応能力  
を得て攻撃力がアップ！」  
フィールドパワーソース

紅葉鳥

攻撃力2300 2990

守備力1800 2340

スネオ「攻撃力2990だって！！ほぼ3000じゃないか！！」

風雅「メテオドラゴンに攻撃！」

スネオ「（そうだ！！僕の間にはあのカードが！！）万能地雷グレ  
イモヤ発動！！攻撃モンスターは木端微塵に吹き飛ばさぞ！！」

風雅「無駄だ！宙を舞う鳥獣に地雷など効くものか！」

風雅の言うとおり、紅葉鳥は地雷によって破壊されなかった。

メテオドラゴン「ギヤアアア……」

バアアアアーン！！

スネオ「うわあっ」

風雅「地雷が効くのは地面を歩くモンスターだ。覚えておくんだな」

スネオライフ1045 395

風雅「メテオドラゴン撃破！」

スネオ「くそお！」

のびた「ああ！スネオのモンスターが…」

風雅「フハハハハ！形勢は逆転したぜ！」

形勢を逆転させてしまったスネオ。先ほどまでとは違って変わって  
一気にピンチだ。

ジャイアン「おい！やばいんじゃないか！」

安雄「ライフが400も無いよ！…あと一撃でやられちゃう」

スネオ「ド、ドロー！」

ドローカード

罨はずし

スネオ「（くそ）。こんな時に！）このままターン終了だ」

一応スネオのフィールドにはタートルタイガーと裏側表示の聖なる<sup>セイント</sup>魔術師<sup>マジシャン</sup>がいるのでモンスターは召喚しなくても壁がなくなることはない。

風雅「俺のターンだ！ウイング・イーグルを召喚！」

ウイング・イーグル ノーマル

風属性 鳥獣族 レベル5

攻撃力1800 守備力1500

攻撃力1800 2340

守備力1500 1950

風雅「ウイング・イーグルでタートルタイガーを攻撃！」

スネオ「うわ！」

風雅「お前の場には裏側のモンスターがいる。命拾いしたな。ターン終了だ」

デュエルモンスターのルールでは、ライフが0になる以外に場にモンスターが出せなくなっても敗北してしまう。(すでに場にいる場合は出さなくてもよい)

このまま戦いが長引けば、スネオは出せるモンスターが無くなり敗北してしまう。

1ターンに1度しか攻撃宣言ができないというルールに救われた。

スネオ「僕のターン、（逆転のカード、来て！）ドロー！！」

ドローカード

苦渋の選択

スネオ「僕は手札から苦渋の選択を発動！！」

風雅「苦渋の選択だと！！」

苦渋の選択 ノーマル

通常魔法

自分はデッキからカードを5枚選択する。そのカードを相手に見せ、

その中から相手はカードを1枚選択する。  
そのカードを手札に加え、残りは墓地に送る。

スネオ「僕が選ぶのはこのカードだ!!」

死者蘇生

ホーリー・ナイト・ドラゴン

メタモルポッド

昇天の角笛

硫酸の溜まった落とし穴

死者蘇生    スーパーレア

通常魔法

自分、相手の墓地からモンスターを蘇生させ味方にする。

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

レベル7 光属性 ドラゴン族

攻撃力2500 守備力2300

メタモルポッド レア

レベル2 地属性 岩石族

効果・このカードの表示が表になったとき、お互いのプレイヤーは手札を全て捨てる。その後お互いにデッキから五枚のカードを引く。

攻撃力700 守備力600

昇天の角笛 スーパーレア

カウンター罫

相手がモンスターを召喚したときに発動できる。自分の場のモンスターを一体生贄に捧げてそのモンスターの召喚を無効にして破壊す

る。

硫酸の溜まった落とし穴 ウルトラレア

通常罠

場の裏側表示のモンスターを表側にする。そのモンスターの守備力が2000以下なら破壊する。2000より上なら元に戻す。

スネオの選んだカードに考え込む風雅。

風雅「（なぜ、ホーリー・ナイト・ドラゴンのカードが…あのカードはおそらく奴のデッキの切り札のはず。死者蘇生のカードを捨てたら復活させることもできない。それをなぜ？）」

少し考え込んだ結果、

風雅「…硫酸の溜まった落とし穴だ」

風雅は硫酸の溜まった落とし穴を選択した。

風雅「あのカードを発動するには裏側表示のモンスターが存在しないといけない。俺はこの状況では裏側表示のモンスターは召喚しないし、奴もまさか自分のモンスターを破壊したりはしないだろう」

スネオは苦渋の選択の効果で4枚のカードを捨てた。

ジャイアン「何故だ?!なんでホーリー・ナイト・ドラゴンを墓地に捨てたんだ!勝ちたくないのか!」

のびた「あのカードはデッキの切り札のはずなのに」

スネオの行動に戸惑うのびた達。しかし、

スネオ「この勝負は僕の勝ちだよ!」

風雅「なに!どういうことだ!」

スネオ「ぼくは裏側守備表示のこのカードを表にする！」

スネオは裏側だった聖なる魔術師セイントマジシャンを表にした。

スネオ「このカードの表示が表になったとき自分の墓地から魔法カードを1枚手札に加えることができる！！」

風雅「お前の墓地の魔法カード…そうか！！死者蘇生のカードか！！」

スネオ「そうだ！死者蘇生発動！！ホーリー・ナイト・ドラゴンを蘇生！！」

スネオはこのために苦渋の選択のカードを発動していた。墓地に切り札を送るために。

風雅「ホーリー・ナイト・ドラゴンだとお！！！！」

スネオ「そして手札より聖竜族の爪を発動。ホーリー・ナイト・ドラゴンの攻撃力600ポイントアップ！」

聖竜族の爪 オリジナルカード

装備魔法

光属性、ドラゴン族のモンスターにのみ装備可能。 攻撃力6000ポイントアップ！

ホーリー・ナイト・ドラゴン

攻撃力4030  
守備力2990

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴンでウイング・イーグルに攻撃  
！！」

風雅「くっ、クソ！！攻撃力の低いモンスターを召喚したのが裏目  
に出たか！！」

風雅ライフポイント0

スネオ「僕の勝ちだ！！スターチップはもらっよ！！」

ドラえもん「まず一個目を手に入れたぞ！！」

今日の最強カードは『死者蘇生』

死者蘇生    スーパーレア

通常魔法

自分、相手の墓地からモンスターを蘇生させ味方にする。

敵、味方を問わずモンスターカードを蘇生させる強力なカードだ。  
このカード一枚で逆転も夢じゃない！

**T U R N - 1 0 倒せ！紅葉鳥（後書き）**

苦渋の選択のコンボは昔よく見かけましたね。

TURN - 11 二人目のデュエリスト（前書き）

登場キャラを考えるのは結構大変です。

デュエルの辻褄合わせも大変だし…。

オリカを使いすぎるのも…。

TURN - 11 二人目のデュエリスト

デュエリスト・キングダム  
決闘者の王国でのスネオの最初の戦い、その勝負はスネオが制した。

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴンで攻撃！」

風雅「くっ、クソ！！負けた！」

デュエルが終わり、デュエルリングから降りる風雅とスネオ。

スネオ「僕の勝ちだから、約束どおりスターチップはもらっよ！」

風雅「ああ。当然だ。スターチップは渡すぜ」

試合前の約束どおり風雅はスターチップをひとつ渡した。

風雅から貰ったスターチップをデュエルグローブの星型のくぼみに入れる。これで、スネオのスターチップは三個になった。

風雅「しかし、お前は強いな。最後のホーリー・ナイト・ドラゴンをおんな方法で出すとは……」

スネオ「まあね」

風雅「へへ。俺はスターチップがひとつになっちゃまったし、適当な奴と戦ってスターチップを稼ぐぜ。じゃあな」

そういつて風雅は去っていった。

西原「…じゃあ僕もそろそろいくよ」

のびた「えっ！なんで？」

西原「僕もスターチップを集めないといけないしね。ずっと一緒にいても相手を探すのは難しそうだし」

安雄「そうか。じゃあまたね」

西原「うん。次は城で会おう！」

西原も去っていった。確かに一緒にいては対戦相手を探すのも大変だろう。

のびた「…行っちゃったね」

スネオ「まあ、結構いい奴だったよね」

静香「そうね」

のびた「そういえば「城で会おう」って行っていたけれど、どういう意味かな？」

スネオ「スターチップを10個集めた者はさっきの城の中にはいることができるんだ。先着4人だけだけだね」

のびた「へえ。そうだったのか」

ドラえもん「さあ、僕らも対戦相手を探そうよ」

スネオ「そうだね。ずっとここにいっても仕方がないし」

ジャイアン「あっちの方探してみようぜ」

ジャイアンが森の方を指さす。

スネオ「駄目だよ。忘れたの？フィールドパワース環境適応能力のこと」

ジャイアン「そうだった！フィールドパワース環境適応能力のことをすっかり忘れていたぜ」

のびた「森じゃ駄目なの？」

スネオ「僕のデッキに森に対応するモンスターは殆どいないんだよ。のびたのデッキなら森フィールドでも良かったのに…」

のびたのデッキは昆虫・獣・植物族などからなるデッキだ。確かにフィールドパワースどれも森の環境適応能力を得られる種族だ。

安雄「じゃあどんなフィールドがいいんだよ？」

スネオ「僕のデッキは種族が統一されていないからなあ。強いて言えれば山か草原かな。山なら切り札のドラゴン族を強化できるし、草原なら主力のカードを強化できる」

切り札というのはホーリー・ナイト・ドラゴンやメテオ・ドラゴンのことだろう。

確かにどれも強力なカードだ。

のびた「なるほど」

ジャイアン「じゃあ、山か草原で決闘者を探そうぜ」

ドラえもん「うん。そうしたほうがいいね」

スネオ達はまず草原のほうに向かった。

草原は決闘者の王国で最も広いフィールドである。そのため、草原では多くのデュエリストが闘っていた。

静香「うわあ、沢山の人がいるわね」

安雄「この中から闘う奴を選ぶのか…」

ジャイアン「スネオ、最初はできるだけ弱そうな奴にしたほうがいいぞ。さっきの風雅って奴はかなり強かったじゃねえか」

スネオ「うん。そうするよ」

ジャイアン「とりあえずそこら辺を探そうぜ。ジツとしていても埒があかねえ」

スネオ「うん」

スネオたちはとりあえず辺りを歩き始めた。

しかし、いくら探しても弱そうなデュエリストはいなかった。

のびた「中々弱そうなデュエリストっていないものだね」

ドラえもん「そうだね」

元々この大会は選ばれた者しか来られない大会なのだ。そんな大会で弱いデュエリストを探すのは難しいだろう。

しかし、そんな時、

安雄「ねえ、あっちのほうに人だかりができていますよ」

安雄は草原のデュエルリングを指さした。

10人ほどの人だかりが出来ており、どうやらデュエルが行なわれているようだ。

ドラえもん「本当だ!」

のびた「行ってみようよ!」

スネオ「まあ、ここにいってもしょうがないし行ってみるか」

ドラえもん達は草原のデュエルリングに向かった。

草原のデュエルリングでは、なんと少女がデュエルをしていた。

少女「紅葉の女王でサンド・ストーンに攻撃！」

紅葉の女王 ノーマル

地属性 植物族 レベル5

攻撃力1800 守備力1300

サンド・ストーン ノーマル

地属性 岩石族 レベル5

攻撃力1300 守備力1600

相手デュエリスト「ぐっ！」

ライフ0

少女「はい、私の勝ちね。スターチップは貰うわ」

デュエルは少女の勝ちのようだ。しかも、少女のライフは2000のままだ。

一般デュエリスト「すげえなあ、あいつ。もう三連勝だぜ」

ドラえもん達はこのデュエリストに話を聞いてみることにした。

一般デュエリスト「あいつの事か？あいつは『牧等ユリ』かわいらしい見た目とは裏腹にデュエルの腕は一流だ」

スネオ「へえ」

のびた「でもなんでこんなに人が集まっているの？」

一般デュエリスト「あいつは自分に勝ったデュエリストに賭けたスターチップを倍にしてわたすと言ったんだ」

2倍といったら1枚賭けても勝ったら2枚、2枚賭ければ4枚になる。

よっぽど自信があるということか。

ユリ「さあ、誰か挑戦する人はいない？」

しかし、誰も挑もうとはしなかった。

ジヤイアン「なあスネオ、戦えよ？さつき貰ったスターチップもあるんだし、一回負けても大丈夫だぜ」

スネオ「まあ、そうだけど」

風雅から貰ったスターチップと、元からあるスターチップの数を合わせて三個。

もし、一個賭けて負けてもスターチップは二個になるだけだ。

スネオ「まあ一個くらいなら賭けてもいいかな。それにこのフィールドなら環境適応能力もつかえる！」

どうやらスネオは戦う気になったようだ。

スネオ「よし！僕が闘うぞ！」

そう言って、デュエルリングのプレイヤーゾーンに飛び乗った。

ユリ「いいの？やめるなら今のうちよ？」

スネオ「やめないぞ！」

ユリ「そう。じゃあデッキをスタンバイして」

デッキを置くスネオとユリ。

スネオ&ユリ「デュエル！！」

今日の最強カードは『紅葉の女王』。

紅葉の女王 ノーマル

地属性 植物族 レベル5

攻撃力1800 守備力1300

攻撃力の高い植物族モンスターの女王だ。

森の環境適応能力フィールドパワーソースを利用して攻撃だ！！



TURN - 12 地雷を引け!!

スネオ&ユリ「デュエル!!」

スネオ「僕の先攻!ドロー!」

ドローカード

永遠の渇水 レア

魔法カード

場の魚族モンスターは永遠に続く渇水により全滅。

手札

女剣士カナン ウルトラレア

地属性 戦士族 4レベル

攻撃力1400 守備力1400

アクア・マドール ウルトラシークレット

水属性 魔法使い族 4レベル

攻撃力1200 守備力2000

ドラゴンの秘宝 レア

装備魔法

ドラゴンの能力を300アップ!

細菌感染 レア

装備魔法

装備された機械族以外のモンスターの攻撃力は自分のターンの初めごとに300ダウン!

ドラゴンの宝珠 レア

永続罾

手札を1枚捨てることで表側表示のドラゴン族を対象にした罾カードの発動と効果を無効にして破壊する。

スネオ「僕はカードを1枚伏せる」

スネオは罾カードである『ドラゴンの宝珠』を伏せた。罾カードは伏せて次のターンで無いと使用できないからだ。

スネオ「そして、女剣士カナンを攻撃表示で召喚！フィールドパワーソース環境適応能力で攻撃力30%アップ！」

攻撃力 1400 1820

守備力 1400 1820

スネオ「ターン終了！」

スネオのターンが終わりユリのターンに移る。

ユリ「私のターン！天使の施しを発動！3枚のカードを引いて二枚を捨てる。私はツインテールと王座の守護者を捨てる！」

天使の施し ノーマル

通常魔法

デッキよりカードを三枚引き、二枚を捨てる。

捨てたカード

ツインテール ノーマル

水属性 水族 レベル3

攻撃力600 守備力700

王座の守護者 ノーマル

地属性 戦士族 レベル4

攻撃力700 守備力1500

ユリ、「そして、カードを1枚伏せて、ホーリー・エルフを守備表示で召喚。ターン終了よ」

ホーリー・エルフ スーパーレア

光属性 魔法使い族 レベル4

攻撃力800 守備力2000

スネオ「ドロー！」

ドローカード

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

スネオ「(今の手札じゃホーリー・エルフは倒せないし、どうするかな…)」

少し考え、とりあえずモンスターを出すことにした。相手の攻撃を誘えるかもしれないからだ。

スネオ「地獄の裁判を守備表示で召喚！ターン終了だ！」

地獄の裁判はステータスは弱く、戦闘にはあまり向かない。しかし、壁には十分使える。

ユリ「私のターン！ドロー！私は斬首の美女を召喚！」

斬首の美女 ノーマル

地属性 戦士族 レベル4

攻撃力1600 守備力800

ユリ「そして環境適応能力でパワーアップするわ！」  
フィールドパワーソース

攻撃力1600 2060

守備力800 1040

ユリ「斬首の美女でカナンに攻撃！」

スネオライフ2000 1760

ユリ「ターン終了よ」

後攻1ターン目にて、いきなりライフを削られてしまった。

流石、3人抜きといったところか。

スネオ「うっ……。ドロー！」

ドローカード

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

レベル7 光属性 ドラゴン族

攻撃力2500

守備力2300

スネオ「（えっ！いきなり来た！！）」

引いたカードは『ホーリー・ナイト・ドラゴン』。デッキの切り札だ。

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴン召喚！ドラゴンの秘宝を装備し、攻撃！」

ホーリー・ナイト・ドラゴン

攻撃力 2500      2800

守備力 2300      2600

ユリのライフ    2000    1260

ユリ「あっ！私のライフが！」

ユリのライフを半分ほど削ったスネオ。

一般デュエリストA「すごい！！アイツのライフをかなり削った！  
」

一般デュエリストB「もしかしたら勝てるかも……」

他のデュエリストとのデュエルではライフを全く削られなかったユリのライフをかなり削ったスネオ。

ユリ「結構やるね……。ドロォー！！」

ユリのドローカード

コスモクイーン

ユリ「私はコスモクイーンを召喚！！ホーリー・ナイト・ドラゴンに攻撃！」

スネオ「馬鹿な！ホーリー・ナイト・ドラゴンの攻撃力は2800！それを上回る攻撃力なのか！？」

ユリ「必殺！コズミック・ムーア！」

スネオライフ1760 1660

減ったライフは微小だが、スネオの精神的ダメージは大きい。

なにしろ、切り札がやられたのだ。

スネオ「そんな…」

ユリ「コスモクイーンの攻撃力は2900そんなモンスター敵じゃないわ」

コスモクイーン ウルトラレア

レベル8 闇属性 魔法使い族

攻撃力2900 守備力2450

ユリ「ターン終了よ。デュエルを続ける？それともサレンダーする？」

スネオ「…僕のターン」

ユリ「流石にまだあきらめないわね…」

ドローカード

聖竜族の爪

スネオ「（このカードがあと少し早く来ていればやらなかったのに…）僕は装備魔法の細菌感染を発動。コスモクイーンに装備！」

ユリ「細菌感染!？」

スネオ「このカードは装備された機械族以外のモンスターの攻撃力を僕のターンの初めごとに300ダウンさせるカードだ」

スネオは細菌感染を使い、コスモクイーンの攻撃力を落とし、倒すつもりだ。

のびた「うまい!これなら10ターンすればコスモクイーンの攻撃力は0になるよ!そこに攻撃すれば大ダメージだ!！」

ジャイアン「0になる前に守備にするだろ…」

たしかにそうだが、それでも攻撃は封じたことにはなる。

スネオ「ターン終了だ!」

ユリ「なるほどね…。ならサイクロンを発動。細菌感染を破壊するわ」

サイクロン ノーマル

通常魔法

フィールド上にある魔法カード、または罠カードを1枚を破壊する。

ユリ、「そして装備魔法、ダークネス・オーブを発動！」

ダークネス・オーブ オリジナルカード

装備魔法

装備モンスターの攻撃力を1000アップ！

このカードが墓地に送られたとき700ポイントのライフを払いデッキの一番上に戻すことができる。

コスモクイーン

攻撃力2900 3900

スネオ「攻撃力3900!そんな!」

ユリ「地獄の裁判に攻撃!ターン終了よ」

スネオ「(万能地雷グレイモヤのカードさえ引ければ…あのカードがあれば…)(ドロー!」

ドローカード

エルフの剣士

エルフの剣士

地属性 戦士族 4レベル

攻撃力1400 守備力1200

スネオ「（違う！このカードじゃない！）エルフの剣士を守備表示。  
ターン終了！」

ユリ「ドロー！緑樹の霊王を守備表示。エルフの剣士をコスモクイ  
ーンで攻撃してターン終了よ」

スネオ「守備表示！！（来ない！万能地雷グレイモヤが！風雅戦  
ではどうでもいいところで来たのに！）」

風雅戦では

スネオ「万能地雷グレイモヤ発動！！」

風雅「無駄だ！宙を舞う鳥獣に地雷など効くものか！」

と、万能地雷グレイモヤは風雅の切り札『紅葉鳥』には効かなかった

スネオ「ターン終了！」

ユリ「守備表示で逃げ切るつもり？でも、私のデッキには守備封じのカードが2枚入っているわ！先にそれを引けば終わりよ！」

スネオ「守備封じだと！」

ジャイアン「オイ、のびた守備封じってどんなカードだ？」

のびた「さあ？」

守備封じ レア

通常魔法

相手フィールド上のモンスター1体を選択する。

選択された守備表示のモンスターは攻撃表示になる

スネオ「（守備封じを引かれると負ける！！）」

ユリ「ドロー！！」

ユリのドローカード

魔法除去

魔法除去 ノーマル

通常魔法

フィールド上にある魔法カード1枚を破壊する。

選択したカードがセットされている場合、そのカードをめくって確認し、

魔法カードなら破壊する。罠カードの場合元に戻す。

ユリ「（魔法除去 …今は役に立たないカードね…）」カードを1枚伏せてターン終了」

スネオ「助かった…。ドロー」

メタモルポッド

メタモルポッド レア

レベル2 地属性 岩石族

効果・このカードの表示が表になったとき、お互いのプレイヤーは手札を全て捨てる。その後お互いにデッキから五枚のカードを引く。

攻撃力700 守備力600

スネオ「（よし！このカードならもしかして…）モンスターを裏守備表示で召喚！ターン終了だ！」

ユリ「ドロー！（来ないわね…守備封じ…）コスモクイーンでその裏守備表示モンスターを攻撃！！コズミックムーア！！」

ユリは裏側守備表示のメタモルポッドに攻撃を仕掛けた。当然表になり効果が発動する

スネオ「よし！メタモルポッドの効果発動！お互いのプレイヤーは手札を全て捨て、その後お互いにデッキから五枚のカードを引く！」

ドローカード

一枚目

メテオ・ドラゴン ウルトラレア

地属性 ドラゴン族 レベル6

攻撃力1800 守備力2000

二枚目

硫酸の溜まった落とし穴 ウルトラレア

通常罫

場の裏側表示のモンスターを表側にする。そのモンスターの守備力が2000以下なら破壊する。2000より上なら元に戻す。

三枚目

メガソニック・アイ ウルトラシークレット

闇属性 機械族 レベル5

攻撃力1500 守備力1800

四枚目

タクリミノス ウルトラレア

水属性 海竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力1200

五枚目

万能地雷グレイモヤ ウルトラレア

罨カード

相手モンスターが攻撃してきたときに発動！相手の場の攻撃力が一番高いモンスターは地雷により木端微塵に吹き飛び、破壊される！

スネオ「（やった！！万能地雷のカードを引いたぞ！）」

ユリ「私も手札を全て捨ててカードを引くわ」

ユリのドローカード

一枚目

岩石の巨兵 ノーマル

地属性 岩石族 レベル3

攻撃力1300 守備力2000

二枚目

心眼の女神 ノーマル

光属性 魔法使い族 レベル4

効果・このカードは融合モンスターの融合素材の代わりにできる。  
(他の融合素材モンスターは正規のものを使用しないといけない)

攻撃力1200 守備力1000

三枚目

黒き森のウィッチ ノーマル

闇属性 魔法使い族 レベル4

効果・このカードが場から墓地に送られたときデッキから守備力1  
500以下のカードを手札に加える。

攻撃力1100 守備力1200

四枚目

守備封じ レア

通常魔法

相手フィールド上のモンスター1体を選択する。

選択された守備表示のモンスターは攻撃表示になる

五枚目

悪魔払い

通常魔法

場の悪魔族はお払いにより消滅。

ユリ「(守備封じのカード!!!)」

スネオ「メテオドラゴンを守備!カードを2枚伏せてターン終了!」

伏せたカードは『万能地雷グレイモヤ』と『硫酸の溜まった落とし穴』のカードだ。

ユリ「私のターン、守備封じを発動!!メテオドラゴンを攻撃表示に!!!」

スネオ「（やっぱり！！さっきメタモルポッドの効果で守備封じが手札に来ていたのか！！）」

ユリ「そして私は魔法除去を発動！！」

スネオ「（魔法除去！！あのカードには罠カードを破壊する際に伏せカードが罠かどうかを確認する能力がある…）」

魔法除去は本来、魔法カードを破壊するカードだ。しかし、

『選択したカードがセットされている場合、そのカードをめくって確認し、魔法カードなら破壊する。罠カードの場合元に戻す。』

という効果がある。

これの効果で、もし『万能地雷グレイモヤ』のカードを見られたら警戒され、『コスモクイーン』を破壊することはできなくなるだろう。

ユリ「（2枚の伏せカード…魔法カードならそんなに警戒することもないし…罠だったら怪しい…ブラフではないはずだけど…）私から見て左のカードを破壊するわ」

ユリから見て左のカード…それはスネオから見て右のカードとなる。

そのカードは『硫酸の溜まった落とし穴』だった

ユリ「（硫酸の溜まった落とし穴…今の段階で全くつかえないカードね…ということはやっぱりブラフ？）」

ユリ「コスモクイーンでメテオドラゴンに攻撃！！」

スネオ「畏カード発動！！万能地雷グレイモヤ！！」

『万能地雷グレイモヤ』を発動した瞬間、デュエルリング上に大きな爆発が起こった。

もちろんソリッドビジョンだが、その迫力は本物さながらだ。

そして、先ほどまでフィールド上に存在していた『コスモクイーン』の姿もなくなっている。『万能地雷グレイモヤ』の効果で破壊されたのだ。

ユリ「そんな…コスモクイーンが破壊されるなんて…」

スネオ「やったあ、コスモクイーンを倒したぞ」

今日の最強カードは『コスモクイーン』。

コスモクイーン   ウルトラレア

レベル8   闇属性   魔法使い族

攻撃力2900                   守備力2450

全宇宙をすべるほどの攻撃力を持つ魔法使いだ。

攻撃力と守備力はその『青眼の白龍』にも匹敵するほどだ!!

TURN - 13 猛攻！パワーデッキ

ユリの切り札、『コスモクイーン』を破壊したスネオ。

スネオ「さあ、どうする？ターン終了する？」

ユリ「…ターン終了よ…」

スネオ「ドロー、メテオドラゴンにドラゴンの秘宝を装備して守備表示の緑樹の霊王に攻撃してターン終了」

スネオは二枚目の『ドラゴンの秘宝』を『メテオ・ドラゴン』に装備した。

(一枚目はホーリー・ナイト・ドラゴンに装備されていた)

ドラゴンの秘宝 レア

装備魔法

ドラゴンの能力を300アップ！

メテオ・ドラゴン ウルトラレア

地属性 ドラゴン族 レベル6

攻撃力1800 守備力2000

緑樹の霊王 ノーマル

地属性 植物族 3レベル

攻撃力600 守備力1600

メテオ・ドラゴン 攻撃力1800 攻撃力2100

ユリ「私のターン、ドロー」

ドローカード

強欲な壺

ユリ「私はダークネス・オーブの効果を発動。ライフを700払い、ダークネス・オーブをデッキの一番上に戻す」

ダークネス・オーブ      オリジナルカード

### 装備魔法

装備モンスターの攻撃力を1000アップ！

このカードが墓地にあるとき700ポイントのライフを払いデッキの一番上に戻すことができる。

ユリのライフ1260      560

ユリは、先ほど『コスモクイーン』とともに墓地に送られた『ダークネス・オーブ』を効果によりデッキの一番上に戻した。

ユリ「そして手札より、強欲な壺を発動。デッキからカードを二枚  
ドローするわ」

強欲な壺      ノーマル

### 通常魔法

デッキから2枚のカードをドローする

強欲な壺によるドローカード

踊りによる誘発

ダークネス・オーブ

ユリ「手札から踊りによる誘発を発動!!」

踊りによる誘発 ノーマル

儀式魔法

フィールドか、手札からレベルが6以上になるようにモンスターを生贄にささげ、『ダンシング・ソルジャー』を降臨させる。

ユリ「場のホーリー・エルフと手札の心眼の女神を生贄に!!」

ホーリー・エルフ レベル4

心眼の女神 レベル4

スネオ「生贄…まさか儀式モンスター!?」

ユリ「そう！儀式モンスター、ダンシング・ソルジャー降臨！」

ダンシング・ソルジャー ノーマル

地属性 戦士族 6レベル

攻撃力1950 守備力1400

儀式モンスターとは儀式魔法がないと召喚できない特別なカードだ。

ユリ「さらに再びダークネス・オーブを装備！」

ダンシング・ソルジャー

攻撃力1950 攻撃力2950

ユリ「そして草原の環境適応能力でパワーアップ!!」  
フィールドパワーソース

ダンシング・ソルジャー

攻撃力2950 攻撃力3535

一般デュエリスト「攻撃力3535!さっきのコスモクイーンには及ばないけどすごい力だ!」

ユリ「ダンシング・ソルジャーでメテオ・ドラゴンに攻撃!」

スネオ「うわ!!」

スネオのライフ1660 225

一気にスネオのライフを1000以上も削ったユリ。形勢も一気に逆転。スネオが追い詰められた。

ユリ「ターン終了よ」

スネオ「（場に高攻撃力のモンスターが途切れない。まさにパワーデッキだ…）ドロー…」

ドローカード

死者蘇生

スネオ「（死者蘇生のカード…でも今は使えないな）僕はタクリミノスを守備表示。ターン終了」

タクリミノス ウルトラレア

水属性 海竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力1200

今、『死者蘇生』のカードを使ったとしても攻撃力3535の『ダッキング・ソルジャー』を上回る能力を持つモンスターを出すことはできない。

『ホーリー・ナイト・ドラゴン』を出し、手札の『聖竜族の爪』を装備すれば攻撃力3100になるのだが…。

攻撃力3100では『ダンシング・ソルジャー』に及ばない。

一応、『コスモクイーン』を出すこともできるが意味はないだろう。

ユリ「ダンシング・ソルジャーでタクリミノスに攻撃！」

スネオ「何かいいカードがあれば…そうすれば（ドロー！…）」

ドローカード

タートルタイガー

スネオ「タートルタイガーを守備表示！」

タートルタイガー ウルトラシークレット

水属性 獣族 レベル4

攻撃力1000 守備力1500

ユリ「ダンシング・ソルジャーで攻撃！」

スネオ「ドロー!!!」

ドローカード

大嵐

スネオ「（大嵐…そうだ!!!）ぼくは魔法カード大嵐を発動!!!」

ユリ「大嵐!？」

大嵐 ノーマル

通常魔法

場の魔法、の罨カードをすべて破壊する。

『大嵐』の効果によりスネオの場に伏せてあった『ドラゴンの宝珠』と『硫酸の溜まった落とし穴』、そしてユリの伏せカードと『ダークネス・オーブ』が破壊される。

『ダークネス・オーブ』が破壊され、『ダンシング・ソルジャー』の攻撃力が下がる。

ダンシング・ソルジャー

攻撃力3535 攻撃力2535

スネオ「そして手札から死者蘇生を発動！ホーリー・ナイト・ドラゴンを復活！！」

死者蘇生 スーパーレア

通常魔法

自分、相手の墓地からモンスターを蘇生させ味方にする。

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

レベル7 光属性 ドラゴン族

攻撃力2500 守備力2300

スネオ「そしてホーリー・ナイト・ドラゴンに聖竜族の爪を装備！！」

攻撃力2500 3100

ユリ「そんな！！攻撃力3100！！」

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴンでダンシング・ソルジャーに  
攻撃！！セイント・フレア！！」

ユリ「（さっき私の場に伏せてあったのは相手の攻撃を無効にする  
攻撃の無力化…。あれを発動できていれば…）きゃあ！！」

ユリのライフ5600

ユリ「そんな…私が負けるなんて…」

デュエルも終わり、ユリとスネオはデュエルリングから降りていた。

ユリ「はい、スターチップ二個よ。」

ユリは最初の約束どおりに賭けたスターチップの二倍の数をくれた。

スネオは一個賭けたから二個もらえる。

スネオ「これでスターチップは合計五個になったぞ」

ジャイアン「後五個集めればいいんだな!!」

のびた「そうすれば城の中にいけるね!!」

ドラえもん「よし!あと五個がんばろう!!」

今日の最強カードは『ダークネス・オーブ』。

ダークネス・オーブ      オリジナルカード

装備魔法

装備モンスターの攻撃力を1000アップ！

このカードが墓地にあるとき700ポイントのライフを払いデッキの一番上に戻すことができる。

ライフがある限り何回でも墓地から戻せるカードだ。

ただし、使いすぎるとすぐにライフが尽きてしまつから気をつけよう。

純粹なパワーデッキ向きのカードだ。

## TURN - 14 デュエリストの休息

ユリを倒し、スターチップが五個になったスネオ。

ユリを倒した後、スネオ達は戦うデュエリストを探していた。

だが、ちょうどいい相手がいなかった。

ほとんどのデュエリストはデュエルを申し込んでも断るからだ。

おそらく今までのスネオのデュエルを見ていたからだろう。

また、既にスターチップを失い、島から強制退去させられた者が多く居るせいでデュエリストの数が減っているのも原因の一つだ。

結局、相手を探している内に昼になってしまった。

のびた「お腹すいたよ」

静香「そういえばそうね」

ジャイアン「よし、そろそろ飯にしようぜ」

ドラえもん「そうだね、もうすぐお昼だし、休憩しよう」

ドラえもん達は、見晴らしのいい丘の上に行った。

ドラえもん「この辺で食べよう。見晴らしもいいしね」

そういつて、ドラえもんはお腹のポケットに手を入れ、1m四方ほどの布を取り出し、その布を地面に敷いた。

ドラえもん「はい、『グルメテーブルかけ』！」

安雄「なにこれ…？」

『グルメテーブルかけ』といえば、いつもの冒険には欠かせない道具だ。

しかし、安雄は今までにそういつた冒険に参加した事が無いので『グルメテーブルかけ』がどいつ道具か知らなかった。

ドラえもん「これは、『グルメテーブルかけ』って言ってね、自分の好きな食べ物を出すことができるんだ」

安雄「へえ、すごいなあ」

ドラえもん「さあ、みんな何が食べたい？」

のびた「じゃあ、お子様ランチ！」

ジャイアン「俺、カツ丼大盛りで！」

スネオ「僕はステーキ。焼き方はレアで」

静香「私、ホットケーキね」

安雄「じゃあ僕はハンバーガーとコーラ！」

それぞれ自分の食べたいものを注文した。

そして、先ほど敷いた『グルメテーブルかけ』の上に料理が出てき

た。

ドラえもん「みんな、自分の料理を取って」

みんな「ハイー!!」

皆、それぞれの料理を食べ始めた。

ジャイアン「うめえ!!」

のびた「ここは空気もいいし最高だよ!!」

静香「見晴らしもいいわね」

スネオ「うん!!」

静香「それにしても、大会を開いておいて食事も出さないなんてひどいわね」

ジャイアン「全くだぜ。船の中ではちゃんと出たのによ」

ドラえもん「他の人たちはどうしているんだろう。雄一君とか…」

『決闘者の王国』が現在行なわれている島は中央に小高い山があり、そこに決勝が行なわれる城がある。

そしてその周りは草原や荒野、湖などの自然がそのままデュエルフィールドになっている。

つまりデュエルリングと城以外にはほとんど建造物が無い。(船がとまるための小さな港ならある)

そんな島に食料を販売している店はもちろん、自販機すら無い。

もちろん食事も出ないので、各自で用意してくるなり、魚などを捕まえて食べるということなのだろう。

のびた「それにしても、スネオ、2連勝でしょ、すごいなあ」

スネオ「まあね。スターチップもあと5個だし、すぐ城にいけるかもね」

ジャイアン「城に行けばちゃんと飯も出るよな？」

スネオ「あれだけ大きい城なら食料も当然あるだろうし、たぶん出ると思うよ」

などと話していると突然、

????「おい！お前達！」

突然、何者かが怒鳴り込んできた。

腕にデュエル・グローブを着けているので、デュエリストなのだろう。

のびた「うわ！」

ジャイアン「何だお前は!？」

静香「今は食事中なのよ！」

スネオ「もしかしたらデュエルしようって言っただけか？そっぴい」と

なら相手になるよ!」

腕にデュエル・グローブを着けているの確認したスネオはデュエルの申し込みかと思ったようだ。

しかし、

???「頼む!俺に何か食べ物くれ!」

ドラえもん「え!」

ガツガツムシャムシャ…

バリバリバリ…

ガツムシャバリ…

????「ふう。うまかった」

どうやら食べ終わったらしい。

『グルメテーブルかけ』の上には大量の使い終わった食器が置かれていた。

静香「こんなに沢山食べて…」

ドラえもん「よほどお腹がすいていたんだね」

のびた「ところであんた、一体何者なの？」

???「俺か？俺は海竜使いのデュエリスト、『海津うみづ 龍夫たつお』さ！」

スネオ「デュエリストってことは僕と戦いに来たの？」

デュエリストと聞いて、スネオは海津を少し警戒しているようだ。

海塚「いや、こっちのほうでいい匂いがしたからさ…つい…腹へってたし…」

海津はデュエルをやりに来たわけではなく、食べ物が欲しかっただけらしい。

海津「昨日から何も食べていないからなあ。夜中までデッキを調整していたせいで寝坊して、船で出た朝食も食い損ねたし」

のびた「ねえ、海津君。今どれだけスターチップ持っているの？」

海津「2個だ。一応2回戦ったんだけどな。1勝1敗だよ」

のびた「ふうん。ねえ、僕と戦ってみない？もちろんスターチップ  
なんか賭けないでね」

海津「まあ、腹ごなしにちょうどいいか…よし！やるうー！」

ジヤイアン「マジでやるのかよ？あいつは決闘者の王国の参加者だ  
ぜ？」

のびた「一度デュエルリングを使ってみたかったしね」

ドラえもん「じゃあ、さっきのデュエルリングにいこう！」

のびたと海津は先ほどユリとスネオが戦ったデュエルリングにいった。

さっきまでは、人だかりができていたが、もう誰も居なかった。

ユリがスネオに負けたせいで、大半の人が興味を失ったからかもしれない。

海津「なるほど…。フィールドは100%草原ってわけか…」

のびた「へえ、ここがカードをおくところか…」

二人とも既にプレイヤーゾーンにデッキをセットしていた。

海津「準備はいいか？」

のびた「うん」

海津&のびた「デュエル!!」

海津 ライフ2000

のびた ライフ2000

海津「俺の先攻だ！ドロー！タクリミノス召喚！攻撃表示！」

タクリミノス ウルトラレア

水属性 海竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力1200

ジャイアン「あのカード、スネオもデッキに入れているよな？」

スネオ「うん。結構攻撃力も高いしね。デッキの主力だよ」

ジャイアン「なるほどな……」

のびた「ドロー」

ドローカード

攻撃封じ ノーマル

通常魔法

相手フィールド上のモンスター1体を選択する。

選択された攻撃表示のモンスターは守備表示になる

のびたの手札

オオカミ ノーマル

地属性 獣族 3レベル

攻撃力1200 守備力800

空の昆虫兵 ノーマル

風属性 昆虫族 3レベル

攻撃力1000 守備800

風属性モンスターと戦闘したとき攻撃力が1000ポイントアップする。

人食い植物 ノーマル

地属性 植物族 2レベル

攻撃力800 守備力600

魔菌 ノーマル

装備魔法

植物族を成長させ、攻撃力を300ポイントアップさせる。

右手に盾を左手に剣を ノーマル

## 通常魔法

エンドフェイズ終了時まで、このカードの発動時に存在していたフィールド上の全ての表側表示モンスターの元々の攻撃力と元々の守備力を入れ替える。

のびた「人食い植物を守備表示で召喚！ターン終了」

人食い植物 ノーマル

地属性 植物族 2レベル

攻撃力800 守備力600

海津「ドロー。スパイクシードラを召喚！」

スパイクシードラ ノーマル

水属性 海竜族 レベル5

攻撃力1600 守備力1400

海津「スパイクシードラで人食い植物に攻撃だ！」

のびた「うわ！すごい迫力！！！」

ソリッド・ビジョンのモンスターの攻撃の迫力に驚くのびた。

しかし、デュエルリングでデュエルをする以上あまり驚いてもいられない。

海津「ターン終了！」

のびた「ドロー！」

ドローカード

ウィルミィー ノーマル

地属性 獣族 4レベル

攻撃力1000 守備力1200

のびた「空の昆虫兵を守備表示で召喚！ターン終了」

空の昆虫兵 ノーマル

風属性 昆虫族 3レベル

攻撃力1000 守備800

風属性モンスターと戦闘したとき攻撃力が1000ポイントアップする。

海津「ドロー。怒りの海王を召喚！守備表示！」

怒りの海王 ノーマル

レベル3 水属性 水族

攻撃力800 守備力 700

海津「そして、タクリミノスで攻撃！ターン終了！」

ジャイアン「おい！のびた、押されっぱなしじゃないか！」

のびた「そんなこといっても……」

かたや決闘者の王国の参加者、かたや初心者同然のデュエリスト。

勝敗は戦う前から決しているかもしれない。

しかし、のびたの真の力は追い詰められたときに発揮される。

それに勝負はまだ決まったわけではない。

のびた「ドロー！」

ドローカード

覚醒

のびた「僕はウィルミールを攻撃表示で召喚……！」

ウィルミール ノーマル

地属性 獣族 4レベル

攻撃力1000 守備力1200

ジャイアン「のびた！そんなカードじゃ瞬殺されるぞ！」

のびた「まあ見ててよ。このカードで攻守逆転！右手に盾を左手に剣を！」

右手に盾を左手に剣を ノーマル

通常魔法

エンドフェイズ終了時まで、このカードの発動時に存在していたフィールド上の全ての表側表示モンスターの元々の攻撃力と元々の守備力を入れ替える。

海津「なに！攻守逆転！」

『右手に盾を左手に剣を』の効果で場のカードの攻守は逆転し以下のような能力になった。

のびたの場

ウィルミール

攻撃力1200 守備力1000

海津の場

怒りの海王

攻撃力700 守備力800

スパイクシードラ

攻撃力1400 守備力1600

タクリミノス

攻撃力1200 守備力1500

のびた「そして覚醒を発動！ウィルミーンに装備！」

覚醒 ノーマル

装備魔法

地属性モンスターにのみ装備可能。

攻撃力を400アップ！守備力を200ダウン！。

ウィルミーン

攻撃力 1200      1600

のびた「ウィルミーンでタクリミノスに攻撃

海津      ライフ 2000      1600

海津「うっ！」

ジャイアン「いいぞ！のびた」

静香「すごいわ！」

のびた「そう！エヘヘ。ターン終了だよ！」

海津「俺のターン。右手に盾を左手に剣を、のカードは効果が切れてモンスターの攻撃力が戻る」

のびたの場

ウィルミー

攻撃力1400 守備力1000

海津の場

怒りの海王

攻撃力800 守備力700

スパイクシードラ

攻撃力1600 守備力1400

安雄「あつ！スパイクシードラの攻撃力は1600、ウィルミーを上回っている！」

海津「確かに。でも俺は別のカードを使う」

ドラえもん「別のカード？」

海津「魔法カード融合発動！」

融合 スーパーレア

通常魔法

決められたモンスター2体以上を融合させる。

のびた「融合だって！」

海津「この効果で俺は手札のフェアリードラゴン、ゾーン・イータ  
ー、そして海原の女戦士を融合させる！」

フィールドに三体のモンスターが現れ、重なっていく。

海津「現れる！アクア・ドラゴン！」

そこに現れたのは巨大な蒼き竜だった。

のびた「アクア・ドラゴン!?!」

アクア・ドラゴン ノーマル

水属性 海竜族 6レベル

融合モンスター

攻撃力2250 守備力1900

フェアリードラゴン+ゾーン・イーター+海原の女戦士

海津「さらに装備魔法カード、はがねの甲羅を発動！」

はがねの甲羅 ノーマル

## 装備魔法

水属性モンスターにのみ装備可能。

攻撃力を400アップ！守備力を200ダウン！。

アクア・ドラゴン

攻撃力2250 守備力1900 攻撃力2650 守備力1700

海津「アクア・ドラゴンでウィルミーに攻撃！」

のびた ライフ2000 750

のびた「ライフが一気に半分以下になった！！」

海津「そしてカードを1枚伏せてターン終了」

のびた「僕のターン、ドロー！」

ドローカード

一角獣のホーン

一角獣のホーン スーパーレア

装備魔法

装備モンスターの攻撃力を700アップさせ、電撃攻撃を可能にする！

このカードは墓地に置かれたときデッキの一番上に戻る。

のびた「一角獣のホーン…。そうだ！このカードなら…！」

海津「？」

のびた「オオカミを攻撃表示…！」

オオカミ ノーマル

地属性 獣族 3レベル

攻撃力1200 守備力800

海津「馬鹿な！オオカミの攻撃力は1200。アクア・ドラゴンは

もちろん、スパイク・シードラにもかなわないぞ」

ジャイアン「ヤケになったか、のびた!!」

ギャラリーから見たらヤケになったとしか思えないだろう。

しかし、もちろん策はある。

のびた「オオカミに一角獣のホーンを装備!」

オオカミ

攻撃力1200 攻撃力1900

のびた「そして攻撃封じを発動!!」

攻撃封じ ノーマル

通常魔法

相手フィールド上のモンスター1体を選択する。

選択された攻撃表示のモンスターは守備表示になる

海津「攻撃封じ!?!」

のびた「このカードは相手フィールド上のモンスター1体を守備表示にするんだ!」

安雄「そうか!?!アクア・ドラゴンの守備力は1700。攻撃力1900のオオカミなら倒せる!」

のびた「このカードでアクア・ドラゴンを守備表示に!」

先ほどまで攻撃態勢をとっていた『アクア・ドラゴン』が『攻撃封じ』の効果で守備体制になった。

しかし、その守備は余りにも脆い。

のびた「オオカミでアクア・ドラゴンに攻撃!」

デュエル・リング上の『オオカミ』が『アクア・ドラゴン』に向かって突進していく。

ジャイアン「よし、アクア・ドラゴンを倒したぞ！」

海津「そうかな？ 畏発動！ 闇の呪縛！！」

闇の呪縛 ウルトラレア

永続魔法

相手の表側表示モンスター一体は表示形式の変更、攻撃を封じられる。

そして攻撃力が700ポイントダウンする。

海津「このカードでオオカミの攻撃は無効となる！ よってアクア・ドラゴンは無傷！」

のびた「そんなあ」

海津「そして俺のターン。アクア・ドラゴンを攻撃表示に変更！ そしてオオカミに攻撃！！」

のびた「うわわああ！！」

のびたのライフ 7500

海津「よし！俺の勝ちだ！！」

デュエルが終わり、のびたと海津はデュエルリングのプレイヤーゾーンから降りていた。

海津「いやあ、結構楽しかったぜ。この島に来てずっと真剣勝負だったからな」

のびた「僕も楽しかったよ。負けちゃったけどね」

海津「ハハハ。そうだ。そういえば俺、さっき戦った奴から妙なことを聞いたんだ」

スネオ「妙なこと？」

海津「そうだ。どうやらこの『決闘者の王国』には正規の参加者以外のデュエリストが紛れ込んでいるらしいんだ」

スネオ「なんだって！」

ジャイアン「正規の参加者じゃないってどういことなんだ？」

海津から聞かされた意外な事実には驚くスネオ達。

海津「さあ。わからない…でもそいつのせいでこの大会からリタイアした奴もいるらしい」

スネオ「なんだって！」

ジャイアン「一体何者なんだろう…！」

海津「まあ、俺には関係ないな。じゃ、俺はそろそろ行くかな」

ジャイアン「おう。またな！」

海津「じゃあな！またどこかであおうぜ…！」

ドラえもん達「バイバーイ…！」

今日の最強カードは『アクア・ドラゴン』

アクア・ドラゴン ノーマル

水属性 海竜族 6レベル

融合モンスター

攻撃力2250 守備力1900

フェアリードラゴン+ゾーン・イーター+海原の女戦士

珍しい海竜族の融合モンスターだ。

しかも三体融合の強力モンスターだぞ！！

スネオ達は海津と別れたあとも、戦う相手であるデュエリストを探していた。

しかし、なかなか見つからなかった

また、現在残っているデュエリストがかなりの強豪ばかりなのでスネオが戦いを控えるのも原因だ。

そして戦う相手が見つからぬまま、夕方になってしまった。

現在、スネオ達は森の中でデュエリストを探していた。

本来スネオの得意な地形（デュエル時の環境適応能力フィールドパフォーマンスにかかわる）は草原と山だが、戦う相手がいないので、あまりかまっていられなかった。

しかし、森の中に

のびた「ヒイ、ヒイ……。疲れたよ。もう休もうよ。」

安雄「た、確かに…疲れたよ…。」

静香「疲れたわあ……。」

ジャイアン「あ、ああ。」

のびた達は昼、海津と会ったときに一度休んで以来、ずっと歩きとおしだった。

これでは疲れるのも当然だ。

ドラえもん「そ、そうだね。それに、そろそろ日が暮れそうだしね。今日はここら辺でキャンプでもしよう。」

そういつてドラえもんはポケットからあるものを出した。

ドラえもん「はい、『三角テント』。」

ポケットから出てきたのは、テントだった。

しかし、どう見てもテントには見えない。

あえて言うなら窓のついたピラミッドだ。しかも、窓は正三角錐の全ての面に一つづつある。

のびた「『三角テント』？テントなの？これ」

ドラえもん「これはどんなに寝相の悪い人でも中で安心して寝られるというテントなんだ」

スネオ「え〜。いつもの『キャンピングカプセル』は？」

ドラえもん「全部修理と点検に出してるんだよ。悪いけどこれで我慢してね」

ジャイアン「まあいいじゃないか。雨風をしのげるだけましだぜ」

のびた「確かにそうだけどね…」

ドラえもん「じゃあ、キャンプの準備をしよう！みんな、薪を集め

て来て。焚き火をするから！」

のびた「え〜。面倒だよ〜。疲れているのに」

ドラえもん「つべこべ言わず持つてくるのー!!」

のびた「ハイ…」

しぶしぶながらも、薪を持ってきたのびたたち。

しかし、薪を集めているうちに、いつの間にか辺りは暗くなってきていた。

ドラえもん「じゃあみんなが集めてきた薪に火をつけよう！」

ドラえもんはポケットから出したマッチで集めた薪に火をつけた。

ジャイアン「じゃあ、早く飯にしようぜ。腹がペコペコだ」

ドラえもん「はいはい! 『グルメテーブルかけ』!」

ドラえもん達は昼と同じく、『グルメテーブルかけ』を出し、食事を取った。

ちょうどその頃、『決闘者の王国』のとあるデュエルリングでデュエルが行なわれていた。

戦っているのは、

風雅「うわっ!!」

スネオが『決闘者の王国』で初めに戦ったデュエリスト、風雅だ。

風雅「くっ！強い……」

風雅のライフ 300

対戦相手のライフ 2000

対戦相手「へへへ……」

対戦相手の仲間「あきらめろ！お前に勝ち目なんか無いぜ！」

ライフに差はつき、風雅が一方的に追い詰められていた。

風雅「ふざけるな！クソ、ドロー!!」

ドローカード

融合

風雅「よし！魔法カード、融合！手札の二体のモンスターを融合させ、紅葉鳥を召喚！！」

融合 スーパーレア

通常魔法

決められたモンスター2体以上を融合させる。

紅葉鳥 ノーマル

炎属性 鳥獣族 レベル6

攻撃力2300 守備力1800

融合 セイント・バード+スカイ・ハンター

風雅「コイツが俺の切り札だ!!」

今、風雅の出した『紅葉鳥』は鳥獣族でもかなりの攻撃力を誇るエースモンスターだ。

スネオとの対戦でもこのカードを切り札として使用していた。

対戦相手の仲間「紅葉鳥か…。鳥獣族では最高クラスのカードだ」

対戦相手「俺のターン…。無駄だ!このカードを使い、モンスターの召喚!攻撃!」

風雅「なに!」

風雅のライフ 3000

風雅「ぐあ!!馬鹿な…俺のライフが…」

風雅はスネオに負けたといえ、かなりの強豪デュエリストだ。

それがこつもあっさりと負けるとは…

相手は一体、何者だろうか。

対戦相手「じゃあ、貴様の持つスターチップ3個をすべて頂くぜ！」

風雅「ああ…わかった…」

風雅のスターチップ

3個 0個

『決闘者の王国』リタイア！

そんなデュエルが行なわれているとは全く知らず、ドラえもん達は食後の時間を満喫していた。

のびた「ファ〜ア…」ご飯も食べたし、そろそろ寝ようよ」「

ジャイアン「なんだよ、のびた。まだ寝るには早い時間だぜ」

のびた「え〜。もう寝たいのに。昼間いっぱい歩いて疲れたんだよ…」

ジャイアン「じゃあさのびた、俺とデュエルしようぜ!」

のびた「デュエル?やめておくよ。僕は」

ジャイアン「なんだと!!人がせつかく誘っているのに!」

のびた「で、でも…」

安雄「じゃあさ、ぼくとやるうよ!」

今まで話を聞いていた安雄がジャイアンに言った。

ジャイアン「そういえば俺達ってデュエルしたこと無いよな!」

安雄「そういえばそうだね」

のびた「ありがとう!助かったよ」

ジャイアン「じゃ、早速デュエルするぞ!」

ジャイアンは、デュエル用のシートを地面に敷いた。

安雄「こんなもの持って来ていたんだ…」

ジャイアン「おう。まあな。じゃ、安雄、始めようぜ！」

安雄「うん」

安雄、ジャイアン「デュエル!!」

今日の最強カードは『融合』

融合 スーパーレア

通常魔法

決められたモンスター2体以上を融合させる。

モンスターを融合させ、新たなモンスターを召喚するカードだ。

『紅葉鳥』や『カイザー・ドラゴン』、『アクア・ドラゴン』など、このカードの効果でしか召喚できない強力カードもあるぞ！



**T U R N ・ 1 6 一撃必殺！強襲のシャドウ・ゲール！（前書き）**

いつもより更新が遅くなってしまいましたすみません…。

夜になり、休息をしていたドラえもん達。

しかし、ジャイアンがデュエルをしたいということで安雄が相手をする事になった。

安雄はどのようなデッキを使用するのだろうか？

ジャイアン「じゃあ、先攻は誰からする？」

安雄「僕はいいよ。ジャイアンからで」

ジャイアン「じゃ、俺のターンだ！カードを引くぜ！」

ドローカード

ザリガン ノーマル

水属性 水族 レベル2

攻撃力600 守備力700

ジャイアンの手札

ワイルドドラプター ノーマル

地属性 恐竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力800

デス・ストーカー ノーマル

闇属性 戦士族 レベル3

攻撃力900 守備力800

魔人 テラ ノーマル

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1200 守備力1300

ダークキラー ノーマル

地属性 昆虫族 レベル2

攻撃力700 守備力700

岩の戦士 ノーマル

地属性 岩石族 レベル4

攻撃力1300 守備力1200

ジャイアン「ワイルドドラプターを召喚！」

ワイルドドラプター ノーマル

地属性 恐竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力800

ジャイアン「ターン終了！」

安雄「僕のターン！モンスターを裏守備表示で召喚！そしてカードを1枚伏せて、ターン終了！」

安雄はジャイアンと違い、モンスターを裏守備表示で出した。

カードの攻撃力に自信が無いのか、効果モンスターなのだろうか？

ジャイアン「俺のターン、岩の戦士を出して、ワイルドプターで攻撃！」

岩の戦士 ノーマル

地属性 岩石族 レベル4

攻撃力1300 守備力1200

安雄「よし！人食い虫の効果発動！！相手のモンスターを一体破壊

する！僕はワイルドドラプターを破壊するよ」

人食い虫 ノーマル

地属性 昆虫族 レベル2

攻撃力450 守備力600

効果 このカードが表になったときモンスター1体を破壊する。

「……  
ジャイアン「くそ！まさかそんなカードだったとは……。ターン終了  
！」

続いて安雄のターンに入る。

安雄「ドロー。天使の施しを発動。カードを3枚引いて2枚捨てる」

天使の施し ノーマル

通常魔法

デッキよりカードを三枚引き、二枚を捨てる。

安雄「僕は、電気トカゲとワイトを捨てるよ！」

電気トカゲ ノーマル

地属性 雷族 3レベル

攻撃力850 守備力800

効果 このモンスターを攻撃したアンデッド族以外のモンスターは次のターン攻撃できない。

ワイト ノーマル

闇属性 アンデッド族 1レベル

攻撃力300 守備力250

安雄「そして、モンスターを守備表示で出してターン終了」

ジャイアン「ドロー！」

ドローカード

体温の上昇 ノーマル

装備魔法

恐竜の活動を活発にさせ、攻撃力を300ポイントアップさせる。

ジャイアンの引いたカードは『体温の上昇』。今は役に立たないカードだ。

ジャイアン「こいつを出すぜ！魔人 テラ！！」

魔人 テラ ノーマル

閻属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1200 守備力1300

ジャイアン「攻撃だ！！」

安雄「残念！サイバーポットだよ。サイバーポットは場のモンスターを全て破壊する！！」

ジャイアン「何!！」

突如発動した『サイバーポッド』の効果により場のモンスターが破壊される。

サイバーポッド ノーマル

闇属性 岩石族 レベル3

攻撃力900 守備力900

効果 このカードの表示が表になったとき場のモンスターを全て破壊。

その後お互いのプレイヤーはカードを5枚引き、その中のレベル4以下のカードを全て特殊召喚する。

結果、ジャイアンの場のモンスターは全滅。

しかし、『サイバーポッド』の効果によりお互いにモンスターを召喚できる。

ジャイアンと安雄はカードを5枚引き、モンスターを召喚した。

ジャイアンの召喚モンスター

ナイトメア・スコピオン ノーマル

レベル3 地属性 昆虫族

攻撃力900 守備力800

ベビィティールックス ノーマル

地属性 恐竜族 レベル3

攻撃力1100 守備力700

猛進する剣角獣 ノーマル

地属性 恐竜族 レベル4

攻撃力1400 守備力1200

効果 守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を越えて  
いれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

英雄の召喚モンスター

青虫<sup>キャタピラー</sup> ノーマル

地属性 昆虫族 1レベル

攻撃力250 守備力300

ゾーン・イーター ノーマル

水属性 水族 1レベル

攻撃力250 守備力350

効果 このカードの攻撃を受けたモンスターは、5ターン後に破壊。

異国の剣士 ノーマル

地属性 戦士族 1レベル

攻撃力250 守備力350

効果 このカードの攻撃を受けたモンスターは、5ターン後に破壊。

ジャイアン「雑魚ばかりじゃないか！」

スネオ「確かにねえ。戦う気あるの？」

安雄の先ほどから使用しているカードは、どれもステータスの低いカードばかりだ。

あのようなカードで一体どうやって戦うのだろうか？

ジャイアン「まあいいぜ。剣角獣で青虫キョウカシラに攻撃！このカードは守備表示でもダメージを与えられるカードだ！」

安雄のライフ

2000 900

のびた「あ！一気にライフが半分以下になった！」

ジャイアン「へへ。これで次のターンに攻撃すれば俺の勝ちだ！ターン終了！」

ジャイアンの場には貫通効果をもつ『猛進する剣角獣』がいる。

『猛進する剣角獣』で安雄の場のモンスターのどれかに攻撃すればジャイアンの勝ちだ。

安雄「次のターンは無いよ！このターンで僕は勝てる！」

ジャイアン「なに！そんなことできるわけない！」

ジャイアンのライフは未だにゲーム開始時から1ポイントも減っていない。

しかも安雄の場には雑魚モンスターしかない。

安雄「どうかな？ドロー。手札から魔法カード、手札抹殺を使うよ！」

手札抹殺 スーパーレア

通常魔法

お互いに手札を墓地に捨て、その枚数と同じ数だけカードを引く。

安雄「ぼくは手札抹殺の効果で11枚のカードを墓地に送り、11枚引く！」

ジャイアン「俺は6枚だ」

ジャイアンが捨てたカード

怒りの海王

墓掘りグール

ダークキラー

体温の上昇

畏はずし

デス・ストーカー

ジャイアンが引いたカード

赤き剣のライムンドス

強奪

クワガタ・アルファ

ゴルゴイル

大食いグール

墓掘りグール

シャベル・クラツシャー

お互いに『手札抹殺』の効果でカードをドロウする。

ちなみに、先ほどまで10枚近くあったジャイアンの手札が6枚なのは手札枚数制限のルールで捨てたからだ。

手札枚数制限とは、ターン終了時に手札を6枚以上持っていたとき6枚になるようにカードを捨てるといったものだ。

安雄「そして、僕の切り札、シャドウ・グールを召喚！！このカードは僕の墓地のモンスターの数×100ポイント、攻撃力を上昇させるモンスターだよ！」

ジャイアン「なに!!」

シャドウ・グール スーパーレア

地属性 アンデッド族 5レベル

攻撃力1600 守備力1300

効果 自分の墓地のモンスター×100の攻撃力を加算。

スネオ「ち、ちよつとまっつて今、墓地のカードを確認するから!」

現在の安雄の墓地には、

人食い虫

電気トカゲ

ワイト

キヤタヒラー  
青虫

ゾーン・イーター

異国の剣士

の5枚。

そして、『手札抹殺』の効果で墓地に送られたモンスターが11枚。

安雄「合計、1600ポイントアップ！」

シャドウ・グール

攻撃力1600 攻撃力3200

ジャイアン「そんなバカな！攻撃力3200！？」

安雄「そして、手札から装備魔法、紫水晶を発動。さらに攻撃力を上げるよ！」

紫水晶 レア

装備魔法

アンデッドの攻撃、守備を300上げる神秘的な水晶。

シャドウ・グール

攻撃力3200 攻撃力3500

安雄「攻撃!」

ジャイアン「うわああ!」

ジャイアンのライフ

20000

ジャイアン「くっそ!…まさかこんな負け方をするとはなあ…」

安雄「やったー!!勝ったー!!」

今日の最強カードは『シャドウ・グール』

シャドウ・グール スーパーレア

地属性 アンデッド族 5レベル

攻撃力1600 守備力1300

効果 自分の墓地のモンスター×1000の攻撃力を加算。

墓地のモンスターの数だけ攻撃力を上げるカードだ。

10枚で攻撃力10000ポイントアップ!!

『手札抹殺』や『天使の施し』との相性も強力だ！！

TURN・17 スパーク・デュエル！（前書き）

今回の話では、久しぶりに遊戯王のキャラが登場します。

（TURN・2のダイナソー竜崎とインセクター羽蛾以来でしょうか…）

これからも出していきたいと思いますので、遊戯王ファンは期待してください！！

TURN - 17 スパーク・デュエル！

『決闘者の王国』 2日目 PM7:00

スネオ「ふわあ〜…。眠いなあ〜。何だ、まだ皆寝ているのか」

昨日の安雄とジャイアンのデュエルが終わった後、結局みんなは夜遅くまで起きていてしまったのだ。

そんな中、スネオだけが早く起きた。

スネオ「確かあっちの方に川があったっけ…。顔でも洗ってこようかな…」

しかし、物陰からスネオを見ている者達がいた。

一人は小柄、もう一人は体格のいい少年だ。

小柄の少年「アイツなんかどうだろ。弱そうだし」

小柄の少年がスネオを指さし、言った。

体格のいい少年「ああ。まあ、とりあえず兄貴に報告しておこうぜ」

当のスネオは見られていても知らず、呑気に顔を洗っていた。

スネオ「う、うん。やっぱり早起きっていいなあー」

とその時！

小柄の少年「いまだ！」

スネオ「うわ！なんだ！」

スネオは2人の少年に捕まった。

長身の少年「よし、連れて行け！」

先ほどの少年とその仲間と思われる男が突如現れ、スネオを拉致して行ってしまった。

小柄の少年「兄貴。連れてきましたぜ〜！」

兄貴と呼ばれている男「よし〜！ここで下ろせ」

しばらくしてスネオはやつと下ろされた。

しかし、下ろされたのはデュエル・リングのプレイヤー・ゾーンだった。

スネオ「どういうことだ！！こんな所に連れてきて〜！」

体格のいい少年「決まっているだろ！お前はここで俺達とデュエルをするのさ〜！」

スネオ「何い！」

長身の少年「ホラホラ！さつさとカードを出せよ〜！」

いきなり強制的にデュエルを申し込まれたスネオ。

この雰囲気じゃあ断ることもできなさそうだ。

スネオ「(どうしよう…。あつ！でもこれは以外にチャンスかもしれないぞ！)」

スネオは考えた。

昨日まで、戦うデュエリストを探していたが、ちょうどいい相手がいなかった。

スターチップを失い、島から強制退去させられた者が多く居るせいでデュエリストの数が減っているからだろう。

しかし、デュエルを申し込んで来たならちょうどいい。

もちろん受ける以外に無い！！

スネオ「いいよ！このデュエル、受ける！！」

兄貴と呼ばれている男「クク…。じゃあ骨塚、お前やるか？」

骨塚「今はやめておくゾォ」

小柄の少年が答えた。

兄貴と呼ばれている男「チツ。じゃあ、佐竹、お前がやれ！」

佐竹「はい！」

体格のいい男が返事をし、デュエル・リングのプレイヤーゾーンに上る。

佐竹「さあ、デュエルを始めようぜ！」

スネオ「うん！」

スネオと佐竹、2人がデッキをセットする。

兄貴と呼ばれている男「（ククク…）」

佐竹「スターチップはお互い4つ賭けだ！」

スネオ「わかった!!」

スネオ&佐竹「デュエル」

スネオ ライフ2000

佐竹 ライフ2000

佐竹「俺のターン！カードをドロ！地雷獣を攻撃表示で召喚！」

地雷獣 ノーマル

地属性 雷族 レベル4

攻撃力1200 守備力1300

佐竹「さらにカードを伏せ、ターンを終了するぜ」

スネオ「ドロー！」

ドローカード

トゲトゲ神の殺虫剤 レア

魔法カード

場の昆虫族モンスターは殺虫剤により全て死滅する。

スネオの手札

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

メガソニック・アイ ウルトラシークレット

闇属性 機械族 レベル5

攻撃力1500 守備力1800

硫酸の溜まった落とし穴 ウルトラレア

通常罠

場の裏側表示のモンスターを表側にする。そのモンスターの守備力が2000以下なら破壊する。2000より上なら元に戻す。

ドラゴン・イレイサー  
竜破壊の剣 ウルトラレア

装備魔法

戦士族モンスターの剣が拳にドラゴン抹殺の力を宿す。攻撃力が700上がる。

催眠術 ウルトラレア

通常魔法

催眠術にかかった相手モンスターは表示形式を変更できなくなる。

スネオ「(地雷獣の攻撃力は1200。このカードを出せば勝てる！！)メガソニック・アイ召喚！！」

メガソニック・アイ ウルトラシークレット

闇属性 機械族 レベル5

攻撃力1500 守備力1800

スネオ「攻撃だ！」

佐竹「甘いぜ！カウンター攻撃だ！地雷獣！！パワースパーク！！」

スネオのライフ 2000 1960

佐竹「そしてこの瞬間、伏せカード、雷鳴を発動！」

雷鳴 ノーマル

## 通常魔法

雷の轟音が相手ライフに300ダメージを与える。

スネオ「うわ！」

スネオのライフ 1960 1660

スネオ「カ、カウンターだって!? 攻撃力はメガソニック・アイの  
ほうが上のはず」

兄貴と呼ばれている男「ククク…。お前、フィールドパワーソース環境適応能力を忘れてい  
ないかあ」

スネオ「あつ！」

フィールドパワーソース環境適応能力とは、デュエル・リングに表示されたフィールドがモ  
ンスターの得意地形と同じ場合モンスターの攻撃力が30%アップ  
するというものだ。

長身の少年「何で俺達がお前をここにおびき寄せた理由がわかった

ようだな」

骨塚「ここは佐竹の得意とするフィールド、100%『湿地帯』だからだゾ」

佐竹「そうさ！俺のデッキは雷デッキだからな。水が多くあるほうが有利なのさ」

『湿地帯』フィールドでは、戦士、獣族、獣戦士族の攻撃力が下がり、雷族と水族の攻撃力が上がる。

運の悪いことに、スネオのデッキのモンスターも何体が弱体化してしまう。

スネオ「フィールドパワーソース環境適応能力のことを忘れていたよ…。ターン終了」

兄貴と呼ばれている男「この島で最も重要なルール、フィールドパワーソース環境適応能力のことを忘れていたとはな。俺達の勝ちは最初から決まっていたよ  
うなものだな」

スネオ「さつきからうるさい！！お前は一体何者なんだ！？」

キース「俺かあ？俺はバンデット・キース！以前は賞金稼ぎとして全米に名を轟かせた事もあったんだけどよぉ」

スネオ「バンデット・キース…！！聞いたことがある！かつて全米一の実力を持っていたデュエリスト！」

バンデット・キースはかつて全米一実力を持っていたデュエリストだった。

しかし、以前にこの大会の主催者であるペガサスにデュエルで敗北し、その座を追われた。

ペガサスとのデュエルの後の消息は不明だった。

噂では酒やドラッグ、非合法のギャンブルやデュエルに手を出していったらしい。

スネオ「まさか、この大会に参加していたのか…」

キース「まあ、参加しているって言っても正規の参加者ではないんだけどよぉ」

スネオ「！！正規の参加者じゃないって…あつ！！」

キースの言葉に、スネオは以前に出会ったデュエリスト、海津が言っていたことを思い出した。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

海津「どうやらこの『決闘者の王国』には正規の参加者以外のデュエリストが紛れ込んでいるらしいんだ」

スネオ「なんだって！」

ジャイアン「正規の参加者じゃないってどういことなんだ!？」

海津「さあ。わからない…でもそいつのせいでこの大会からリタイアした奴もいるらしい」

~~~~~

スネオ「（以前に海津が言っていたのはこの事だったのか…）

キース「残念だが、お前は勝つことはできないぜ…。こいつ等には俺が完璧な戦術を与えているからなあ」

佐竹「そういうことだ！つまり、俺たち四人の城行きは決定した  
ようなものなんだよ！」

スネオ「そんな奴を相手にして、僕に勝ち目なんてあるのか…」

今日の最強カードは『雷鳴』。

雷鳴 ノーマル

通常魔法

雷の轟音が相手ライフに300ダメージを与える。

相手プレイヤーに直接ダメージを与えるカードだ！

雷デッキでは活躍すること間違いなしだ！！



TURN - 17 スパーク・デュエル！（後書き）

遊戯王を知っている人ならわかると思いますが、キースと骨塚以外の2人は漫画中で名前が明らかになっていません。

そのためこの2人の名前はアニメ版に出てきたものを使用しています。

（この名前というのも、ほんの一瞬のシーンに僅かに写ったものなので知らない人が多いと思います…）

TURN - 18 雷龍召喚!! (前書き)

佐竹のデッキが雷族デッキというのはアニメ版を参考に考えました。

アニメ版では『サンダー・ドラゴン双頭の雷龍』が佐竹のカードとして登場していたからです。

TURN - 18 雷龍召喚！！

スネオはキースの手下にさらわれ、デュエルをすることになった。

しかし、キースは元全米一の実力を誇るデュエリストだった！！！

キース「残念だが、お前は勝つことはできないぜ…。こいつ等には俺が完璧な戦術を与えているからなあ」

佐竹「そういうことだ！！つまり、俺たち四人の城行きは決定したようなものなんだよ！」

スネオ「そんな奴を相手にして、僕に勝ち目なんてあるのか…」

佐竹「さあ、今はまだお前のターンだが、もう終了でいいのか？

スネオは先ほどモンスターを出し、攻撃したため、もう魔法、罠カードを伏せることぐらいしかできない。

スネオの手札

トゲトゲ神の殺虫剤 レア

魔法カード

場の昆虫族モンスターは殺虫剤により全て死滅する。

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

硫酸の溜まった落とし穴 ウルトラレア

通常罠

場の裏側表示のモンスターを表側にする。そのモンスターの守備力が2000以下なら破壊する。2000より上なら元に戻す。

ドラゴン・イレイサー  
竜破壊の剣 ウルトラレア

装備魔法

戦士族モンスターの剣か拳にドラゴン抹殺の力を宿す。攻撃力が700上がる。

催眠術 ウルトラレア

通常魔法

催眠術にかかった相手モンスターは表示形式を変更できなくなる。

スネオ「僕はカードを1枚伏せてターン終了！」

スネオは罨カード『硫酸の溜まった落とし穴』を伏せた。

硫酸の溜まった落とし穴 ウルトラレア

通常罨

場の裏側表示のモンスターを表側にする。そのモンスターの守備力が2000以下なら破壊する。2000より上なら元に戻す。

今は使えないカードだが、伏せカードは相手に攻撃を躊躇させる。

もちろんハツタリだ。しかし、何も無いよりはマシだ。

続いて佐竹のターンに入る。

佐竹「俺のターン！ドロー！」

佐竹のドローカード

天使の施し

佐竹「天使の施し、発動！」

天使の施し ノーマル

通常魔法

デッキよりカードを三枚引き、二枚を捨てる。

天使の施しによるドローカード

・エンゼル・イヤーズ

・サンダードラゴン

・タイムカプセル

佐竹「俺は天使の施しの効果で、手札の電気トカゲとメガ・サンダーボールのカードを捨てる！そして、手札からエンゼル・イヤーズを召喚！攻撃表示！」

エンゼル・イヤーズ ノーマル

光属性 天使族 レベル5

攻撃力1550 守備力1650

佐竹のフィールド上に恐ろしい風貌のモンスターが召喚される。

カードには天使族と書いてあるがとても信じられない。

佐竹「ターンしゅりよ……」

キース「待て!!」

佐竹「え……」

突然、キースが佐竹のターン終了の宣言を取り消す。

キース「そのカードを使え！選択するカードは……わかるよな？」

後ろでデュエルを観戦していたキースがなにやら意味深なアドバイスをした。

佐竹「このカードは……なるほど！俺はタイムカプセルを発動!!」

スネオ「タイムカプセル!?!」

佐竹の使用したカードに驚くスネオ。

佐竹「このカードはデッキからカードを1枚選びゲームから取り除く。そして俺のターンで数えて2ターン後にそのカードを手札に加える！俺は融合を取り除く！！」

タイムカプセル ノーマル

通常魔法

デッキからカードを1枚選びゲームから取り除く。そして自分のターンで数えて2ターン後にそのカードを手札に加える。

融合 スーパーレア

通常魔法

決められたモンスター2体以上を融合させる。

佐竹「これでターンを終了するぜ」

スネオ「（融合で一体何をするんだ…）ドロー」

ドローカード

天使の施し

スネオ「よし！僕も手札から天使の施しを発動！」

天使の施し ノーマル

通常魔法

デッキよりカードを三枚引き、二枚を捨てる。

天使の施しによるドローカード

・ 聖竜族の爪

・ メテオ・ドラゴン

・ 強欲な瓶

スネオ「天使の施しの効果で手札のカードを2枚捨てるよ」

スネオは『トゲトゲ神の殺虫剤』と『地獄の裁判』を捨てた。

佐竹のデッキに昆虫族は入っていないようだし、『地獄の裁判』の能力は貧弱すぎる。

どちらも今は役に立たないカードだ。

トゲトゲ神の殺虫剤 レア

魔法カード

場の昆虫族モンスターは殺虫剤により全て死滅する。

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

スネオ「メテオ・ドラゴンを召喚！地雷獣を攻撃！」

メテオ・ドラゴン ウルトラレア

地属性 ドラゴン族 レベル6

攻撃力1800 守備力2000

佐竹のライフ2000 1740

佐竹「ぐっ…」

スネオ「ターン終了！」

佐竹「チッ！ドロー！ボルトエスカルゴ召喚！フィールドパワーソース環境適応能力でパワーアップ！」

ボルトエスカルゴ ノーマル

水属性 雷族 レベル5

攻撃力1400 守備力1500

ボルトエスカルゴ 攻撃力1400 1820

電気を帯びたカタツムリである『ボルトエスカルゴ』フィールドパワーだが環境適応

能力でさらに力を増し、電気の量が増えていく。

佐竹「さらに装備カードを付けて攻撃力アップだ!!」

はがねの甲羅 ノーマル

装備魔法

水属性モンスターにのみ装備可能。

攻撃力を400アップ!守備力を200ダウン!。

ボルトエスカルゴ 攻撃力1820 2240

佐竹「メテオ・ドラゴンに攻撃!」

スネオ「うわっ!」

スネオのライフ 1660 1220

佐竹「そして追撃の魔法カード、雷鳴だ!!」

雷鳴 ノーマル

通常魔法

雷の轟音が相手ライフに300ダメージを与える。

スネオのライフ 1220 920

スネオ「ライフが1000を切った…流石にやばいぞ…」

佐竹「ターン終了!」

スネオ「くっ!ドロー…」

ドローカード

ホーリー・ナイト・ドラゴン

スネオ「(よし!このカードなら!!)ホーリー・ナイト・ドラゴン召喚!」

佐竹「何！ホーリー・ナイト・ドラゴン!？」

スネオの場に『ホーリー・ナイト・ドラゴン』が召喚される。

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

光属性 ドラゴン族 レベル7

攻撃力2500 守備力2300

キース「(ホーリー・ナイト・ドラゴンだと!? 聖竜系のモンスターでも青眼の白龍に次ぐ攻撃力を持つレアカードじゃねえか…)」

スネオ「装備カードの聖竜族の爪を装備し、ホーリー・ナイト・ドラゴンでボルトエスカルゴに攻撃!！」

聖竜族の爪 オリジナルカード

装備魔法

光属性、ドラゴン族のモンスターにのみ装備可能。攻撃力600ポ  
イントアップ!

ホーリー・ナイト・ドラゴン

攻撃力2500 攻撃力3100

『ホーリー・ナイト・ドラゴン』の口から吐き出される炎で『ボールトエスカルゴ』が消滅した。

佐竹のライフ1740 900

佐竹「なに!!」

スネオ「よし!!ライフポイントが並んだぞ!!ターン終了!!」

佐竹「俺のターン!ドロー!!モンスターを守備表示!!ターン終了だ!!」

佐竹はモンスターを守備表示で召喚しただけで終了した。

スネオ「僕のターン!僕はホーリー・ナイト・ドラゴンで、守備表示モンスターを攻撃!!」

佐竹「クソッ！」

守備モンスターは『雷ウナギ』だった。

雷ウナギ ノーマル

水属性 雷族 レベル3

攻撃力350 守備力700

スネオ「そしてカードを1枚伏せてターン終了!!」

『天使の施し』の効果でドロしたカード、『強欲な瓶』を伏せた。

強欲な瓶 レア

通常罫

デッキからカードを1枚ドロする

スネオ「(次のターン、タイムカプセルのカード効果で融合のカードがあいつの手札に加わる。」

仮に、あいつの召喚する融合モンスターにアクア・ドラゴンや紅葉鳥クラスの攻撃力があつたとしても、今のホーリー・ナイト・ドラゴンの攻撃力なら、倒せる。」

スネオの場に存在する『ホーリー・ナイト・ドラゴン』の攻撃力は3100。『紅葉鳥』や『アクア・ドラゴン』など、この『決闘者の王国』で戦ったデュエリストが切り札として使用した融合モンスターはいずれも攻撃力2300クラス。

フィールドパワース  
環境適応能力を得たとしても攻撃力3000クラス。十分倒せる。悪くても相打ちだろう。

佐竹「俺のターン、タイムカプセルの効果で融合のカードが手札に加わる！！」

佐竹は2ターン前に『タイムカプセル』のカードの効果で除外した『融合』のカードを手札に加えた。

佐竹「俺はサンダードラゴンを墓地に捨て、デッキからサンダードラゴン2枚を手札に加える！！」

サンダードラゴン レア

光属性 雷族 5レベル

攻撃力1600 守備力1500

効果 手札からこのカードを捨てることで、デッキから『サンダー  
ドラゴン』2枚を手札に加える。

スネオ「サンダードラゴンが2枚…まさか!!」

佐竹「融合を発動!!手札のサンダードラゴン2枚を融合する!!  
召喚!!双頭の雷龍!!!!ホーリー・ナイト・ドラゴンを攻撃!!」

融合 スーパーレア

通常魔法

決められたモンスター2体以上を融合させる。

スネオ「そんな!ホーリー・ナイト・ドラゴンが破壊された!!双  
頭の雷龍サンダードラゴンの攻撃力は2300じゃないのか!?!」

キース「(ククク…)」

今日の最強カードは『サンダーラモン双頭の雷龍』

サンダーラモン双頭の雷龍 ウルトラレア

光属性 雷族 8レベル

攻撃力？ 守備力？

融合

『サンダードラゴン』 + 『サンダードラゴン』

攻撃力3100を持つ『ホーリー・ナイト・ドラゴン』を上回る能力を持つモンスターだ！！

その能力は今不明だが、とても高いだろう！

**TURN - 18 雷龍召喚！！（後書き）**

この王国では『雷鳴』以外のダメージ系のカードを禁止している、  
という設定にしています。

ダメージを与えるカードは『雷鳴』以外は全て炎系のカードなので  
例外として許可している…。

のような感じですが。（畏カードのダメージを与えるカードは全て禁  
止）

TURN - 19 雷の力!! (前書き)

王国編のデュエルって本当に意味不明ですね。

この小説ではできるだけそういうのをなくしています。

しかし、全く無いと言うわけではありませんので。

## TURN - 19 雷の力!!

スネオ「そんな…ホーリー・ナイト・ドラゴンが倒されたなんて…」

スネオのライフ 920 380

佐竹「この双頭の雷龍サンダードラゴンの攻撃力は2800だ」

キース「それだけじゃねえ。環境適応能力フィールドパワーソースで攻撃力、守備力共に30%アップして攻撃力3640だ！」

双頭の雷龍サンダードラゴン ウルトラレア

光属性 雷族 8レベル

融合モンスター

攻撃力2800 守備力2300

サンダードラゴン+サンダードラゴン

双頭の雷龍サンダードラゴン

攻撃力2800 守備力2300 攻撃力3640 守備力2990

スネオ「攻撃力が3500を超えている!!」

攻撃力はモンスターの強さを決定する重要な数値だ。

そのため、攻撃力の高いモンスターは数が少ない。

攻撃力3500以上ともなると僅か数枚。

もちろん、そんなカードがスネオのデッキに入っているわけが無い。

スネオ「こんなモンスター相手に勝てるわけ無いよ…」

佐竹「どうする？<sup>サレンダー</sup>降参するか？」

スネオ「そんなものしないよ！！ドロー！！」

ドローカード

闇竜族の爪

スネオ「（闇竜族の爪…闇属性ドラゴンを強化するカードだけど、今はそのカードが無い…）このカードを伏せる」

スネオは『闇竜族の爪』をブラフとして伏せた。

佐竹「どうした？さっさとモンスターを出せ！！」

スネオ「（くそあゝ…あつ！そうだ！）僕は伏せていたカード、強欲な瓶を発動！」

強欲な瓶 レア

通常罫

デッキからカードを1枚ドロウする

『強欲な壺』は、魔法カードの『強欲な壺』に似たカードだ。

カードイラスト、効果など…。

『強欲な壺』と同じくこのカードで逆転を狙えるのだ。

スネオ「このカードを裏守備表示で出してターン終了だ！」

スネオはドロウしたカードをそのまま場に出した。

佐竹「そんな壁モンスター、サンダー・トラロン双頭の雷龍の一撃で粉碎してやるぜ！  
攻撃だ！！」

『サンダー・トラロン双頭の雷龍』が攻撃したモンスター、そのカードは…

スネオ「メタモルポッドだ！」

メタモルポッド レア

地属性 岩石族 レベル2

効果・このカードの表示が表になったとき、お互いのプレイヤーは手札を全て捨てる。その後お互いにデッキから五枚のカードを引く。

攻撃力700 守備力600

佐竹「メタモルポッドだと！？そのカードは確か…」

スネオ「このカードはお互いの手札を全て捨てさらにお互いに5枚のカードをドローするカードだ！」

佐竹「チツ。せっかく手札に雷鳴のカードがあったのによ…」

スネオと佐竹が互いに手札を全て捨て、デッキから五枚のカードを引いた。

佐竹「カードを1枚伏せてターン終了」

スネオ「僕はエルフの剣士を守備表示で召喚し、ターン終了」

エルフの剣士 ウルトラシークレット  
地属性 戦士族 4レベル  
攻撃力1400 守備力1200

佐竹「そんなザコ、双頭の雷龍サンダードラゴンの敵じゃないぜ！！」

『エルフの剣士』も『双頭の雷龍サンダードラゴン』によって破壊されてしまった。

しかし…

スネオ「へへへ…」

佐竹「何だ！？何故笑っている！？」

スネオ「僕はこのときを待っていたんだ！」

佐竹「何!?!」

スネオがこのようなことをいうのにももちろん理由があった。

先ほど『メタモルポッド』の効果でスネオのドローしたカード

クレセント・ドラゴン

ジエノサイド・ウォー

世界の平定

エルフの剣士

深遠の冥王

この中にある『世界の平定』のカード。

このカードは畏カードのため自分のターンで使用するのに1ターンかかる。

そのため『エルフの剣士』を守備表示にして時間稼ぎをしたのだ。

スネオ「僕はクレセント・ドラゴンを攻撃表示で召喚!!」

クレセント・ドラゴン ウルトラレア

闇属性 ドラゴン族 7レベル  
攻撃力2200 守備力2350

スネオの場に龍人タイプのモンスターが召喚される。

腕に装備された三日月状の剣はいかにも攻撃力が高そうだが、やはり『サントラリオン双頭の雷龍』には見劣りする。

佐竹「攻撃表示だど!?そいつの攻撃力は2200だぞ!」

スネオ「そして装備魔法、闇竜族の爪発動!!」

闇竜族の爪 漫画オリジナルカード  
装備魔法

闇属性、ドラゴン族モンスターにのみ装備可能。攻撃力を600ポイントアップ!

クレセント・ドラゴン  
攻撃力2200 攻撃力2800

佐竹「それでもまだ攻撃力は2800だ!俺の双頭の雷龍サントラリオンは攻撃力3640にはかなわない!!」

スネオ「でも、このカードを使えば倒せるんだ!!畏カード発動!  
!世界の平定!!」

世界の平定 ノーマル  
通常畏

全てのフィールド効果が1ターン無効になる。

スネオ「このカード効果で環境適応能力が無効になり双頭の雷龍の攻撃力は元の2800に戻る！」

佐竹「何!?!」

双頭の雷龍

サンダードラゴン

攻撃力3640 攻撃力2800

スネオ「手札から装備魔法、ドラゴンの秘宝を装備し、クレセント・ドラゴンで攻撃!?!」

クレセント・ドラゴン攻撃力2800 3100

佐竹のライフ900 600

スネオ「やった!双頭の雷龍を倒したぞ!」

サンダードラゴン

ついに敵の切り札を倒したスネオ。

しかし…

キース「甘いな…!」

スネオ「何!?!」

佐竹「双頭の雷龍を一度倒したくらいでいい気になるなよ…。畏力

ード発動！タイム・マシン！」

スネオ「タイム・マシンだって!?!」

タイム・マシン…スネオはこの言葉をよく聞く。

ドラえもんが所有しているからだろう。

しかし、佐竹の使用したのはもっと別のものだった。

時の機械　タイム・マシン　ウルトラレア  
通常罠

自軍のモンスターが攻撃を受け破壊されたとき、過去からそのモンスターを呼び出し、蘇生。

佐竹「このカードの効果により双頭の雷龍サンダードラゴンを蘇生させる！もちろんフィールドフィールドパワーソース環境適応能力が有効な状態でな！」

スネオ「ということは…くっ…ターン終了…」

佐竹「俺のターン、手札からサイクロンを発動！お前の場の伏せカードを破壊する！」

サイクロン　ノーマル

速攻魔法

フィールド上にある魔法カード、または罠カードを1枚を破壊する。

佐竹はスネオの場に伏せてあった『硫酸の落とし穴』を破壊した。

これでスネオの場には『クレセント・ドラゴン』と装備カード以外には何も無くなった。

佐竹「双頭の雷龍サンダードラゴン！クレセント・ドラゴンを葬れ！！」

スネオ「うわああああ！！！！！！」

スネオのライフ 3800

スネオ「そんな……馬鹿な……僕が負けるなんて……」

今日の最強カードは『時の機械 タイム・マシン』

時の機械 タイム・マシン      ウルトラレア  
通常罠

自軍のモンスターが攻撃を受け破壊されたとき、過去からそのモンスターを呼び出し、蘇生。

相手の裏をかける珍しい蘇生系カードだ！

使い勝手は死者蘇生に劣るが、上手く使えばとても強力なカードになるぞ！！



TURN - 19 雷の力!! (後書き)

なんと今回でスネオが負けてしまいました!!  
この後どうなるかは次話で!!

TURN - 20 勝利と敗北 そして…

スネオはキース達に負けてスターチップを四つ奪われてしまった。

デュエルが終わった後、スネオはドラえもん達の元に戻るため、元来た道に戻っていた。

スネオ「僕が負けるなんて……」

スネオは今まで負けたことが無かった。

いや、正確には確実に負ける戦いから逃げていた。

かつてみんなのカードをかけ、神埼達と戦ったときも、

シュウ「ただし条件がある。そちらの代表一人と神埼が決闘を行ない、お前らが負けたらデッキをすべて頂く」



自分の油断と驕りの上での敗北。

それが許せなかった。

そんな自分が許せなかった。

とにかく今は皆に会いたかった。ただそれだけだった。

しかし、そんなスネオを遠くから見ることがいた。

???「あいつがいいかな…。落ち目のデュエリストは絶好のカモだからな」

彼の名は木林きはやし 京平きょうへい。

もちろんこの大会の参加者だ。

彼はデュエルに負けてすぐのデュエリストを狙い、倒してきた。

そうすることでスターチップを稼いでいた。

つまり、弱ったデュエリストのみを獲物とするハイエナだ。

京平「じゃあ早速デュエルを挑むとするか…。獲物をとられたら嫌だからな」

一方、スネオは自分への怒りでいっぱいだった。

やっとスターチップが五個まで溜まったのに、一個になってしまった。

次のデュエルでは負けも許されない。

絶対に。

次は絶対勝たなければいけない。

絶対だ。

と、そのとき、

京平「おい、お前、デュエルしようぜ！お互いに相手を探す手間も省けていいだろ！」

先ほどスネオを狙っていたデュエリストの京平だ。

スネオ「いいよ」

スネオはあっさりとデュエルを受けた。

この戦いで負けて終わるなら自分はその程度なのだろう。

そう思っていた。

スネオ「じゃああっちのデュエルリングでやろう」

スネオはすぐ近くにあったデュエルリングを指さした。

京平「よし、いいぜ」

先ほど指定したデュエルリングのプレイヤーゾーンに乗ったスネオと京平。

京平「スターチップは…お前は既に1つか。じゃあ俺も1つかけるぜ」

お互いにスターチップをデュエルグローブから取り、プレイヤーゾーンに置く。

スネオ&京平「デュエル!!」

京平「俺のターン、ドロ…!!」

京平のドローカード

聖なるバリア ミラーフォース

聖なるバリア ミラーフォース シークレットレア

通常罫

相手が『攻撃』を宣言した時、聖なるバリアが敵の攻撃表示モンスターを全滅させる。

京平「いきなり来たか！よしますこのカードを…」カードを伏せ、ギガテックウルフを召喚！攻撃表示！」

京平はデッキ最強のカード、『聖なるバリア ミラーフォース』を伏せた。

ギガテックウルフ ノーマル

地属性 機械族 レベル4

攻撃力1200 守備力1400

京平「へへへ…攻撃してこいよ。その瞬間、聖なるバリアがお前のモンスターを全滅させるぜ！」ターン終了だ！」

スネオ「僕のターン、ドロ」

ドロカード

大嵐

手札

ホーリー・ナイト・ドラゴン

聖竜族の爪

アクア・マドール

永遠の湯水

ドラゴンの秘宝

手札には十分な手があった。そして今引いた『大嵐』…。

スネオ「僕は手札から大嵐を発動。そのカードを破壊する…。」

大嵐 ノーマル

通常魔法

場の魔法、の畏カードをすべて破壊する。

デュエルリング上にソリッドビジョンの嵐が発生し伏せカードを巻き上げ破壊していく。

たとえばそれがどんなに強力なカードでも…。

京平「あっ！！聖なるバリア ミラーフォースが…。」

スネオ「そしてホーリー・ナイト・ドラゴンを召喚！！。」

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア  
光属性 ドラゴン族 レベル7  
攻撃力2500 守備力2300

スネオ「そして、手札から2枚の装備魔法カードを装備！攻撃力900ポイントアップ！」

ドラゴンの秘宝 レア  
装備魔法

ドラゴンの能力を300アップ！

聖竜族の爪 オリジナルカード  
装備魔法

光属性、ドラゴン族のモンスターにのみ装備可能。攻撃力600ポイントアップ！

京平「攻撃力3400だと…と言うことはまさか!？」

スネオ「僕はこんなところで終わるわけには行かないんだ!!攻撃!!セイント・フレア!!」

京平のライフ20000

京平「ぐわああああ！！！！バ、バカな… たった1ターンで勝敗が… つくなん… て…」

スネオ「僕はこんなところで終わらない！まだ可能性は残されているんだ！今から8個集めれば何とか島にたどり着く！！」

今のデュエルのスネオの引き…

まるで神がスネオに最良の手札を渡したようだった。

まだ、スターチップを失ってはいけないと言う神の意思がそうしたように。

しかし、そんなことは考えず、スネオは京平からスターチップを受け取り、先を急いだ。

京平からスターチップを受け取ったスネオはみんなの元に戻った。

みんなも朝起きたら、スネオがいなくなっていたのであちこち探し回ったらしい。

そして今までであったことを話した。

キース達のこと、スターチップのこと、京平のこと…

ジャイアン「どうするんだよ！スネオ！スターチップを今から八個集めるなんて絶対無理だぜ！」

ドラえもん「でもやるしかないよ！」

静香「でも、昨日でも三個だったのに今日八個集めるなんて…」

安雄「そうだよ、無茶だよ」

スネオ「でもやるしかないよ！それ以外にあの城に入る方法は無い！城に入れば莫大な賞金がもらえるんだ！」

ジャイアン「何！本当か！？」

スネオの言ったことに驚くジャイアン。

スネオ「うん。たぶんね。この大会の招待状が送られてきたとき、  
ついてきたカードがあっただろ？」

ジャイアン「そういえばあったな！王国への船出っていうカードと  
…後はなんだっけ？」

スネオ「それがこれさ！」

スネオが2枚のカードを取り出した。

スネオ「王の右手の栄光、そして王の左手の栄光のカードさ！」

王の右手の栄光 ノーマル  
莫大な賞金

王の左手の栄光 ノーマル  
????

静香「わあ〜！綺麗なカード！」

ジャイアン「なるほど…莫大な賞金か」

のびた「たしかに王の右手の栄光のカードは綺麗だけど、こっちの  
王の左手の栄光ってカードにはなにもイラストがついていないよ。  
テキストにも????としか書いていない」

のびたの手にした『王の左手の栄光』のカードにはイラストがなく、

代わりにイラストの部分が真っ白になっていると言っ奇妙なカードだ。

スネオ「うん。それが不思議なんだよね」

安雄「何か深い意味があるのかな？」

ジャイアン「どーせイラストを入れ忘れたんじゃないのか？居眠りでもしていてさ」

ドラえもん「まさか」

ジャイアン以外「ハハハハハハ！！！」

ジャイアン「な、なんだよ！笑うなあ」

そのとき、

????「あ！」

何者かがドラえもん達に姿を現した！

ドラえもん「あ！君は！」

果たして????の正体は！？



今日の最強カードは『聖なるバリア ミラーフォース』

聖なるバリア ミラーフォース シークレットレア

通常罠

相手が『攻撃』を宣言した時、聖なるバリアが敵の攻撃表示モンスターを全滅させる。

攻撃モンスターを全滅させる超強力なカードだ！

『万能地雷グレイモヤ』よりも強力な、究極の罠カードだぞ！！

TURN - 20 勝利と敗北 そして… (後書き)

王国編予選もいよいよクライマックスです!!

果たしてスネオは城には入れるのか!?

そして???は誰なのか?

続きは次話で!!

TURN・21 ドラゴンデッキ再び！（前書き）

????の正体がいよいよ判明！

そして今回の話はいつもよりちょっと多く小説オリジナルのオリカが登場します！

TURN・21 ドラゴンデッキ再び！

「???」あ！

ドラえもん達の前に現れたのはなんと…

ドラえもん「あ！君は！」

のびた「雄一君！」

西原「君達もまだ残っていたのか…」

「???」は船から風雅戦までのびた達と行動をともにしていたデュエリスト、西原 雄一だった。

スネオ「まあね…」

西原「僕は今スターチップ8個だよ。スネオ君は？」

スネオ「僕は二個だよ。途中で負けちゃってね…」

西原「二個！！なんで！？何があったの！？」

スネオ「さつき戦った奴に負けちゃってね…だからスターチップを急いで集めないと…」

西原「今から集めても無理だと思うよ…」

西原がなにやら意味深なことを言った。

西原「僕、さつき城へ入っていく人を見たんだ。既にスターチップを10個集めたってことだよ」

ジャイアン「なんだって！」

スネオ「（もしかして…）」

スネオはさきほどの佐竹達とのデュエル中に、佐竹が言っていたことを思い出した。

~~~~~

キース「こいつ等には俺が完璧な戦術を与えているからなあ」

佐竹「俺たち四人の城行きは決定したようなものなんだよ！」

~~~~~

スネオ「そ、それって何人だった!？」

スネオが西原に問いかけた。

もしかしたら城へ入ったのはキース達かもしれないと思ったからだ  
った。

西原「確か…一人だったと思うけど…」

スネオ「(一人だけならあいつらじゃないか…でもできるだけ急が  
ないと…)」

実は、このとき城に入ったのは、佐竹達と行動をともにしていた男、  
バンデッド・キースだった。

キースは佐竹や骨塚達を裏切り、スターチップを強奪して一人で城  
に行ったのだった。

もちろん、そんなことはスネオが知る由も無い。

西原「だから、できるだけ急がないと…城へ入れるのは先着の4人  
だけなんだから…」

ジャイアン「じゃあさっさとデュエリストを見つけないな!」

安雄「さっきからあんまり見かけないもんね」

西原「そ、そうだった!僕も闘う相手を探していたんだ!!」

のびた「後2個なんですよ。そう焦らなくても…」

しかし、西原の考えは違っていた。

西原「（既に城に入った奴がいるならできるだけ早くスターチップをそろえたほうがいい。でも今から探したとしてちよつどよく見つかるとも限らないし…そうだ!!）」

そして、西原はあることを思いついた。

西原「スネオ君！僕とデュエルしようよ!!」

スネオ「え!？」

西原「僕はあとスターチップ2個で城にいける。そして君のスターチップは2個。ぴったりじゃないか!」

スネオ「確かにそうだけど、僕がこのスターチップ2個全部かけてもし負けたら即失格じゃないか!!」

西原「じ、じゃあ、僕は持っているスターチップ全てをかけるよ!これでどう?」

スネオ「何!」

のびた「え!？」

ジャイアン「全部かけるって!？」

安雄「スターチップを!？」

突然の提案に驚くスネオたち。

無理もない。スターチップを8個賭けるといったのだから。

スネオ「8個全部を賭けるって…本当に!？」

西原「うん。早くスターチップを集めないと城に入れなくなってしまつし、もし今戦わないとして、後で戦う相手に会えるかもわからないし…」

ジャイアン「よかつたな!スネオ!!!」

安雄「これで勝てばスターチップ10個!城に入れるよ!!!」

スネオ「よし!じゃあ早速デュエルだ!!!」

西原「あつちの方にデュエルリングがあつたはずだから、そこで勝負だ!」

スネオ「うん!」

西原とスネオは走ってデュエルリングに向かった。

今は出来るだけ早くしたほうがいい。

デュエルしている間に城に誰かが入ってしまい、自分が入れなくなつてしまつては元も子もないからだ。

ドラえもん「あ!待つてよ!」

ドラえもん達も急いで追いかけた。

ドラえもん達はスネオの『決闘者の王国』最後のデュエルを見るためにデュエルリングについた。

西原とスネオのスターチップ全賭けの戦いだ。

デュエルリングの周りのフィールドは荒野。

フィールドパワーソース  
環境適応能力も恐らく『荒野』がほとんどを占めるだろう。

スネオのデッキには『荒野』に対応するモンスターはほとんど入っていないので

既にスネオと西原はデュエルリングのプレイヤーゾーンについていた。フィールドパワーソース環境適応能力は使用できないだろう。

もつとも、それは西原のデッキにも言えることだが。

彼のデッキは以前のジャイアンとのデュエルでドラゴン族モンスター主体のデッキだとわかっている。

ドラゴン族は荒野には対応していない。

西原「フィールドは100%荒野…フィールドパワーソース環境適応能力の利用は望めないけど仕方ないか…」

スネオ「(この戦いに勝てば城にいける…でも負ければ…)」

のびた「がんばれー!!スネオ!!」

ジャイアン「負けたらスターチップ全部なくなっちゃうんだぞ!!」

スネオ「わかっているよ!!!」

西原「じゃあ、デュエルを始めよう。もう一度確認するけどスターチップは僕が8個、君が2個賭けだ!!」

スネオ「うん!」

西原とスネオは互いにスターチップをデュエルグローブから取ってプレイヤーゾーンに置いた。

西原& amp; スネオ「デュエル!!」

西原のライフ 2000

スネオのライフ

2000

デュエルリングのプレイヤーゾーンにあるライフカウンターが2000ポイントを表示した。

スネオ「いくよ！まずは僕のターン、ドロー！」

ドローカード

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

スネオの手札

闇竜族の爪 漫画オリジナルカード

装備魔法

闇属性、ドラゴン族モンスターにのみ装備可能。攻撃力を600ポイントアップ！

ドラゴンの秘宝 レア

装備魔法

ドラゴンの能力を300アップ！

ドラゴン・イレイサー  
竜破壊の剣 ウルトラレア

装備魔法

戦士族モンスターの剣か拳にドラゴン抹殺の力を宿す。攻撃力が700上がる。

強欲な瓶 レア

通常罫

デッキからカードを1枚ドローする

ドラゴンの宝珠 レア

永続罫

手札を1枚捨てることで表側表示のドラゴン族を対象にした罫カードの発動と効果を無効にして破壊する。

スネオの手札はドローフェイズにドローしたカード、『地獄の裁判』以外は全て魔法、罫カードだった。

スネオ「(げえ)…最悪の手札だよ…」とりあえず、地獄の裁判を攻撃表示で召喚。カードを伏せてターン終了」

地獄の裁判 ウルトラシークレット

闇属性 悪魔族 レベル4

攻撃力1300 守備力900

伏せカード

強欲な瓶 レア

通常罨

デッキからカードを1枚ドローする

西原「僕のターン、ドロー！僕は、バンダー・ドラゴン盗賊竜を攻撃表示で召喚！！」

バンダー・ドラゴン盗賊竜 オリジナルカード

闇属性 ドラゴン族 レベル3

攻撃力1400 守備力800

効果 このモンスターが相手に戦闘ダメージを与えたとき、相手の手札1枚を墓地に送る。

西原「バンダー・ドラゴン盗賊竜で、地獄の裁判に攻撃！！バンダー・クロー！！」

西原の召喚したモンスター、『バンダー・ドラゴン盗賊竜』がスネオのモンスターを腕の爪で切り裂き、破壊した。

スネオのライフ

2000 1900

スネオ「あっ！……くっそお……」

スネオはモンスターの戦闘によりダメージを受けてしまった。

さらに追い打ちをかけるように、『盗賊竜』<sup>バンダイ・ドラゴン</sup>の特殊能力が発動する。

西原「盗賊竜バンダイ・ドラゴンの特殊能力発動。相手の手札1枚を墓地に送る！この効果で君は、僕から見て右から二番目のカードを墓地に送ってもらおうよ」

スネオ「えっ！？そんな効果が！」

スネオは、『盗賊竜』<sup>バンダイ・ドラゴン</sup>の効果により手札のカードを1枚を墓地に送った。

送ったカードは『闇竜族の爪』。

スネオのデッキの切り札である、ドラゴン族モンスターを強化するためのカードだ。

闇竜族の爪 漫画オリジナルカード

装備魔法

闇属性、ドラゴン族モンスターにのみ装備可能。攻撃力を600ポイントアップ！

スネオ「ああ…闇竜族の爪が…」

西原「（闇竜族の爪…）僕はカードを1枚伏せて、これでターン終了」

西原はカードを1枚伏せた。魔法カードだろうか？

それとも畏カードか？

スネオ「（伏せカードか…気をつけないと…）僕のターン、ドロ―」

ドロ―カード

タクリミノス

スネオ「よし！このカードなら相手の場の盗賊竜を倒せる！！召喚  
！」

タクリミノス ウルトラレア

水属性 海竜族 レベル4

攻撃力1500 守備力1200

スネオ「盗賊竜バンター・ドラゴンに攻撃だ！」

西原「畏カード発動！デッド・コピー！」

スネオ「え！？」

西原「デッド・コピーのカードは、相手の墓地にある装備カードを  
自分の場のモンスターに装備することができるカード！これで君の  
墓地にある閻龍族の爪を僕の盗賊竜バンター・ドラゴンに装備する！」

デッド・コピー オリジナルカード  
通常罠

相手の墓地にある装備魔法を自分の場の正しい装備対象のモンスターに装備する。

西原「バンダー・ドラゴン盗賊竜は闇属性のドラゴン！闇龍族の爪の正しい装備対象だ  
！」

バンダー・ドラゴン  
盗賊竜

攻撃力1400 攻撃力2000

スネオ「しまった！！」

攻撃力2000となった『バンダー・ドラゴン盗賊竜』が『タクリミノス』を返り討ちにし、破壊した。

そして攻撃力の差500ポイントがスネオのライフから削られた。

スネオのライフ

1900 1400

スネオ「くっそおゝ…ターン終了！」

西原「僕のターン、僕はこのままターンを終了するよ」

西原は、カードをドローしただけでターンを終えた。

スネオ「ドロー！」

ドローカード

エルフの剣士

スネオ「（エルフの剣士… 攻撃力1400の戦士族のモンスター… このカードじゃ闇竜族の爪を付けた盗賊竜は倒せないし、守備表示で…）」

スネオが『エルフの剣士』を守備表示で召喚しようとしたとき、のびた「スネオ、諦めないで！手札をよく見るんだ！」

ジャイアン「そうだ！」

安雄「がんばって何かあるはずだよ！！」

みんなからのアドバイスだ。『手札をよく見る』と言うことだが…

スネオ「（手札っていったって、こんな魔法と罠ばかりの手札じゃ…）」

スネオは改めて手札を見てみた。

現在のスネオの手札は、

ドラゴンの秘宝

ドラゴン・イレイサー  
竜破壊の剣

ドラゴンの宝珠 レア

の三枚。

スネオ「あつ！そうか！」

西原「？」

スネオ「僕はこのカードを召喚！エルフの剣士！攻撃表示！」

エルフの剣士 ウルトラシークレット  
地属性 戦士族 4レベル  
攻撃力1400 守備力1200

勇ましく、緑色のマントを羽織った剣士が、攻撃態勢でスネオの場に現れる。

西原「エルフの剣士！？そいつの攻撃力は1400のはず！？それを攻撃表示なんて」

確かに、西原の言つとおりだ。

いくら勇ましくとも所詮は攻撃力1400のモンスター。

攻撃力2000の『盗賊竜』は倒せない。

しかし、

スネオ「僕はこのカードを使う！竜破壊の剣！」

ドラゴン・イレイサー  
竜破壊の剣 ウルトラレア  
装備魔法

戦士族モンスターの剣か拳にドラゴン抹殺の力を宿す。攻撃力が700上がる。

西原「ドラゴン・イレイサー！？確かそのカードは…」

スネオ「このカードは戦士族の攻撃力を700上げ、ドラゴン抹殺の力を与えるカード！」

『竜破壊の剣』を装備したことにより、スネオの『エルフの剣士』は攻撃力が『盗賊竜』を上回る2100となった。

エルフの剣士  
攻撃力1400 2100

西原「攻撃力が盗賊竜を超えた！」

スネオ「盗賊竜に攻撃！」

『ドラゴン・イレイサー竜破壊の剣』を持つ『バンター・ドラゴンエルフの剣士』が『盗賊竜』を真つ二つに  
両断し、破壊した。

そして、西原のライフも僅かだが削られる。

西原のライフ

2000 1900

西原「これしき！」

スネオ「ドラゴン・イレイサー竜破壊の剣は戦闘でドラゴンを破壊する力を持っている！  
ドラゴン族との戦闘ではほぼ無敵！ターン終了！」

西原「（まず、ドラゴン・イレイサー竜破壊の剣のカードを何とかしないと…）ドロー」

西原のドローカード

ビックバン・ドラゴン

西原の引いたカードは『ビックバン・ドラゴン』と言う赤い双頭の  
龍のカードだった。

西原「（ビックバンドragon……！！よし！こいつなら！）僕はビ  
ックバン・ドラゴンを召喚！ドラゴン・イレイサー竜破壊の剣を持つエルフの剣士に攻撃  
！！」

スネオ「ドラゴン・イレイサーエルフの剣士は竜破壊の剣を装備しているんだ！そんなド  
ラゴン族モンスター、効果で破壊してやる！」

しかし、スネオのいった言葉とは裏腹に、『エルフの剣士』は何の  
抵抗もなく『ビックバン・ドラゴン』に破壊されてしまった。

スネオ「そんな馬鹿な…」

スネオのライフ

1400 1300

西原「ビックバン・ドラゴンの攻撃力は2200。そしてこいつはドラゴン族じゃない。炎族のモンスターなんだ」

スネオ「え！炎族だって!？」

ビックバン・ドラゴン ノーマル

炎属性 炎族 6レベル

攻撃力2200 守備力1700

相手のカードが映し出されるカードモニターを見て確認するスネオ。

確かに種族が書かれている部分には『ドラゴン族』ではなく『炎族』とかかかれている。

西原「僕はカードを2枚伏せてターン終了」

スネオ「どう見てもあのカードの姿はドラゴン族じゃないか！ドロ  
ー!!!」

ドローカード

クレセント・ドラゴン

スネオ「よし！僕はクレセント・ドラゴンを出し、ドラゴンの秘宝を装備！！攻撃力300アップだ！！」

クレセント・ドラゴン ウルトラレア  
閻属性 ドラゴン族 7レベル  
攻撃力2200 守備力2350

ドラゴンの秘宝 レア

装備魔法

ドラゴンの能力を300アップ！

クレセント・ドラゴン  
攻撃力2200 攻撃力2500

スネオ「クレセント・ドラゴンでビックバン・ドラゴンに攻撃！！」  
スネオの場の『クレセント・ドラゴン』が腕に装備した刀で『ビックバン・ドラゴン』に攻撃を仕掛ける。

『クレセント・ドラゴン』の攻撃力は2500。

『ビックバン・ドラゴン』の攻撃力は2200。

攻撃力では『クレセント・ドラゴン』のほうが上だ！

安雄「よし！いける！」

ジャイアン「あのモンスターを倒したぜ！」

しかし、

「グアアアア……」

「グギギヤアア……」

断末魔とともに『クレセント・ドラゴン』と『ビックバン・ドラゴン』、二体のドラゴンは破壊されてしまった。

そして、スネオと西原のどちらのライフも減っていない。

スネオ「な、なんでだよ……攻撃力はクレセント・ドラゴンのほうが上なのに……」

西原「僕は攻撃される瞬間にこのカードを使ったんだ。サイクロンのカードをね！」

サイクロン ノーマル

速攻魔法

フィールド上にある魔法カード、または畏カードを1枚を破壊する。

西原「サイクロンは場の魔法、畏カードを破壊するカード。これでクレセント・ドラゴンが装備していたドラゴンの秘法を破壊したんだ」

『サイクロン』は速攻魔法なので相手ターンでも発動ができる、と言う特性を利用した戦法だ。

これにより、スネオは切り札である『クレセント・ドラゴン』を失ってしまった。

西原「さあ、どうする?」

スネオ「あきらめないぞ！僕のデッキにはまだ切り札が残っているんだ!!」

デュエルはまだ始まったばかり。

それにスネオのデッキにはまだあのカードがある。

『ホーリー・ナイト・ドラゴン』のカードが……



今日の最強カードは『盗賊竜』。

バンター・ドラゴン

盗賊竜 オリジナルカード

闇属性 ドラゴン族 レベル3

攻撃力1400 守備力800

効果 このモンスターが相手に戦闘ダメージを与えたとき、相手の手札1枚を墓地に送る。

相手の手札を破壊する、俗に言う『ハンドデストロイ』、略して『ハントレス』効果を持つモンスターだ！  
手札を減らすと言うのは、相手の選択肢を減らし、追い詰めていく強力な効果だ！

TURN・21 ドラゴンデッキ再び！（後書き）

今回の話にはオリカが多く出ました。

序盤に西原が使用した『盗賊竜』と『バンダー・ドラゴンデッド・コピー』のカードです。

これらのカードは実際には存在しませんので、遊戯王をあまり知らない人は気をつけてください！

TURN・22 恐怖の皇帝竜(前書き)

今回のデュエル中に出てくる単語の、

「取り除く(除外)」というのは墓地ではない別の場所に送られる  
と言う意味です。

カードが消滅して二度と使えなくなると言う意味ではありません。

前回の話で、スネオは切り札である『クレセント・ドラゴン』を『ビックバン・ドラゴン』との戦闘で破壊されてしまった。

西原「さあ、どうする?。」

スネオ「あきらめないぞ! 僕のデッキにはまだ切り札が残っているんだ!! ターンを終了するよ!。」

ターン終了宣言をしたスネオ。

しかし、先ほどの戦闘で『クレセント・ドラゴン』と『ドラゴンの秘宝』を失ってしまったため場にはカードが存在しない状態だ。

もし直接攻撃が可能なルールだったら大ダメージを受けるだろう。

西原「僕のターン、ドロー。僕はリザード兵を攻撃表示で召喚。ターン終了」

リザード兵 ノーマル

レベル3 地属性 ドラゴン族

攻撃力 1100 守備力 800

スネオ「ドロー」

ドローカード

メガソニック・アイ

スネオ「よし、このカードならリザード兵を倒せる」女剣士カナ  
ンを召喚！攻撃だ！」

女剣士カナン ウルトラレア

地属性 戦士族 4レベル

攻撃力1400 守備力1400

西原のライフ

1900 1600

西原「うっ！」

ドラえもん「やった！スネオ君のライフと並んだ！」

ジャイアン「そのまま押し切れ！」

現在のスネオのライフは1400。

西原は1600。

若干スネオが負けているが、戦況はスネオのほうが有利だ。

スネオ「ターン終了」

西原「僕のターンだ！ドロー」

ドローカード

デビルドラゴン

西原「僕は手札から、デビルドラゴンを攻撃表示で召喚！攻撃力1500！」

デビルドラゴン ノーマル

闇属性 ドラゴン族 レベル4

攻撃力 1500 守備力 1200

西原「カナンに攻撃だ！」

スネオのライフ

1400 1300

スネオ「うわわ…」

西原「ターン終了」

スネオ「僕のターンだ！このモンスターを裏守備表示で召喚してターン終了」

スネオはモンスターを裏守備表示でセットした。

裏側守備表示モンスターに攻撃するときにはそれなりのリスクが伴う。

正体が不明のため、攻撃し何が起こるかわからないからだ。

そのため、攻撃する側はその正体を予想し被害を最小限に抑えるのだ。

西原「僕のターン、（あの守備モンスターは恐らく、攻撃した瞬間に表側表示となり効果が発動するリバーズ効果モンスター…それならこのモンスターで十分！）デビルドラゴンで裏側守備表示モンスターに攻撃！」

『デビルドラゴン』の炎のブレスがセットされているカードに当たった。

西原は当然破壊されるものだと思っただろう。

しかし、攻撃は効かず、逆に攻撃をした『デビルドラゴン』とプレイヤーである自分に跳ね返ってきた。

西原のライフ

1600 1100

西原「反射ダメージ!?リバーズ効果モンスターじゃないのか!? そのカードは一体…」

スネオ「このカードは、リバー効果モンスターなんかじゃない…  
このカードは…」

スネオは攻撃されたモンスターカードを表側にした。

スネオ「メテオ・ドラゴン！守備力2000のモンスターだ！」

メテオ・ドラゴン ウルトラレア  
地属性 ドラゴン族 レベル6  
攻撃力1800 守備力2000

西原「まさかそんなモンスターを伏せているとは…ターン終了…」

スネオ「僕のターン！メテオドラゴンで攻撃だ！」

西原「しまった！デビルドラゴンはさっきのターンで攻撃をしていたから攻撃表示のままだ！」

スガアアアアーン！！

爆音とともに『デビルドラゴン』は破壊されてしまった。

西原のライフ

1100 800

スネオ「よし！このターンでライフをかなり減らしたぞ！ターン終了！」

戦況は大きく傾き、今はスネオに分がある状況だ。

しかし、

西原「ドロー、僕は、砦を守る翼竜を攻撃表示で召喚。そしてカードを一枚伏せてターン終了」

砦を守る翼竜 ノーマル

風属性 ドラゴン族 レベル4

攻撃力 1400 守備力 1200

ジャイアン「あつ！あのカードは…」

西原の出した『砦を守る翼竜』のカード…

あのカードは以前、ジャイアンが西原と戦ったときに西原の使用した融合モンスター、『カイザードラゴン』の融合素材だったカードだ。

今回も融合を狙っているのだろうか？

スネオ「（確かあれはカイザードラゴンの融合素材カード…早く倒さないと…）僕はメテオ・ドラゴンで攻撃！」

スネオの『メテオ・ドラゴン』は攻撃力1800。西原の『砦を守る翼竜』のカードは攻撃力1400。

スネオの『メテオ・ドラゴン』のほうが攻撃力が勝っている。

しかし、

西原「そうはいかないよ！畏カード発動！！援軍！！」

援軍 ノーマル

畏カード

自分のモンスターの攻撃力をターン終了時まで500アップさせる。

西原「このカードの効果で翼竜の攻撃力は500ポイント上がって1900になる！！」

スネオ「何！！」

先ほどまで攻撃力が攻撃力が勝っていた『メテオ・ドラゴン』だが、『援軍』を得た『砦を守る翼竜』が戦いを制した。

スネオのライフ

1300 1200

スネオ「クソお！………ターン終了」

西原「僕のターン、ドロロー」

ドローカード

フェアリー・ドラゴン

西原「（来た！！）」

一瞬、西原の表情が変わった。

西原「僕は、フィールド魔法カード、フュージョン・ゲートを発動  
！！」

西原が『フュージョン・ゲート』のカードを発動したとき、デュエ  
リング上にまるで異世界への入り口ともいえる時空の歪のような  
ものができた。

もちろんこれは、『フュージョン・ゲート』のソリッド・ビジョン  
だが、非常にリアルなのでまるで本物の歪だと錯覚してしまいそう  
だ。

スネオ「なんだ！？なんだ！？」

動揺するスネオ。

ジャイアン「なんだ、あれ…」

静香「不気味…」

西原「このカードは融合と同じ効果を持つフィールド魔法！つまり  
このフィールド魔法が存在する限り、融合がやり放題だ！」

スネオ「融合と同じ効果を持つフィールド魔法だって!？」

『融合』とは二体以上のモンスターを融合させる強力なカードだ。

この『決闘者の王国』のデュエリストも何人かが使用していた。

そして、フィールド魔法とは、場に1枚しか存在できない特別なカードのことである。

後から別のフィールド魔法が発動されるとそれまで場にあったフィールド魔法は破壊されるのだ。

フュージョン・ゲート レア

フィールド魔法

このカードが場に存在する限り、融合を行なうときに融合のカードは必要なくなる。  
使用した融合素材のモンスターはゲームから取り除かれ使用できなくなる。

西原「そして僕は手札からモンスターを召喚!フェアリー・ドラゴン!」

フェアリードラゴン ノーマル

レベル4 光属性 ドラゴン族

攻撃力 1100 守備力 1200

スネオ「まさか…」

西原「砦を守る翼竜とフェアリードラゴンをフュージョン・ゲートで融合！召喚！！カイザードラゴン！！！！」

デュエルリング上の時空の歪に2体の竜が吸い込まれ、強烈な閃光が放たれた。

そして1体の黄金の竜が歪から現れた。

その竜こそ、以前西原の出したモンスター、『カイザードラゴン』だった。

カイザードラゴン ノーマル

光属性 ドラゴン族 レベル7

融合モンスター

攻撃力2300 守備力2000

フェアリードラゴン+砦を守る翼竜

スネオ「ついに出た！カイザードラゴン！」



今日の最強カードは『フュージョン・ゲート』

フュージョン・ゲート レア  
フィールド魔法

このカードが場に存在する限り、融合を行なうときに融合のカードは必要なくなる。  
使用した融合素材のモンスターはゲームから取り除かれ使用できなくなる。

融合召喚を何回も行なえるフィールド魔法だ！

しかし、融合素材のモンスターはゲームから除外されてしまう。  
除外されたモンスターには『死者蘇生』などが使用できなくなるので注意が必要だ。

**T U R N - 2 3 真の切り札！（前書き）**

今回、ドラゴン族モンスターが多く登場します！

TURN - 23 真の切り札！

西原「砦を守る翼竜とフェアリードラゴンをフュージョン・ゲートで融合！召喚！！カイザードラゴン！！！！」

スネオ「ついに出た！カイザードラゴン！」

カイザー・ドラゴン ノーマル

光属性 ドラゴン族 レベル7

融合モンスター

攻撃力2300 守備力2000

フェアリードラゴン+砦を守る翼竜

『カイザー・ドラゴン』は以前のデュエルでも西原が出した強力モンスター。

攻撃力だけなら、スネオの『クレセント・ドラゴン』を超える力を持つモンスターだ。

西原「僕はこれでターンを終了するよ」

スネオ「ドロ」

ドローカード

魔法除去

スネオ「（魔法除去：！こんなカード今来ても役に立たない！）」

『魔法除去』は相手の魔法カードを破壊するカードだ。

しかし、今のこの戦況では全く役に立たない。

魔法除去 ノーマル

通常魔法

フィールド上にある魔法カード1枚を破壊する。

選択したカードがセットされている場合、そのカードをめくって確認し、

魔法カードなら破壊する。罠カードの場合元に戻す。

スネオ「（そうだ！あの伏せカードを忘れていた！）伏せカードを  
発動！強欲な瓶！」

西原「強欲な瓶!？」

スネオは、最初のターンに伏せておいたカード、『強欲な瓶』を發動した。

スネオ「このカードは自分のデッキからカードを1枚引くことができるカード!」

強欲な瓶 レア  
通常罫

デッキからカードを1枚ドロースする

『強欲な瓶』によるドローカード

メタモルポッド

スネオ「(メタモルポッドのカード…とりあえず、これで手札を補充しよう)僕はモンスターを裏守備表示で出してターン終了」

現在のスネオの手札は、使い道の無いカードしかない最悪の手札だった。

しかし、も『メタモルポッド』なら効果で手札を入れ替えることができる。

今考えられる最良の手だ。

西原「僕のターン！裏守備表示のモンスターにカイザー・ドラゴンで攻撃！攻撃力2300ならたいいのカードを破壊できる！！フオトン・スタンピート！！」

黄金の竜の攻撃を受けた『メタモルポッド』は当然表側になり効果を発動する。

メタモルポッド レア

地属性 岩石族 レベル2

効果・このカードの表示が表になったとき、お互いのプレイヤーは手札を全て捨てる。

その後お互いにデッキから五枚のカードを引く。

攻撃力700 守備力600

西原「そのカードは…メタモルポッド!?」

スネオ「メタモルポッドの効果により手札を全て捨てて5枚カードをドロ―するんだ！」

スネオが『メタモルポッド』の効果により、ドローしたカード

苦渋の選択

カエルスライム

ジエノサイド・ウォー

タートルタイガー

ワイバーンの戦士

スネオ「(うーん…さっきよりはいい手札だけど…ザコばかりだよ…)」

先ほどまでスネオの手札にはモンスターがほとんど無かったが『メタモルポッド』の効果により3枚のモンスターを引くことができた。しかし、どれも『カイザー・ドラゴン』よりも攻撃力、守備力が劣るモンスターだ。

スネオ「(次のターンの引くカードにかけるしかない!)」

西原「ターン終了!」

スネオ「僕のターン!(こじであのカードを引かないと…負ける!)  
ドロー!…!」

スネオは恐る恐る自分の引いたカードを確認した。

スネオ「(このカードは…)」

ドローカード

ホーリー・ナイト・ドラゴン

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴンを召喚！」

ホーリー・ナイト・ドラゴン シークレットレア

光属性 ドラゴン族 レベル7

攻撃力2500

守備力2300

西原「ホーリー・ナイト・ドラゴン！聖竜系のカードの中で青眼の白龍に次ぐレア度と攻撃力を持つモンスター…」

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴンで攻撃だ！」

ホーリー・ナイト・ドラゴン カイザー・ドラゴン  
聖なる白き竜と黄金の皇帝竜の戦い。

ともに聖竜系のカードだが攻撃力では「ホーリー・ナイト・ドラゴ

ン』のほうが攻撃力は上。

『カイザー・ドラゴン』は聖なる炎により灰と化した。

西原のライフ

800 600

スネオ「やったあ！切り札のカイザー・ドラゴンを倒したぞ！！後は楽勝だな！」

『カイザー・ドラゴン』を倒し、すっかり有頂天になったスネオ。

まあ無理も無い。

相手の切り札を倒したのだから。

しかし…

西原「カイザー・ドラゴンは僕のデッキの切り札じゃないよ…」

スネオ「え…！？」

西原が静かな口調で言った。

これまでの話し方よりも静かで意味深な感じだ。

西原「確かにカイザー・ドラゴンは強力なモンスターだよ。攻撃、  
守備ともに安定しているし、融合召喚もしやすい……」

スネオ「それなら、なんで……」

西原「さっきのメタモルポッドの効果でこんなカードを引いたよ……」

スネオ「え……」

西原「三本の角を持つ悪魔竜……トライホーン・ドラゴンを召喚……！」

トライホーン・ドラゴン ウルトラレア

闇属性 ドラゴン族 レベル8

攻撃力2850 守備力2350

西原の場に現れたモンスター、『トライホーン・ドラゴン』。

黄金の三本ツノと巨大な爪を持つドラゴンだ。

スネオ「トライホーン・ドラゴン……どこかで聞いた事があるカード  
だ……！！そうだ！たしか、全国大会で本選参加者に配られたと言  
うプレミアカード！」

西原「僕は以前の全国大会でかなり上位のほうに入ったからね」

のびた「そういえば、そんなこともいつてたよね」

ドラえもん「大会でいいとこまでいったって言うていたけど、このことだったんだ…」

西原「トライホーン・ドラゴン！！ホーリー・ナイト・ドラゴンに攻撃！！！」

スネオ「うわぁ！」

スネオのライフ

1200 950

スネオは先ほどの優勢から一変してかなりきつい状況になってしまった。

西原「ターン終了」

スネオ「僕は、カエルスライムを守備表示…」

スネオは先ほどの態度から一変し、まさに青菜に塩と言った感じだ。

西原「攻撃！カエルスライム撃破！」

スネオ「タートルタイガーを守備表示…」

西原「攻撃！撃破！」

ジャイアン「おい…スネオが防戦一方だぜ…」

安雄「攻撃力2850なんて…強すぎる！」

静香「大丈夫よ！きっと」

ジャイアン「きっと…か…」

スネオ「（攻撃力2850のトライホーン・ドラゴンに対抗するにはどうすれば）ドロー！」

ドローカード

細菌感染

スネオ「（細菌感染…このカードは…）」

細菌感染 レア

装備魔法

装備された機械族以外のモンスターの攻撃力は自分のターンの初めごとに300ダウン！

スネオ「（このカードならもしかしたら…）僕は、ワイバーンの戦士を守備表示で召喚！そしてこのカードを装備！！細菌感染！！」

『細菌感染』は相手の能力を下げるカード。

いくら攻撃力が高くても、下げてしまえば怖くない。

僅かな可能性に賭け、スネオは戦いを続行した。

スネオ「ターン終了！」

西原「ワイバーンの戦士に攻撃！！」

『トライホーン・ドラゴン』の攻撃力  
攻撃力2850 2550

スネオ「モンスターを守備表示！」

西原「攻撃！」

『トライホーン・ドラゴン』の攻撃力  
攻撃力2550 2250

スネオ「守備表示だ！トライホーン・ドラゴンの攻撃力2250にまで下がったぞ！」

先ほどまで攻撃力2850を持っていた『トライホーン・ドラゴン』は攻撃力2250にまで下がった。

西原「確かに下がったけれど、まだ十分に戦える！それにいざとなったら守備表示にすればいいしね。細菌感染では、守備力を下げることができない！攻撃してターン終了！」

スネオ「（確かに…守備表示になる前に倒さないと…）ドロー！！！」

ドローカード

トゲトゲ神の殺虫剤

スネオ「（違う！このカードじゃない！）守備表示！」

『トライホーン・ドラゴン』の攻撃力  
攻撃力2250 1950

西原「攻撃だ！」

スネオ「守備表示！」

西原「攻撃！」

『トライホーン・ドラゴン』の攻撃力  
攻撃力1950 1650

デュエル・リング上のソリッド・ビジョンの『トライホーン・ドラゴン』は攻撃力こそ1650だが、細菌により体中を侵され、まともには戦える状態ではない。

皮膚は溶け出し、片手をついた状態。

流石に西原もそろそろ守備表示に変えるだろう。

西原「（トライホーン・ドラゴンがかなり危ない状態になっている…次のターンで守備表示に変更しないと…）」

スネオも西原が『トライホーン・ドラゴン』を守備表示に変更することは大体察していた。

スネオ「（そろそろ限界だ…攻撃力が2000を下回り、下級モンスター並になっている…守備表示になる前に！このドローカードに全てを賭ける！）ドロー！！」

まさに、絶体絶命のときにスネオはそのカードを引いた。

ドローカード

死者蘇生

『死者蘇生』のカード…

まさに起死回生の一手だ。

死者蘇生    スーパーレア

通常魔法

自分、相手の墓地からモンスターを蘇生させ味方にする。

スネオ「死者蘇生を発動！！蘇らせるモンスターは……」

西原「（ここでそんなカードを引くなんて……なんと云う強運……）」

スネオ「ホーリー・ナイト・ドラゴン……！」

墓場から姿を現した白き聖竜。

生き返った『ホーリー・ナイト・ドラゴン』は、細菌に侵された『トライホーン・ドラゴン』などとは比べ物にならないほど強力なオラを放っている。

西原のモンスターは現在、攻撃力1650の『トライホーン・ドラゴン』だけ……

そして西原のライフは600。

『ホーリー・ナイト・ドラゴン』の攻撃で西原はライフを完全に失う……！！

安雄「この攻撃でスネオ君が勝つよ……！」

ジャイアン「やったああ……！勝ったぜ……！！」

のびた「うん……！これであの城に入ることができるよ……！」

スネオ「勝った！！ホーリー・ナイト・ドラゴン！！！！攻撃だ！！  
セイント・フレア・バースト！！」

今日の最強カードは『トライホーン・ドラゴン』。

トライホーン・ドラゴン ウルトラレア

闇属性 ドラゴン族 レベル8

攻撃力2850 守備力2350

攻撃力2850のドラゴン族モンスターだ!!

単体のドラゴンでは、最強の『青眼の白龍』に次ぐ攻撃力を持っているぞ!!!



**T U R N - 2 4 決着！！（前書き）**

さあ、スネオはどうなるのか？

この勝負の決着は？

一体どうなるのか！？



どこか威圧的な感じがした。

先ほどのモンスターの融合時に発生した光とはまた違う光…

破壊的な光だ…

のびた「うわ！」

ドラえもん「眩しい！」

しばらくして、光が収まってきた。

これで、西原を倒し、スターチップは10個。

ついに城へ入ることができる！

だが、

のびた「え！？」

静香「なんで！？」

ジャイアン「こいつは…」

安雄「一体…」

ドラえもん「これは…」

その結果は予想外なものだった…

スネオのライフ  
9500

スネオ「な……んで……」

何故自分のライフが0になっているのか、スネオは理解できなかった。

たしかに『トライホーン・ドラゴン』を攻撃し、ライフを0にしたはずなのに……

西原「僕は攻撃される時にこのカードを使ったんだ……」

西原はカードを1枚、スネオに見せた。

西原「あまのじゃくの呪いのカード!!」

あまのじゃくの呪い ノーマル  
通常罠

ターン終了時まで、攻撃力、守備力のアップ、ダウン効果は逆に作用する

スネオ「あまのじゃくの呪い!?!」

西原「このカードにより、細菌感染の効果が逆になり、トライホーン・ドラゴンの攻撃力が1650から4050へとアップし、ホーリーナイト・ドラゴンを返り討ちにしたんだ!!」

『トライホーン・ドラゴン』の攻撃力  
攻撃力1650 4050

先ほどまで、細菌により体中を侵されていた『トライホーン・ドラゴン』はすっかり回復していた。

溶け出していた皮膚も治り、召喚したときよりも強力な力を放っているようだった。

スネオ「そんなカードが…でも一体、いつの間にそんなカードを伏せていたんだ…」

この数ターン、西原はカードを伏せていなかった。

いや、正確には伏せてもすぐ使っていたので後のターンに伏せカードが残らなかったのだ。

しかし、

西原「このカードはあのターンに伏せたカードだよ」

西原「僕はビックバン・ドラゴンを召喚！ドラゴン・イレイサー竜破壊の剣を持つエルフの剣士に攻撃！！」

スネオのライフ

1400 1300

西原「僕はカードを2枚伏せてターン終了」

スネオ「あの時の……」

スネオの血の気が全身から引いていった。

デュエルに負け、スターチップを全て失ったのだ。

それとは対照的に、

西原「この勝負、僕の勝ちだ！！スターチップ2個は貰っよー！」

スネオ「うん……」

西原の表情は歓喜に満ちていた。

デュエルリングから降りたスネオは、スターチップを西原にわたし

た。

二人がデュエルを始めたとき日はまだ高く上っていたが、いつの間にか日は傾き夕方になっていた。

敗者は勝者にスターチップを渡す。

この『決闘者の王国』のルールだ。

しかし、いざ渡すとなると名残惜しいもの。

あと少しで城に入れるときに負けたので当然だろう。

スネオ「ほら、スターチップ…2個」

西原はスネオから貰ったスターチップをデュエルグローブにはめた。

西原「これで10個…城に入れる…これで…」

しかし、そんな西原とは逆にスネオは声を殺して泣いていた。

スネオ「（なんで…なんで負けたんだ…どうしていつも肝心なときばかり…）」

そして、

スネオ「いけよ…」

西原「え…」

スネオが小声で言った。

スネオ「行けって言っているんだよ！！城に入れなくなるぞ！」

西原「……………」

先ほどとは打って変わり大声で叫んだ。

スネオ「僕がスターチップを渡したんだからな！さっさと行ってこいよー！！」

西原「……………うん！わかったよ！いつてくる！」

西原はそう言い残して走り去っていった。

城へ向かって走っていくその姿は、非常に印象深かった……………

スネオ「……………」

のびた「スネオ…帰ろうよ……………」

のびたが言った。

スネオ「……………」

スネオは黙ってうなずいた。

空は、夕日で真紅に燃え上がっていた……………



『決闘者の王国』から帰り、ドラえもん達は元の生活に戻っていた。

あの戦いが嘘のようだ。

ここ、のびた達の教室では帰りの挨拶をしていた。

先生「それでは皆さん、さようなら」

生徒達「さようなら」

一礼も終わり、生徒達は少しずつ教室を後にしていった。

のびたも、家に変える準備をしているところだ。

のびた「えっとこれと、これが宿題だったっけ…あれ？ノート、どこだっけ？」

その時、

ジャイアン「おーい、のびたー、一緒に帰ろうぜー」

のびた「ちょっと待ってよ〜」

スネオ「今日は新しいカードパックの発売日だぞ！早くしないと売り切れちゃうよー!!」

ジャイアン「先に行ってるぞー!!」

のびたを残し、ジャイアンとスネオは行ってしまった。

のびた「そっだ！今日だった!…えっとこれと、これとこれでよし！待ってよ〜」

のびたは、急いで後を追いかけていった…



スネオたちの戦いは終わった…

否、これは始まり…

後の戦いの幕開けに過ぎない…



今日の最強カードは『あまのじゃくの呪い』

あまのじゃくの呪い ノーマル  
通常罫

ターン終了時まで、攻撃力、守備力のアップ、ダウン効果は逆に作用する

モンスターの能力を変化させるトリッキーなカードだ。  
自分のモンスターを強化する装備魔法を相手につけたり、相手モンスターを弱体化する装備魔法を自分のモンスターに付けると効果的だぞ！



## TURN - 24 決着！！（後書き）

ついに最終話を迎えました。

途中いろいろありましたが、無事に終わることができてよかったです！！

現在、続編を考案中なので楽しみにしていってください！！

それと、全く別の小説に登場させる（予定）のカードを少し紹介します。いつか書くのでそのときは見てください。

大地の騎士ガイアナイトノバスター

地属性 戦士族 レベル8

攻撃力3000 守備力2500

効果

このカードは通常召喚できない。

「バスター・モード」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

自分のターンに1度だけ、次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスター1体をゲームから除外する。

この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、

もう1度だけ続けて攻撃を行う事ができる。

また、フィールド上に存在するこのカードが破壊された時、

自分の墓地に存在する「大地の騎士ガイアナイト」

1体を特殊召喚する事ができる。

「大地の騎士ガイアナイト」を操るデュエリストを主役とする小説

です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0918e/>

---

ドラえもん のび太と決闘者《デュエリスト》達

2010年12月23日21時05分発行